

中国語母語話者の二字漢字語の受容における母語の影響

－ 母語知識の利用に着目して －

一橋大学大学院

言語社会研究科

博士論文

言語社会専攻研究者養成コース

陳 夢夏

# 目 次

第1章 序論 .....	1
1.1 本研究の背景と目的 .....	1
1.2 本研究で扱う用語の定義 .....	4
1.3 研究方法 .....	8
1.4 本論文の構成 .....	9
第2章 日中漢字語の意味対応関係 .....	12
2.1 日中両国語における漢語・漢字語 .....	12
2.2 漢語・漢字語のみの意味分類 .....	13
2.2.1 分類の内容 .....	14
2.2.2 先行研究の問題点 .....	22
2.3 その他の分類 .....	24
2.3.1 和語も含めた分類 .....	24
2.3.2 「中国語相当語」と「～に相当する中国語」 .....	29
2.3.3 先行研究から得た示唆 .....	30
2.4 新しい枠組みの必要性 .....	31
第3章 従来の意味対応関係に基づく研究 .....	32
3.1 学習者の中間言語を見る研究 .....	33
3.1.1 先行研究の内容と問題点 .....	33
3.1.2 先行研究の手法的限界 .....	43
3.2 意味推測の研究 .....	45
3.2.1 先行研究の内容と問題点 .....	45

3.2.2	先行研究の手法的限界.....	50
3.3	認知処理過程の研究 .....	51
3.4	既存の辞書とデータベース .....	52
<b>第4章</b>	<b>既存の枠組みと手法に基づく探索的調査（調査1） .....</b>	<b>55</b>
4.1	調査目的 .....	55
4.2	調査概要 .....	57
4.2.1	調査対象者 .....	57
4.2.2	漢字語の選別 .....	57
4.2.3	問題文の出典 .....	59
4.2.4	手続き .....	60
4.3	分析と結果 .....	62
4.3.1	手がかりの内容とパターン .....	62
4.3.2	手がかりと学習環境 .....	67
4.3.3	語のタイプ、手がかりのパターンと正答率 .....	71
4.3.4	文脈の長さについて .....	75
4.3.5	文脈の内容について .....	75
4.4	考察 .....	78
4.5	まとめ .....	82
<b>第5章</b>	<b>日中対照分析の枠組みの提案 .....</b>	<b>83</b>
5.1	新たな枠組みの提案 .....	83
5.1.1	Nothing in Japanese Orthography という視点 .....	83
5.1.2	意味ごとに対応関係を検討した新しい枠組み .....	84
5.2	分類作業の試み.....	87

5.2.1	作業の進め方	87
5.2.2	分類の結果	89
5.3	まとめ	91
<b>第6章</b>	<b>新たな枠組みに基づく質的調査（調査2）</b>	<b>92</b>
6.1	調査目的	92
6.2	調査内容	93
6.2.1	調査方法	93
6.2.2	調査対象者	93
6.2.3	調査対象語及び調査材料	93
6.2.4	手続き	95
6.3	分析方法	96
6.4	結果	99
6.4.1	正確さについて	99
6.4.2	ストラテジーの使用について	101
6.5	考察	104
<b>第7章</b>	<b>新たな枠組みに基づく量的調査（調査3）</b>	<b>105</b>
7.1	調査目的	105
7.2	調査方法	106
7.3	調査概要	111
7.3.1	調査対象者	111
7.3.2	調査対象語	111
7.3.3	調査材料	113
7.3.4	予備調査	116

7.3.5 手続き .....	117
7.4 分析と結果 .....	118
7.4.1 分析方法 .....	118
7.4.2 語彙学習の効果 .....	119
7.4.3 L2 能力、語のタイプと知識レベルの影響 .....	119
7.4.4 語のレベル、語のタイプと知識レベルの影響 .....	123
7.5 考察 .....	126
<b>第8章 総合的考察</b> .....	<b>129</b>
8.1 結果のまとめと総合的考察 .....	129
8.2 本研究の意義 .....	136
<b>第9章 終章</b> .....	<b>138</b>
9.1 本論文のまとめ .....	138
9.2 日本語教育への応用 .....	142
9.3 今後の展望 .....	144
引用文献 .....	145
参考文献 .....	153
調査資料 .....	155
付記 .....	156
資料Ⅰ（調査1の質問紙） .....	156
資料Ⅱ（調査2の質問紙） .....	160
資料Ⅲ（調査3の「正誤判断テスト」） .....	161

資料IV (調査3の「読解テスト」)	165
資料V (分類の結果)	168
謝辞	196

## 第1章 序論

### 1.1 本研究の背景と目的

従来の漢字・漢字語教育研究の中では、漢字圏に属する中国の学習者は中国語の知識に頼り推測することができる点で、非漢字圏の学習者に比べて、有利であると同時に、多くの問題も抱えているということが知られている。

彼らは、漢字の読み（発音）と漢字表記をよく間違えるというのが現状であるが（郭 1989、鈴木 1985、鈴木 1989）、筆者が中国において日本語の授業を担当した時、意味・用法の不正確な知識が障害となりうることに気がついた。例えば、初めて教科書に出てきた「緊張」という単語を使って作文練習をした際、学生が「今週、勉強が緊張です。」という短文を作ったとする。これは、日中同形異義である「緊張」を中国語の〈紧张〉（忙しい）と理解したために起きた誤りである。また、「熱意あふれる」を「熱情あふれる」と誤った例もあった。

このような誤りは、河住（2005）によると、日本語としての漢字語に対する知識が不足していることが原因であり、さらに、藤山（2009）では、日本語の能力が高くなるまで日本語の語彙知識を用いるようにならないため生じるとされている。

日中漢字語には共通点があると同時に、さまざまな違いがある。その違いなどに関する注意喚起のために、今の中国では多くの大学が中上級の学習者を対象とする中日同形語などの授業を行っている。筆者の出身大学でも、教師が精読という授業で使われている日本語教科書の語彙リストに基づき、同じ中国語に翻訳できる語（例：「準備」「用意」「支度」いずれも中国語の〈准备〉に翻訳できる）などを取り上げ、短文の例文を利用して意味を説明していた。しかし、効果は満足のものではない。

質的な面の原因は、漢字語を学習する際の最適な文脈を無視する、ないしはその必要性に気づいていないところにあると言われている（川口 1989）。これに対しては、教材中の単独の例文の代わりに適当な全体の文脈がある補助教材を使うことが、その解決策になるだろう。

量的な面の原因は、限られた時間内では大量の語を習得することができないため、最終的な語彙習得を、学習者の自律学習に頼るしかない、というところにある。中上級まで上がっていくと、共通の重要な語彙に加えて、自分の専門についての語彙も大量に習得しなければならないので、その量的問題を克服できるような自律学習の促進は、指導上さらに重要な地位を占めることになるであろう。

漢字語の学習においては、漢字語を「文脈の中で学びたい」という学習者の声（濱川 2009）や、「文脈化させ明確に意味を説明する指導が重要である」という示唆（中西 2008）がある。文脈を通じた学習が有効な方法の一つであるということは、学習者、教師、研究者の間の共通の認識である。しかし、適切な文脈を通して、効果的に漢字語を学習する方法を示した研究は、あまり見あたらない。

そして、中国語話者を対象とする漢字語の習得研究においては、いまだに文化庁（1978）の分類が基盤となっている。しかし、多くの先行研究（荒川 1979、飛田・呂 1986、周 1986、岡 2002）で指摘されているように、その分類は現在の使用事実と対応しないところが見受けられる。

一方、中国語話者は全世界の日本語学習者の 70%以上を占めており、日本語教育にとって極めて重要な対象であるにもかかわらず、これまで、中国語話者のための習得研究はほとんどされてこなかった。

文法記述研究においては、効率的な言語教育のために（特に JFL 環境には）、学習者の母語を考慮した研究が必要であることが提唱されている。井上（2005）は日本語教育における学習者の母語を考慮する必要性について述べ、「学習者にわかりやすい日本語教育文法を考えるためには、学習者の母語を基準にして日本語の文法を考える必要がある」と主張している。そして、張（2011）が提唱した「対照研究、誤用観察、仮説検証」という「三位一体」の「仮説検証型習得研究」モデルを敷衍し、「母語の知識を活かした日本語教育」という、正の転移を積極的に活用することを推奨し、「母語でなら言えることを目標言語でも言える」ことを目指す考え方もある（庵 2015、2017、2018）。

特定の母語話者、特に中国語話者を対象とする語彙学習・語彙研究も上述の考え方と共通するところがあり、母語知識を利用して効率よく漢字語の学習を実現するためには、彼らの立場で考える日中対照研究と習得研究を行う必要があるのではないかと思われる



る。

以上の状況を踏まえ、本研究においては次の三点を研究の目的とする。

第一に、既存の日中対照分析の枠組みを検討し、これまで議論されてこなかった新たな観点を加え、より中国語話者の二字漢字語の習得に役立つ新しい枠組みを提案する。

第二に、既存の習得研究を検討し、意味推測研究と中間言語を見る研究をする際の、より適切な調査法を提案する。

第三に、新たな枠組みを用いて、改善された調査法を使用し、(1) 日本語習熟度、(2) 学習者の知識レベル、(3) ストラテジーの使用、及び(4) 語の習得難易度、という4点が二字漢字語の受容に与える影響を検討する。

## 1.2 本研究で扱う用語の定義

本研究で使われる学術用語及びその定義について述べる。

### ・「漢語」と「漢字語」

『言語学大辞典』は、「漢語」について、「中国では中国語のことをいう。日本では、漢字 (Chinese character) で記される中国語起源の単語を漢語といい、また漢字語とも言われる。この漢語に対して、日本語固有の単語を「和語」あるいは「やまとことば」と呼ぶ」と述べている。

日本語の語種<sup>1</sup>は大きく、「漢語」、「和語」、「洋語」<sup>2</sup>、「混種語」に分けられる。「漢語」とは上述のような漢字で記される中国語起源の単語であり (例: 軍、成功)、「和語」とは日本語における本来語であり (例: 目、こと、さかな)、「洋語」は漢語以外の外来語であり (例: スカート、ゴム)、「混種語」とは和語、漢語、洋語のうち、2種類を組み合わせて作った単語である (例: 台所、生ビール、あんパン、ミキサー車)。

研究によって使われている学術用語が違う。

例えば、従来の日中対照研究は「漢語」を対象としたものが多い。陳 (2009b) は、「漢語」と漢字表記の和語 (強気、買い物) を「漢字語」という用語に統一した。

藤山 (2011) は漢字音読語を「漢語」と定義し、それ以外のもの (和語、漢字訓読語、湯桶読み、重箱読み、混種語) を「漢字語」と定義した。それぞれの例を挙げると、「和語」買う、美しい; 「漢字訓読語」小柄、勝手; 「湯桶読み」強気、弱気; 「重箱読み」気軽、無口; 混種語「大雑把」「意地悪」。

小室 (2015、2019) は、和語・漢語を区別なく、漢字表記の語に「単漢字語 (漢字一字で構成)」と「複漢字語 (漢字二字以上で構成)」という用語を用いた。つまり、語構成に仮名が必要であるかどうかを問わず、「本」「休み」のような、構成に漢字一字を含む語を「単漢字語」とし、「銀行」「面白い」「女の子」のような、構成に漢字二字を含む語を「複漢字語」とした。

---

<sup>1</sup> 「語種」というのは、単語の出身のことを言い、もともとある「本来語 (固有語)」と「外来語 (借用語)」に分けられる。

<sup>2</sup> いわゆる、一般的に言う「外来語」のこと。漢語が本来語でも外来語でもない第三の語種という考えに従い、多くの研究は「外来語」を「洋語」のみを表すものとして用いるが、本研究は斉藤・石井 (2011) と同じ、「外来語」ではなく「洋語」を用いる。

本研究では、漢字形態素のみから構成される語を「漢字語」と称し、そのうちの漢字音読語を「漢語」と称する。よって、本研究での「二字漢字語」とは2つの漢字形態素のみから構成する語であり、「二字漢語」とはそのうちの漢字音読語である。

#### ・「中国語」

「中国語」には、周知のように、簡体字が使用されている中国大陸の中国語（普通話）と、繁体字が使用されている香港、マカオ、台湾、東南アジア地域の中国語（国語）がある。

本研究での調査はすべて中国大陸での日本語学習者を調査対象としたので、「中国語」を中国大陸の中国語（普通話）という意味で用い、「簡体字」で表記することにした。同じ中国語であっても中国大陸と台湾、香港では意味が異なる可能性があるため、台湾など、中国大陸の中国語と違う場合のみ、「台湾の中国語」のように、「中国語」の前に地名を入れた用語を用いて具体的に述べる。

#### ・「同形語」

一般的には、「漢語」の一部であり、日本語と同じ漢字二字の組み合わせによる音読みの語を「同形語」と呼ぶことが多い（文化庁 1978、大河内 1992）。すなわち、多くの研究は「日本語と中国語の同一表記による漢語のこと」という概念を採用している。

本研究では、字体を考慮せずに<sup>3</sup>、日本語と中国語の両方の言語に存在する二字漢字語を「同形語」と定義する。

#### ・「意味」と語彙知識

語彙知識の構成概念として、これまでは、(1) 広さ (breadth)・深さ (depth)、(2) サイズ (size)・構成 (organization)、(3) 広さ・深さ・流暢さ (fluency) などが提案されてきたが、語彙習得研究で広く用いられる Nation (2001) の枠組みがある。Nation氏は語の知識を語形（綴り、発音など）、意味（概念・指示対象など）、使用（共起・使

---

<sup>3</sup> つまり、共通の康熙字典体から派生した字体は同形として扱う。康熙字典体は旧字体を含む字体であり、中国語の繁体字とも共通である。例えば、康熙字典体「澤」から派生した日本語漢字「沢」と中国語漢字〈泽〉は同形と見なす。

用制限など) に大きく分け、さらに理解知識 (receptive knowledge) と産出知識 (productive knowledge) に分けている。表 1-1 はそれを改編したものである。

表 1-1 語の知識の捉え方

語の知識		受容知識 (receptive knowledge)	産出知識 (productive knowledge)
形式	話しことば (音声)	どのように聞こえるのか	どのように発音するのか
	書きことば (綴り)	どのような形なのか分かる	どのような形で書くのか
	語構成要素	その語はどのような構成要素からなっているのか分かる	必要な構成要素を使って、その語を作ることができる
意味	形式と意味	その語の形式はどのような意味を持つのか分かる	ある意味を表現するために、どのような形式が使えるのか分かる
	概念と指示物	その語の概念には、何が含まれているのか分かる	その概念を適切な語形で表すことができる
	連想	その語から関連する他の語を連想できる	その語の代わりに別の語を使って表すことができる
使用	文法上の機能	その語はどんな文型で出現するのか認識できる	その語を適切な文型で使える
	共起	その語はどんな語と共に出現するのか認識できる	その語を適切な語と共起させて使える
	使用制限	その語が適切な場面や時に使われているのか認識できる	その語を適切な場面や時に使える

(Nation2001、2013、中村 2004、吉澤 2016 により筆者作成)

「語の意味」の中の「意味」という用語は、研究によって捉え方が違い、表 1-1 の概念を借りて言うと、「形式と意味」を指す研究もあり、「概念と指示物」を指す研究もあり、さらに「意味」と「使用」を指す研究もある。本研究で使う「意味」という用語は、用法も含み、すなわち表 1-1 の「意味」・「使用」の理解知識のことを指す。

#### ・「学習」と「習得」

日本語で「学習した」というとき、学習者が何かを学ぶ過程を経たことを言う場合と、学んだ結果何かを身に付けたことを言う場合がある。

第二言語習得理論において、Krashen (1981) は、「学習 (learning)」は意識されたプロセスを経て知識を持つに至ること、「習得 (acquisition)」は無意識のプロセスを経て知識を持つに至ることと厳密に区別している。それに対して Ellis (1994) は、学習者の知識が学習されたものか、習得されたものかを厳密に見極めるのは困難であるとし、区別しないで使用している。

本研究では主に「習得」を使うが、7 章においては、学習者が読解活動という「学習」過程を経た結果、ある語の意味を自分の知識として身に付けたことを「習得」と言う。なお、本研究で言う「習得」は、産出を含んでいない、受容のみの過程で「無意識のプロセスを経て知識を持つに至る」ことである。

#### ・「CLJ」

本研究では中国語を母語とする日本語学習者 (Chinese Learners of Japanese) を指す。

#### ・「CNS」

本来は、日本語学習歴の有無に関わらず、中国語話者 (Chinese Native Speaker) を指すが、本研究では日本語学習歴なしの中国語話者を指す。それに対し、日本語学習歴のある中国語話者は「中国語を母語とする日本語学習者」ということであり、本研究では「CLJ」と称する。

#### ・「JLC」

本研究では、日本語を母語とする中国語学習者 (Japanese Learners of Chinese) を

指す。

・「**JNS**」

本来は、全ての日本語話者（**J**apanese **N**ative **S**peaker）を指すが、本研究では中国語学習歴なしの日本語話者を指す。

・「**ELJ**」

本研究では、英語を母語とする日本語学習者（**E**nglish **L**earners of **J**apanese）を指す。

・「**JSL**」と「**JFL**」

「**JSL**」（**J**apanese as a **S**econd **L**anguage）は第二言語としての日本語であり、「日本国内で生活に使う言葉として学ばれる日本語」（大関 2010:89）を指す。一方、「**JFL**」

（**J**apanese as a **F**oreign **L**anguage）は外国語としての日本語であり、「海外の学校での外国語科目として学ぶ場合」（大関 2010:90）の日本語を指す。

本研究では、日本語を母語としない、日本に居住しながら日本語を学習するは第二言語学習者を「**JSL** 環境の学習者」と呼び、日本以外の国に居住しながら日本語を学習するは第二言語学習者を「**JFL** 環境の学習者」とする。

### 1.3 研究方法

本稿の研究方法は（1）文献調査、（2）対象者の内省の調査、および（3）質問紙調査の3つから成り立っている。後節で述べる1～8章のうち、2章、3章と5章は文献調査に基づくものである。4章は発話思考法（think aloud）という方法を用いて対象者の内省を調査した。6章は「口頭訳テスト+フォローアップインタビュー」という方法を用いて対象者の内省を追加調査した。7章はアンケートという方法で質問紙調査を行った。

#### 1.4 本論文の構成

以下では、目次における各章立てについて、どのような内容を記述するのかについて述べていく。

第1章「序論」では、本研究の背景と目的、用語の定義、及び構成について述べる。

第2章「日中漢字語の意味対応関係」と第3章「従来の意味対応関係に基づく研究」では、これまでの二字漢字語における日中対照研究、または既存の対照研究に基づいた習得研究、データベースなどを概観し、そこから先行研究の問題点、知見を紹介する。

第4章「探索的調査」では、既存の最も新しい枠組みを使用し、二字漢字語の理解難易度、使われたストラテジーの内容、学習環境との相関、提示された文脈の長さ・内容など、いくつかの側面から、書き言葉における未習漢字語の意味推測の実態について述べていく。

第5章「日中対照分析の枠組みの提案」では、第2章で概観した先行研究の結果と第4章の調査結果を踏まえ、中国語話者への日本語教育という立場から考えた二字漢字語の新たな枠組みの提案を行う。

第6章「質的調査」では、第5章で提案した新たな枠組みに基づき、未習語・既習語別に、中国語を母語とする日本語学習者による二字漢字語の受容の実態を質的調査を用いて究明する。

第7章「量的調査」では、第6章と同じく新しい枠組みに基づき、習熟度別、そして未知・既知別に、中国語を母語とする日本語学習者による二字漢字語の受容の実態を量的調査を用いて究明する。

第8章「総合的考察」では、第4章、第6章、第7章、三つの章の結果をまとめ、総合的考察を行った上で、これまでの研究に対して、本研究がどのような価値のあるもの

であるのか、独自性がどのような点にあるのかということについて記述していく。

第9章「終章」では、本研究全体の要約、及び日本語教育への示唆を述べ、さらに今後の課題について考える。

次に本論文の流れを図示する。



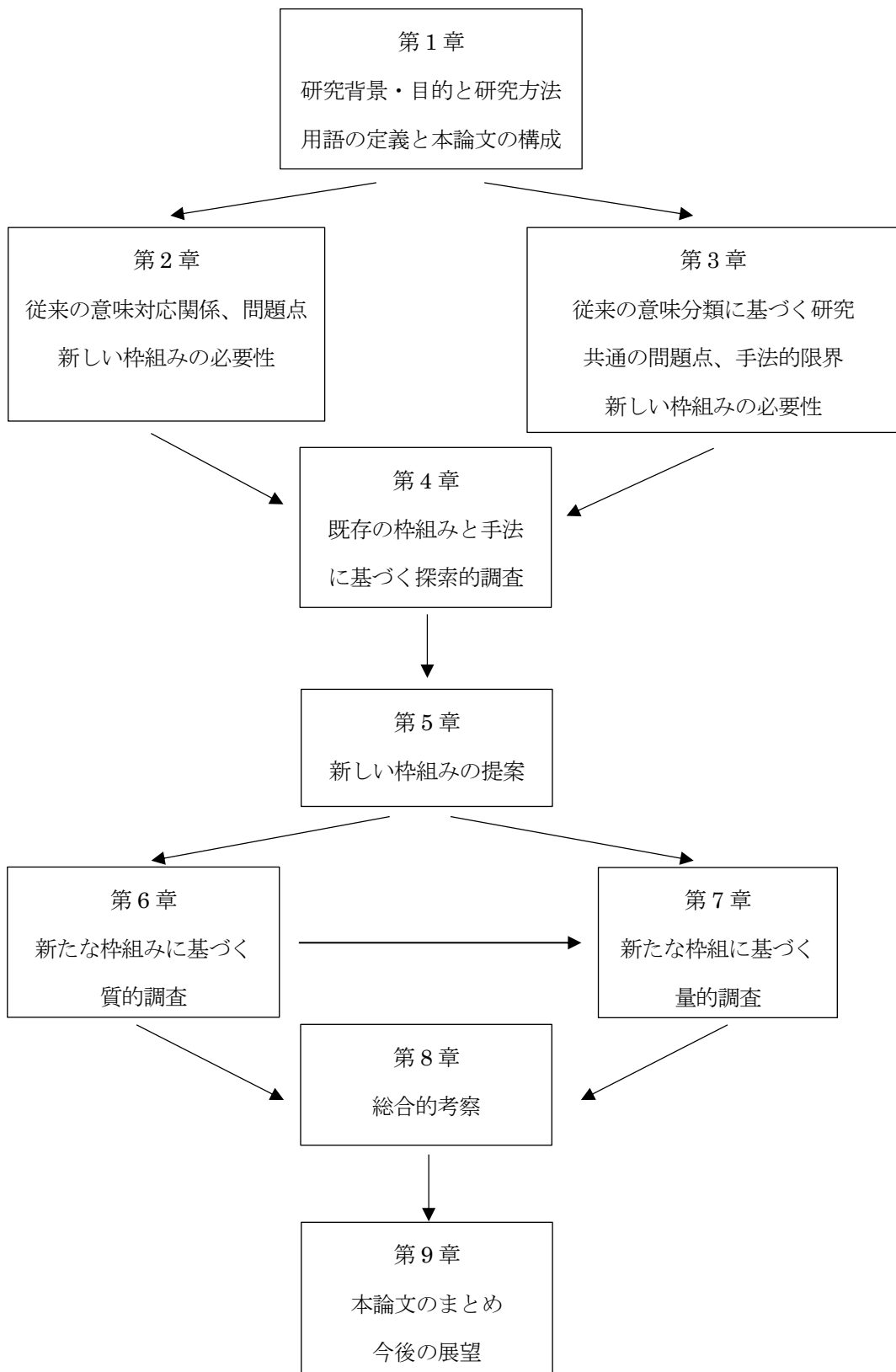


図 1-1 本論文の構成図

## 第2章 従来の日中漢字語の意味対応関係

### 2.1 日中両国語における漢語・漢字語

日本最古の歴史書、『日本書紀』と『古事記』によると、漢字は三世紀前後中国から日本に伝わってきたものである。日本社会は徐々に漢字を受け入れ、吸収し、日本文化と融合させていった。そして、漢字を使うとき、本国の要求によって一部の漢字を改造した。

それに対して、漢字語の起源を述べたものは、望月(1974)、潘(1993)、荒川(1998)、荒川(2018)、陳(2019)があり、それらの研究から、漢字語は必ずしも中国から伝わってきたわけではないことがわかった。

日中同形異義語の存在について、潘(1995)は、借用、時代、生活変化によって漢字語自体が変化していることと、読みなどの漢字語以外の要素によって変化していることが原因であると述べている。その変化の傾向について、曹(1992)は「意味の具体性と抽象化」「価値的意味合いの相違」「意味の本義と転義における相違」「意味の全く異なる漢字語」という4点にまとめている。

意味のほか、構造、品詞などの面においても、日中漢字語が異なるところが多く存在するため、日本語の漢字語の構造を究明する研究(荒川1986、荒川1988、中川1992a、荒川2002、荒川2007、野村2013)、日中漢字語の品詞の違いを究明する研究(石ほか1983、中川1985、中川1992b、中川1995、侯1997、張2014)も多くされている。

2.2節～2.4節では、従来の漢字・漢字語のみの意味分類と和語も含めた分類を紹介し、その問題点と知見を考察した上で、新しい枠組みを提案する必要性を述べる。

## 2.2 漢語・漢字語のみの意味分類

日中対照の意味分類に関する研究は、文化庁(1978)が代表的な研究と言える。他に、意味対応関係の捉え方によって異なる分類を提案した研究(大村 1965、野沢 1970、三浦 1984、上野・魯 1995、陳 2009a)もあるが、漢字語習得研究にもっとも広く応用されてきたのは文化庁(1978)、三浦(1984)、陳(2009a)の枠組みであり、三浦(1984)も陳(2009a)も文化庁(1978)をベースにした分類である。

しかし、文化庁(1978)の分類は、辞書ベースの分類であり、語ごとの日中両国語の意味を全部知っていることを前提とした分類である。それは、日中両国語ともネイティブレベルの人にとっては意味があるかもしれないが、日本語を学習中のCLJはある語についての日中両国語の意味を全て知っているわけではないので、CLJの習得研究には適用されにくいと考える。

そこで、本節では、習得研究では文化庁(1978)、三浦(1984)、陳(2009a)を中心に従来の意味対応関係の分類を紹介し、その問題点を考察する。

## 2.2.1 分類の内容

### ・文化庁（1978）の分類

日中対照の意味分類における代表的な研究である文化庁（1978）は中国語と対応する初級・中級の漢字音読語を取り上げ、意味対応関係を記述した。

具体的には、3種類<sup>4</sup>の教科書から、2種類以上の教科書に扱われている約2000語の漢字語を選択し、『現代日中辞典』<sup>5</sup>と『現代日中辞典増訂版』<sup>6</sup>を利用し、以下の表に示すように、Same【S】<sup>7</sup>、Overlap【O】、Different【D】、Nothing【N】、という4タイプに分類した。その結果、Sは52.2%、Oは9.7%、Dは25.7%、Nは12.4%を占めている。

表 2-1 文化庁（1978）の分類

漢字語 のタイプ	定義	語例	日中意味 対応関係 <sup>8</sup>
Same【S】	意味が同じか、 またはきわめて近いもの	生物、化、講（じる）	日＝中
Overlap【O】	意味が一部かさなっているが、 両者の間にずれのあるもの	往復、円	日～中
Differen【D】	意味が著しく異なるもの	新聞、楽	日≠中
Nothing【N】	中国語に存在しないもの	我慢、喫茶店、番	φ日

<sup>4</sup> 早稲田大学語学教育研究所編『外国語学生用日本語教科書』初級・中級、国際基督教大学編『Modern Japanese for University Students』I・II・III、長沼直兄編『標準日本語読本』I・II・III・IV・V、という3種類の教科書である。

<sup>5</sup> 香坂順一他編『現代日中辞典』光生館

<sup>6</sup> 香坂順一・太田辰夫共編『現代日中辞典増訂版』光生館

<sup>7</sup> 【】内は本研究における呼称である。

<sup>8</sup> この列は本研究における日中意味対応関係の記号である。

例<sup>9</sup>を具体的に説明すると、S語に属する「生物」は、中国語でも日本語でも「いきもの」という意味である。O語に属する「往復」は、日本語にも中国語にも「行ったり来たり」という意味があるが、日本語の「往復切符」の「往復」は中国語では<来回><sup>10</sup>と翻訳される。Dに属する「新聞」は、中国語では「ニュース」という意味である。Nに属する「我慢」は中国語に存在せず、中国語では<忍受>（我慢する）と翻訳される。

文化庁（1978）に対する批判は少なくない（荒川 1979、飛田・呂 1986、周 1986、大塚 1990、林 2002）。最も批判されているのは分類が正確ではないという点である。例えば、「意味」はNに分類されているが中国語にも存在し、「地方」はS語に分類されているが、<工作的地方>（勤め先）という中国語独自の意味もあるため、O語へ変えるべきだと言われている（荒川 1979）。また、叶（2015）は文化庁（1978）と王（2001）<sup>11</sup>を比較し、両者で分析結果のずれが生じる例として、前者ではN語、後者ではS語になっているものを68例、前者ではN語で、後者ではO語となっているものを35例、前者ではN語、後者ではD語となっているもの13例挙げている。

こうした批判が起きるのは、辞書に載っていないからといってその語が中国語に存在しないとは言い切れないからだと考えられる。

そして、文化庁（1978）の定義において、「意味が同じか、またはきわめて近いもの」であるS語は、日中辞典と中日辞典での意味記述が一致する、ということになるが、共起語まで考えると、「S語も中国語とズレがあることがある」と小森ほか（2012:50）が主張した。例えば、S語に分類された「整理」という語は、両方の辞書で「乱れたものを秩序正しく整理する」という語義を有するが、中国語では<整理头发>（髪の毛を整理する）と言えるに対して、日本語では「髪の毛を整理する」とは言えない。

そのため、具体的な文脈で考える必要があると筆者は考える。

---

<sup>9</sup> 例文は文化庁（1978）から抜粋したものである。

<sup>10</sup> 日本語の語彙は「」で、中国語の語彙は<>で囲んでいる。

<sup>11</sup> 王（2001）は『現代国語辞典』の77000語を対象に、大規模な日中同形語調査を行った。

・ 三浦（1984）の分類

三浦（1984）は、日中両国語の意味領域に重なる部分がある日中同形語をさらに検討し、文化庁（1978）の O 語の下位分類を提案したものである。具体的に、O 語と D に相当する日中同形語の 1063 語を抽出し、さらに Overlap I 【O I】、Overlap II 【O II】、Overlap III 【O III】、Different 【D】、という 4 種類に分類した。

表 2-2 三浦（1984）の分類





漢字語 カテゴリー	定義	語例	日中意味 対応関係
Overlap I 【O I】 	意味がある程度重複しているが、中国語の方が意味範囲が広い単語	意見	日 < 中
Overlap II 【O II】 	意味がある程度重複しているが、日本語の方が意味範囲が広い単語	現金	日 > 中
Overlap III 【O III】 	意味がある程度重複しているが、日本語には中国語にない意味があり、中国語には日本語にない意味がある単語	単位	日 > < 中
Different 【D】 	意味がかなり又は非常に違う単語	新聞	日 ≠ 中

表 2-2 の例を用いて以下 O I、O II、O III という分類の内容を詳しく説明する。

O I 語の場合は中国語の独自義がある。例えば、中国語の <意見> には、<意見甚深>（意見の食い違い）の <意見> という意味のほか、<大家对你意见很大>（人々は君に不満を持っている）の <不満、批判> という意味もある。

○Ⅱ語の場合は日本語の独自義がある。例えば、「キャッシュ」という意味の「現金」は中国語でも〈現金〉の意味で用いられるが、日本語の「現金な人」のような使い方は中国語にはない。

○Ⅲ語の場合は日本語と中国語それぞれに独自義がある。例えば、「数量の基準」という意味の「単位」は中国語でも同じように用いられる。しかし、日本の大学生が「あと3単位で卒業できる」などという時の「単位」は中国語では〈学分〉といい、中国人が〈他是哪个单单位的？〉（彼はどこで働いていますか）という時の〈単位〉は日本語では「職場」と言う。

#### ・大村（1965）と野沢（1970）の分類

大村（1965）は、総合的網羅的に日中漢字語の意味領域の関係を把握することを目的として、次の7タイプに分類している。

- (1) まったく同一、または、きわめて近いもの。例：愛情、汗、新しい
- (2) 意味領域は同じだが、中国語では古典の用法に近い表現。あるいは、現代中国語では、一字では使われないが、中国人が見れば、意義内容だけは理解できるもの。例：兄、一度、悲しい
- (3) 日本語と同じ意味をもつが、中国語では同時に他の意味をあわせもつもの、あるいは逆に中国語では日本語のもつ意味領域の一部分しかもたないもの。例：暑い、活動、花瓶
- (4) 類似はしているが、日本語と中国語では、意義内容または語感がかなりずれるもの。  
例：青、安心、田舎
- (5) 現代中国語にこういう語彙はないが、日本語漢字語の造語構造を分解再構成し、類推によって中国人にもほぼ正確な意味が取れるもの。例：秋休み、朝飯、医者
- (6) 中国語にこういう語彙がなく、中国人には意味がわからないもの。例：嵐、歌手、元日、火曜日、思い出す
- (7) 日本語と中国語ではその意味がいちじるしく異なり、中国人に容易に誤解を生じさせるもの。例：段階、書く、顔色、足

参考にした辞書<sup>12</sup>が古い、分類そのものが今の時代に適用されにくい、和語が混在しているなどの問題が挙げられるが、「(5) (6)」はこれから述べる陳 (2009a) の N に関する下位分類のヒントになったと考えられる。

また、野沢 (1970) は「漢字語が中国語に存在するかどうか」「意味の対応関係」「CLJ が連想できるかどうか」という 3 つの観点から分類を行った。その内容を以下の表 2-3 で示す。

表 2-3 野沢 (1970) の分類

I 日本語と中国語に共通の漢字語が存在する場合
1. その意味が全く同一に対応するもの
2. 同じ意味を共有するが同時に他の意味も持つもの
イ. 日本語の意味を全て持つが中国語で同時に他の意味も持つもの
ロ. 中国語の意味を全てカバーするが日本語の意味領域の方が広いもの
ハ. 日本語、中国語とも共通の意味の他に他の意味も合せ持つもの
3. 共通の単語があっても中国語で他の意味を持つもの
II 日本語の漢字語と同一のものが中国語に存在しない場合
1. 日本語のその漢字語が中国語の他の漢字で置き換えられるもの
a. 全然意味の想像のつかないもの
b. 単語の語構成によって容易に誤解を生じさせるもの
c. 単語の語構成により日本語の持つ意味をほとんど正しく想像できるもの
2. 中国語の単語の中に日本語の単語の持つ意味がなく置き換え不可能のもの
b. 全然意味の想像のつかないもの
c. 単語の語構成により容易に誤解を生じさせるもの

(野沢 1970 に基づき筆者作成)

<sup>12</sup> 倉石武四郎 (1963) 『中国語辞典』岩波書店、陳濤主編 (1959) 『日漢辞典』商務印刷書館、西尾実、岩淵悦太郎 (1963) 『岩波国語辞典』



・陳 (2009a) の分類

陳(2009a)は、文化庁/三浦の枠組みを用いた習得研究(陳 2003、加藤 2005a、李 2006)から、O 語と N 語に関する分類基準の再考が必要であるという示唆を得て、「意味使用の一般性」と「意味推測可能性」という二つの概念を取り入れて、O 語と N 語をさらに Overlap①【O①】、Overlap②【O②】、Nothing①【N①】、Nothing②【N②】に分類した。

表 2-4 陳 (2009a) の分類<sup>13</sup>

漢字語の タイプ	日本語と中国語の 意味対応関係	語例	日中意味 対応関係
Same 【S】	意味が同じか、またはきわめて近いもの	生物	日＝中
Overlap① 【O①】	使用の一般性が高い意味が一致するもの	単位	日＋＝中＋
Overlap② 【O②】	使用の一般性が高い意味が不一致となるもの	夢中	日＋≠中＋
Different 【D】	意味が著しく異なるもの	新聞	日≠中
Nothing① 【N①】	中国語に存在しないが、漢字からの意味推測が可能なもの	既婚	φ 日・可
Nothing② 【N②】	中国語に存在せず、漢字からの意味推測が不可能なもの	我慢	φ 日・不可

「意味使用の一般性」は、語義の「親密度」に近い概念で、ある語のある意味に対して一般的に使用するか否かという母語話者の主観的な判断に基づいた基準であり、「意味推測可能性」は、構成要素の漢字から語義の推測ができるか否かという基準である。

<sup>13</sup> 「＋」は使用の一般性が高い意味であることを表す。「φ」は日本語に存在しない意味であることを表す。

例で説明すると、O①語に属する「単位」は日本語にも中国語にも「数量の基準」という意味があり、しかもどちらの言語でも使用の一般性が高い。一方、O②語に属する「夢中」は「夢の中」という意味が両言語に共通とされるが、中国語では使用性が高いのに対して、日本語では使用されることは稀である。

N①語に属する「既婚」は漢字の<既>（すでに起こっていること）と<婚>（結婚）から、「すでに結婚している」という意味に推測しやすい。しかし、N②語に属する「我慢」は漢字の<我>（私）と<慢>（おそいこと）から「耐え忍ぶこと」という意味に推測できない。

しかし、「意味使用の一般性」が低い意味・用法を取り上げることに実用的意味があるかどうかは検討すべきだと思われる。すなわち、「夢中」と<梦中>は、「夢の中」という意味が確かに両言語にもあるが、日本語では使用されることは稀であるため、取り扱う必要はないと考える。

#### ・上野・魯（1995）と王ほか（2007）の分類

上野・魯（1995）は日中同形異義語を扱い、次の3タイプに分類している。

##### 1. 意味・用法の異なる同形語

- <1> 意味・用法にほとんど関係のない同形語
- <2> 意味・用法にある程度のある関係のある同形語

##### 2. 意味・用法の近似している同形語

##### 3. 意味の一部分が共通である同形語

- <1> 日本語に他の意味がある同形語
- <2> 中国語に他の意味がある同形語
- <3> 日中両語とも他の意味がある同形語

文化庁/三浦の枠組みと比べると、「1.」はDと同じ、「3.」はOと同じ、「3.」の下位分類はOⅠ、OⅡ、OⅢと同じであるが、「2.」はSであっても語義に微妙な差違がある語を指す。

例えば、「医院」という語は、「日中両国語における意味が同じか、または、きわめて近いもの」という定義に相応しいので、文化庁（1978）ならSに分類されるべきところだが、日本の「医院」は個人経営の診療所であるのに対して、中国の〈医院〉の規模は比較的大きいので、上野・魯（1995）では「2.」に分類されている。

王ほか（2007）も上野・魯（1995）と同じ立場から、以下の定義で、1400組の日中同形異義語を「同」「近」「異」3つのタイプに分類している。

「語釈の前に、日本語・中国語の片方にしかその意味がない場合は「異」、双方に近い意味がある場合は「近」、同じ意味がある場合は「同」と記した。対にする一項目では、日本語と中国語の「異」「近」「同」が同じ順番になるように並べたが、全体を通しては、順番は一定していない」

（王ほか2007：V）

## 2.2.2 先行研究の問題点

以上、従来の漢語・漢字語の対照分析の枠組みを紹介した。代表的な研究である文化庁（1978）と比較しながら表 2-5 にまとめる。

表 2-5 従来の日中対照分析の枠組み

	中国語にある			中国語 にない
	意味が同じか、 きわめて近い	意味が重なる	意味が異なる	
文化庁（1978）	S	O	D	N
大村（1965）	(1)(2)	(3)(4)	(7)	(5)(6)
野沢（1970）	I の 1	I の 2 のイ I の 2 のロ I の 2 のハ	I の 3	II
三浦（1984）		O I、O II、O III	D	
上野・魯（1995）	2.	1.	3.	
王ほか（2007）	「近」	2.	「異」	
陳（2009a）	S	O①、O②	D	N①、N②

CLJ の立場から考えると、先行研究には 2 つの問題点があると思われる。

一つは、従来の枠組みが全て語ごとに日中の意味対応関係を議論してきた辞書ベースの分類であるという点であり、もう一つは「中国語にない」語を N 語とする視点である。

周知のように、日本語でも中国語でも、一つの語形は文脈によって複数の意味を持っている。語ごとの辞書ベースの分類は、その複数の意味を全て知っていることを前提とした分類である。それは、日中両国語ともネイティブレベルの人が超級の CLJ にとっては意味があるかもしれないが、日本語を学習中の CLJ はある語に関する日中両国語にある意味を全て知っているわけではないため、彼らには適用されにくいと考える。

そして、たとえ日中両国語ともネイティブレベルの人であっても、特定の文脈と遭遇した際に、その文脈に関係ないある語の全ての日本語の意味と中国語の意味をその場で思い出すことは極めて困難であろう。言い換えると、先行研究のように辞書ベースで語の意味と日中対応関係を全て知っているのなら、間違いが出ないはずだが、実際には間違いが出ているのは(河住 2005)、全部を知っているわけではない証拠だと考えられる。

また、これまでの分類は、二字漢字語を勉強する際に CLJ は母語知識を利用できる点で有利だとしておきながら、「中国語に存在しない」、言い換えれば CLJ の知識にない語を N 語とするという日本語母語話者の視点で分類を行なっていることにも問題があると思われる。

文化庁(1978:5)は「新たに外国語を学習する場合、母国語で得た知識が利用できれば、それだけで効果的だということもある。その立場で考えると、中国語を母国語とする者が日本語を学習する場合、漢字についての既習知識を利用すべきだということになる。これが、ここに“中国語と対応する漢語”を取り上げたそもそもの動機である」と述べているが、実際の枠組みは、日本語から見てその漢字語が中国語に存在するかどうか、すなわち「Nothing in Chinese Orthography」の分類である。

上述の文化庁(1978)と同じ立場で考え、CLJ の母語知識を利用するという観点から分類すれば、中国語に存在するかどうかではなく、日本語に存在するかどうか、つまり「Nothing in Japanese Orthography」という基準で分類すべきだと考える。

## 2.3 その他の分類

前節では漢語・漢字語を対象とする意味分類を概観した。それ以外に、「和語」を研究対象に入れた分類もあり、さらに、分類の形を取らずに日中対応関係を言及した研究もあるため、本節では、それらの内容、問題点と知見を述べていく。

### 2.3.1 和語も含めた分類

表 2-6 小室 (2015・2019) の分類

漢字語 のタイプ	定義	語例
転用プラス 【PT】	中国語に同形の語があり、 日本語と同じように使える語	「歌」「毎週」「ご飯」
転用注意 【CT】	中国語に同形の語あるいは語素があり、 日本語と同じように使える側面と使えない側面が共存している語	「朝」「曇り」 【CT-other】 「黒」「掃除」「晴れ」 【CT-gap】 「靴」「休み」 【CT-other & gap】
転用マイナス 【NT】	中国語に同形の語あるいは語素があるが、日本語と同じように使えない語	「机」「新聞」「奥さん」
転用不可 【UT】	中国語に同形の語あるいは語素がない語	「姉」「財布」「夏休み」

(小室 2015、2019 より筆者作成、  
「漢字語のタイプ」は小室 (2019 : 139) より抜粋)

小室（2015）は漢語だけでなく、和語や単漢字語も研究対象に入れ、「単漢字語」<sup>14</sup>と「複漢字語」<sup>15</sup>という概念を使って、CLJ が「母語知識を活用するかどうか」という観点から、『日本語能力試験出題基準』<sup>16</sup>に掲載されている4級語彙にある名詞、計294語を次の4タイプに分類している。各分類の定義を表2-6に示す。

その結果、単漢字語は110語であり（PT語30%；CT語55.5%；NT語11%；UT語5%）、複漢字語は173語である（PT語27.2%；CT語16.8%；NT語11%；UT語45.1%）。

例を用いて具体的に説明する。

PT語（転用プラス）に属する「歌」と「毎週」は、現代中国語に同形の語があり（〈歌〉と〈每周〉）、その意味・用法が日本語とおおむね共通するため、理解においても産出においても、CLJ が積極的に中国語の知識を活用できる（小室2019:141）。

CT語（転用注意）はさらに「CT-other語」（現代語の話し言葉では同形の中国語に代わる別語の使用が一般的な語群）、「CT-gap語」（同形の中国語との間に意味・用法のずれがある語群）、「CT-other&gap語」（CT-other語とCT-gap語の両方の特徴を持つ語群）、という3つのタイプに下位分類された。これらは母語知識を活用できるが、問題が生じる恐れがあるため、「転用注意」とされている。

CT-other語に属する「朝」は古代の中国語ではよく同じ「morning」という意味で〈朝〉が使用され、現代中国語でも四字熟語の中に残ってはいるのだが、〈早上〉〈早晨〉のほうがより一般的に使われている。つまり、「朝」に相当する中国語は〈早上〉〈早晨〉であるため、理解する時に中国語の〈朝〉をそのまま転用することが可能だが、産出するときには危険である。「午前」もCLJにとって意味の分かる語だが、現代語の話し言葉では使われず、代わりに〈上午〉という別の語が使われる。

---

<sup>14</sup> 漢語も和語も含め、漢字一字で構成する語、例：「水」、「休み」

<sup>15</sup> 漢語も和語も含め、漢字二字で構成する語、例：「銀行」、「面白い」

<sup>16</sup> 2002年の改訂版である。単漢字語小室（2015）が提案した意味分類に相応しいことと、初級から日中対応関係への注意喚起を望ましいという理由で選ばれた。

CT-gap 語に属する「黒」は日本語では名詞であるが、中国語では同形の<黒>は形容詞であるため、産出する時には注意が必要となる。そして、日本語の「掃除」は「部屋等の日常の片付け」を指すが、中国語の<掃除>は「大掃除や「(悪習などを)一掃する」という意味であるため、そのまま転用すると理解でも産出でも不適切などころがあると指摘されていた。日本語の「掃除」に相当する中国語は<打扫>であるため、母語知識を使うのならむしろ<打扫>を使うべきだと思われる。

CT-other & gap 語に属する日本語の「靴」は履物全般を指すが、同形の中国語<靴>は日本語の意味と異なり、丈の長いブーツなどを指す。「靴」に相当する中国語は<鞋>という語である。すなわち、日本語の「靴」と中国語の<鞋>は同じ意味で履物全般を指し、中国語の<靴>はそのうちの長いブーツのような履物のみを指す。「靴」と<靴>は意味の違いがあるが(この例では意味範囲が異なり、「靴」が<靴>より広い)、履物という共通の概念を表しているため、CLJ はその共通の概念を活かすことができる。

NT 語(転用マイナス)に属する「机」と「新聞」はそれぞれ desk と newspaper の意味であり、同形の中国語の<机>と<新闻>は中国語で使用されるが、それぞれ machine と news の意味であるため、そのまま転用するとマイナスの結果に繋がり、負の転移になる(小室 2019:145)。このことから、「転用マイナス」とされている。

UT 語に属する「財布」と同じ表記の<財布>という語は中国語に存在せず、「姉」は『康熙字典』に収録されているが現代中国では使われていないため、母語知識を活用することができない。つまり「転用不可」とされている。

文化庁(1978)との違いは、小室自身が述べているように、同形語の扱いと、S 語の一部を CT 語に分類したことである。

同形語の扱いというのは、文化庁(1978)が音読語のみを扱ったのに対して、小室(2015)は語素(単漢字の場合)も扱ったことである。S 語の一部を CT 語に分類したというのは、文化庁(1978)の定義に従うのなら S 語に分類するはずである語が、現代中国語で



あまり使われずに、より日常的に使用されている別の語が存在しているため、PT 語ではなく CT 語に分類したというところである。例えば、「来年」は、同形の中国語〈来年〉が存在し、日本語とも同じ意味であるため、S 語に分類すべきだが、現代中国語でより日常的に使用されている〈明年〉という語が存在しているため、あえて CT 語に分類したというところである。

この研究の分類を文化庁（1978）と照らし合わせると、「PT 語＝一部の S 語；CT 語＝一部の S 語と O 語；NT 語＝D 語；U 語彙＝N 語」という対応関係になると考えられる。

この研究と従来の対照研究との違いについては、小室（2009）が以下の 3 点を挙げている。

- (1) 従来の研究では、分析対象は漢字二字から成る漢語中心であったが、本研究では、漢語を加え、漢字表記の和語や漢字一字から成る語も分析対象とした点。
- (2) 従来の研究では、語の理解面に分析の焦点が当てられることが多かったが、本研究では、文字や語を認識・理解する際に問題となる点と産出時に問題となる点を分けて扱い、そこに見られる日中の差異の程度に基づいて分類を行った点。
- (3) NCS の母語知識を、辞書の記述からだけでなく、中国語話者に対して実施した漢字・漢字語彙の認識および使用実態の調査結果から把握・特定しようとした点。

（小室 2019:244）

(2) と (3) は、「母語知識を活かす」という言語教育の視点を持ち込んだことと、コロケーションまで詳述していることは評価できる。

しかし、分類結果の語彙リスト（小室 2019）を再検討してみたところ、文脈や共起表現によって留意点がある語と留意点がない語を同じカテゴリーに分けられている点に、検討の余地があると筆者は考える。

例えば、同じ PT 語に属するが、「頭」のコロケーションには注意が必要であるが、「雨」

のコロケーションには注意が必要でないと書かれている。

具体的にいうと、「頭がいい」のように「頭」が体の部分でない場合は、中国語では<头>（「頭」の簡体字）は使わないが、「頭が痛い」のように、「頭」が体の部分である場合は、中国語では<头>（「頭」の簡体字）を使う。それに対して、「雨」はそういう留意点はなく、「雨が降る<下雨>」でも「雨がやむ<雨停>」でも中国語では<雨>を使う。

PT語の「中国語をそのまま転用できる」という定義で言えば、「雨」は確かにそうであるが、「頭」は文脈や共起表現によって具体的に検討しなくてはならないと考えられる。

そのような問題点の原因は、2.1.2節で述べた漢語・漢字語の分類の問題点と共通し、分類する際に、意味レベルではなく、語レベルで分類しているからだと思われる。

それから、この研究の分析対象は名詞のみであったため、動詞や形容詞など、他の品詞である語にも適用できるかどうかは不明である。

### 2.3.2. 「中国語相当語」と「～に相当する中国語」

小森ほか（2014）は、文化庁（1978）の分類に基づく習得研究の一つであり、出題語の中国語相当語が中国語の固有語かどうかという基準で、2種類のN語テストを作った。その2種類のN語テストについて以下のように述べている。

「…出題語はN語だが、その中国語相当語が中国語に固有の語で、日本語にはない語である。例えば、日本語の「財布」の場合、中国語の相当語は『钱包』で、これは中国語の固有語である。日本語字体に直した「\*钱包」という語は日本語には存在しない。…出題語はN語だが、その中国語相当語が日本語にもある同形語（O語とD語）である。例えば、日本語の「入力」には、<文字や数値等の情報をコンピュータに入れる>という意味があるが、この意味に相当する中国語は『輸入』である。しかし、この『輸入』は中国語だけでなく、日本語でも使われる。…」

小森ほか（2014：7）

小森ほか（2014）は明確な「中国語相当語」の定義を提示しているわけではないが、ここで言及した「中国語相当語」はある出題語の中国語での訳語だと思われる。

一方、小室（2015）には「～に相当する中国語」という表現があり、以下のような記述がされている。

「日本語の《服》に相当する中国語は<衣服>で・・・」

「《春》に相当する中国語は<春天><春季>が一般的で・・・」

小室（2015：7）

明確な定義まで言及していないが、以上の記述から「～相当する中国語」はいわゆる中国語での訳語だと分かったため、小森（2014）の「中国語相当語」と同じであると考えられる。

### 2.3.3. 先行研究から得た示唆

小室（2015）で述べられているように、現代中国語には、〈春〉は語として使われる場合ももちろんあるが、「春」に相当する中国語が〈春天〉か〈春季〉であるため、語素として使われるほうがより一般的である。すなわち、単語レベルで考えると、日本語の「春」と中国語の〈春〉は同形同義だが、文脈、時代、文体とも関連のある「中国語相当語」まで考えると、日本語の「春」は中国語の訳語である〈春天〉〈春季〉と同形ではない。

二字漢字語もそうである。

小森ほか（2012）の結果から、文脈や共起語によって、単語レベルでは同形語である語が対応しなくなるという示唆が得られ、荒川（1979）と宮島（1993）も語が使用される時代、文脈、文体等における日中両国語の差異を考慮すべきだと主張している。つまり、具体的な文脈において日中両国語の意味対応関係を検討すべきだと考えられる。

それから、教育の立場から考えると、漢字語で抽象された概念から具体的な意味を汲み取る方法が日中両国語で異なるため、意味領域の違いが生じることは当然だが、CLJにとっては特定の文脈にある漢字語を正しく理解・産出できれば十分ではないだろうか。

小森ほか（2014）の「中国語相当語」も小室（2015）の「～に相当する中国語」も文脈における出題語の中国語での訳語に触れ、文脈における語の意味をある程度意識したと推測されるが、いずれも語ごとに検討しているため、挙げられた小室（2015）の問題点が生じる。

よって、単語レベルではなく、文脈における「意味的に対応する中国語」まで考えて分類する必要がある。つまり、語単位ではなく、意味単位で分類すべきであると考えられる。

## 2.4 新しい枠組みの必要性

本章では、漢字語に関する日中意味対応関係を概観し、従来の意味分類の問題点及び先行研究からの示唆を述べた。以下にまとめる。

- (1) CLJ を対象とする日本語教育の立場から考え、CLJ のための日本語教育に役立つ枠組みを提案するのなら、CLJ の視点から意味対応関係を見直す必要がある。
- (2) より教育に即した枠組みを提案するためには、辞書ベースの分類基準ではなく、使用実態、すなわち具体的な文脈を見ながら分類基準を定める必要がある。
- (3) 多くの語は複数の意味を持っているため、語単位ではなく、意味単位で分類すべきである。

以上の3点を踏まえ、第5章では意味ごとに漢字語の日中対応関係に着目し、日本語に存在するか否か、つまり「Nothing in Japanese Orthography」という視点から、より CLJ の習得研究に相応しい新たな枠組みを提案する。

### 第3章 従来の意味対応関係に基づく研究

文化庁(1978)が出版されてから、日中の漢語・漢字語に関する記述研究が盛んになり、その後、学習者のデータに基づく実証研究が行われるようになった。

今までに、CLJによる漢語・漢字語の習得に関するレビュー論文はいくつか発表されている。

陳(2003a)はCLJを対象とする漢語・漢字語習得研究を時系列に沿って、対照研究、誤用分析研究、中間言語研究、言語心理学研究という4つのジャンルに分けて概観し、2003年時点では対照研究、誤用分析研究を経て中間言語研究まで辿り着いているという位置付けを明らかにした。藤山(2011)は母語の影響という視点から、陳(2003a)と同じジャンル分けてCLJを対象とする漢語・漢字語習得研究を概観した結果、漢語の理解、産出、処理が受ける母語の影響は対応関係によって異なり、同形語<sup>17</sup>の処理は母語の影響を受け、母語の知識は理解で正の転移になっても、産出で負の転移となることを明らかにした。孟(2017)は「言語間類似性」<sup>18</sup>の観点から、CLJの語彙習得に関する研究を概観し、知覚的類似性をさらに研究する必要があることと、漢字表記の和語も同根語だと認識されていることを示唆した。

本節は母語の影響と調査法の妥当性という視点から、「中間言語を見る研究」(3.1節)「意味推測研究」(3.2節)「単語の認知処理に関する研究」(3.3節)という3つのジャンルに分けて、CLJの漢語・漢字語習得研究を概観し、先行研究による知見、問題点をまとめ、今後の方向性を示す。なお、先行研究の中には、未習語のみに焦点を当てた意味推測研究と、未習か既習かをはっきり区別しないまま習得過程を検討している研究があり、調査法がかなり違うため、本章では分けて検討する。

---

<sup>17</sup>日本語と中国語は語族が異なるが、近年の認知処理過程に関する研究は「中国語の訳語と形態が同じ日本語の二字漢語」(邱 2002a:365)、即ち同形同義語を「同根語」として扱っている。例えば「規則」-<規則>。

<sup>18</sup>「言語間類似性」はさらに「客観的類似性」(言語の形式上や意味上の実際に存在する言語間類似性)、「知覚的類似性」(学習者が認識できる形式上の言語間類似性)、「仮定的類似性」(学習者が想定した意味上の言語間類似性)に分類することができる。Ringbom(2007)と Otwinowska(2016)は、学習者は通常、言語間の形式的類似性を探し、形式的類似性を持っている言語項目に意味的類似性があると想定すると指摘した。

### 3.1 学習者の中間言語を見る研究

#### 3.1.1 先行研究の内容と問題点

習得過程における母語の影響を見た先行研究は、三浦(1997)、安(1999)、陳(2003b)、加藤(2005a)、李(2006)、陳(2009b)、小森ほか(2012)、小森ほか(2014)、小森ほか(2016)が挙げられる。

##### ・安(1999)

安(1999)は文化庁の枠組みに基づいて、S語と一部のD語とN語について、習熟度の違いKNSとCLJを対象とし、漢語の意味の習得過程における母語の影響を調べるために、選択肢式の質問紙調査を行った。

調査語の意味対応関係と選択肢の設定基準は表3-1で示す。

調査の結果について、この研究はCLJが誤った推測が多いと述べているが、その原因には触れていない。

表3-1 安(1999)の質問紙の例

語のタイプ	質問例	選択肢の設定基準
J=K=C	(a 注意 b 注心 c 引意) が足りなくて事故を起こした。	a 「正答」; c 「推誤」 b 「推誤」
J=K≠C	私はアメリカ (a 映画 b 電影 c 画影) が好きです。	a 「正答」; c 「推誤」 b 「中誤」
J≠K=C	試験に失敗した (a 自分 b 自己 c 自心) を慰める。	a 「正答」; c 「推誤」 b 「中誤」 & 「韓誤」
J≠K≠C	卒業するためには何 (a 単位 b 学点 c 学分) 必要ですか?	a 「正答」; c 「中誤」 b 「韓誤」

・三浦 (1997)

三浦 (1997) は、文化庁 (1978) の枠組みに基づき、S 語、O I 語、O II 語、D 語について、漢語の意味の習得過程における母語 (日本語) の影響を調べるために、JLC を対象に、日中双方向の訳語を選択肢から選ぶという質問紙調査を行った。

その結果、S 語はエラーが出ない、O I 語は「中→日」の時にエラーが出ない、O II 語は「日→中」の時にエラーが出ない、D 語は既習者にエラーが出ない、ということが分かった。質問紙の例は以下の通りである。

例： 教育の普及を重視する。 ①重視 ②重要 ③重大 ④重点 你小王、招待一下客人。 ①招待する ②もてなす ③喜ばせる ④待たせる
---

図 3-1 三浦 (1997) の質問紙の例

・陳 (2003b)

陳 (2003b) は、文化庁 (1978) ・三浦 (1984) の枠組みに基づいて、習熟度の違い台湾の CLJ を対象とし、選択肢式の質問紙調査を行い、S 語、O 語 (O I 語、O II 語、O III 語)、D 語、N 語<sup>19</sup>の習得難易度を検討した結果、以下の結論が得られた。質問紙の例は図 3-1 で示す。

地味 (じみ) (①故郷的味道 ②地方的小吃 ③樸素 ④特色)  <p style="text-align: right;">(陳 2003b : 176 より)</p>
---

図 3-2 陳 (2003b) の質問紙の例

<sup>19</sup> 陳 (2003b) は S 語、O 語、D 語、N 語をそれぞれ「同義語」「類義語」「異義語」「欠落語」と呼んでいるが、本章も以下のように、第 2 章で使った記号に統一する。S 語：「日 = 中」例「頑固」；O I 語：「日 < 中」例「出世」；O II 語（「日 > 中」例「遠慮」；O III 語（「日 < = > 中」例「意見」；D 語：「日 ≠ 中」N 語：「φ 日」



- (1) S語は習得しやすいが、正答率は予想より低かった。また、中国語と同義かどうかわからない場合と現在中国語であまり使用されていない場合は誤りやすい。
- (2) D語はS語より習得しにくい。その原因はD語自体の難しさに関係なく、未習であるためにD語であると判断できず、中国語が唯一の頼りになっていることにあると考えられる。
- (3) OⅠ語、OⅡ語、OⅢの習得難度が不明である。
- (4) 構成された個々の漢字から推測できるため、N①語はN②語より習得しやすい。

・加藤 (2005a)

加藤 (2005a) は、文化庁 (1978) ・三浦 (1984) の枠組みに基づいて、S語、O語 (OⅠ語とOⅡ語)、D語、N語について、オーストラリアにいるCLJ、ELJ、JNSを対象に、タイプ別の漢語の習得過程の違いおよび母語の転移について検討するために、正誤判断テストの質問紙調査を行った。

質問紙の例は以下の通りである。実施する際に、被験者に正しいかどうかを判断してもらい、誤っていると判断される場合は正しいものに直すよう指示した。

私は学生の時、数学がきらいでした。○

日曜日は友達と約束があるので、カラオケに行けません。○

昨日、テレビで新聞を見ました。×

日本とオーストラリアは季節が反対です。○

もっと女性の気持ちを了解した方がいいと思います。×

もっと他の人の都合も考えた方がいいと思います。○

あの人は乱暴だから好きではありません。○

(加藤 2005a により筆者作成)

図 3-3 加藤 (2005a) の質問紙の例

この研究は、母語の影響なのか普遍的な語の難度なのかを明確にするために英語母語話者にも同じ実験課した点と、中国人学習者が持つ漢字語に関する知識がどのように日本語母語話者と異なるかを見るために日本語母語話者にも同じ実験を課した点が評価に値する。

CLJ を EIJ と比較した結果、

- (1) S 語は、母語の正の転移が働くため、習熟度と関係なく理解しやすい。
- (2) O 語に関しては、O I (日<中) では、中国語の独自義を調べた語に負の転移が起こり、共有義を調べた語に多義的性質が混同される結果となった。
- (3) O II (日>中) では、日本語の独自義を調べた語について、初中級において負の転移が見られ、習熟度が上がるにつれ減少するが、上級になっても JNS と大きな差があることが観察された。それは意味の使用頻度が低いからである。
- (4) D 語は、初中級において負の転移が多く見られたが、習熟度の上がるにつれ、負の転移が消え、理解が JNS に近づくようになる。
- (5) N①語は正の転移が起こり、N②語は負の転移が起こる。  
ということが分かった。

#### ・李 (2006)

李 (2006) は、文化庁 (1978) ・三浦 (1984) の枠組みに基づいて、S 語、O 語 (O I 語、O II 語、O III 語)、D 語、について、JFL の CLJ を対象に、習得過程における母語の影響を検討するために、「日中双方向の翻訳の選択肢課題」と「自然さ判断課題」2 種類の質問紙調査を行った結果、(1) S 語、D 語、O III 語は O I 語、O II 語より誤用されにくいこと、(2) O I 語、O II 語の習得難易度が不明であること、(3) 中国語の意味に従いながら日本語を学習している傾向がみられたこと、を明らかにした。

質問紙の内容として、「日中双方向の翻訳の選択肢課題」はどのタイプ語を翻訳しやすいかを目的とし、「自然さ判断課題」は母語の意味に頼って意味を取るかどうかを目的とした。質問紙の例は以下の通りである。

・翻訳の選択肢課題

(1) 医生精心给病人看病。お医者さんは心を込めて患者を（A 看病 B 看護 C 診察 D 護理）する。

(2) 彼の父親は映画監督だ。（A 監督 B 导演 C 主演 D 監察）

・自然さ判断課題

(3) 古いノートを処分する。（自然、やや自然、どちらとも言えない、やや不自然、不自然）

(4) 処分一些旧的笔记。（自然、有点不自然、不能确定、有点自然、自然）

（李 2006 により筆者作成）

図 3-4 李（2006）の質問紙の例

・陳（2009b）

陳（2009b）は、陳（2009a）の枠組みに基づいて、S、O①、O②、D、N①、N②について、習熟度と学習環境によるタイプ別の漢字語の習得難度を明らかにするために、台湾出身の JFL と JSL の CLJ を対象に、「母語訳テスト」と「文の正誤判断テスト」の 2 種類の質問紙調査を行なった。

この研究は漢字語の意味の知識と運用を両方測るために、それぞれ「母語訳テスト」と「文の正誤判断テスト」を実施したが、質問紙の例（図 3-4）で示したように、「文の正誤判断テスト」は漢字語知識の運用まで測れるのかは検討する余地があると思うため、ここでは「意味の知識」と「意味の運用」ではなく、「母語訳テスト」と「正誤判断テスト」という言い方に換言し、表の結果及び考察をまとめる。

・「母語訳テスト」

卒業：\_\_\_\_\_

・「正誤判断テスト」

\_\_\_\_\_ピッチャーとキャッチャーは 呼吸 が合わないとダメだ。

（ピッチャー：投手；キャッチャー：捕手）

（陳 2009b より筆者作成）

図 3-5 陳（2009b）の質問紙の例

正誤判断テストの場合、加藤（2005）の結果と同じ、すべての漢字語タイプに学習環境と日本語習熟度の影響が現れたことが明らかになった。一方、母語訳テストの場合、表 3-2 で示したように、以下 7 点を明らかにした。

- (1) 全体的に日本語習熟度と学習環境の影響が表れなかった。
- (2) N②語以外のタイプの語は 2 級と 3 級の学習状況が同じである。
- (3) 習熟度(JFL・1～3 級)によって O①語の習得状況は変わらない。
- (4) 初中級において、漢字語の習得は学習環境に影響される可能性がある。特に、L1 の正の転移を受けにくいタイプの漢字語 (O②語、D 語、N②語) の場合、JSL のほうが進んでいる。
- (5) S 語、O①語、N①語に学習環境の影響が見られなかった。
- (6) 初中級段階では「S 語、O①語、N①語」より「O②語、D 語、N②語」のほうが困難であるが、習熟度が上がるにつれ、その差はなくなる。
- (7) O①語の日本語独自義は、習熟度が高い者でも他のタイプと比べて正答率が低い。

表 3-2 陳（2009b）漢字語種別の習得難度

	母語訳テスト	正誤判断テスト
JSL1 級	S=O①=O②=D=N①=N②	
JFL1 級		
JSL2 級		
JFL2 級	S=O①=N①>O②=D=N②	S>N②、S>D、N①>D
JFL3 級		S>O①=O②=D=N①=N②

(陳 2009b : 106 より)

その原因として、「母語訳テスト自体が母語に影響されやすい」(1)、「母語の影響を受けるタイプの語の習得は、母語の影響によって発達段階に長くとどまった」(2)、「促進作用の影響」(4)、「母語の正の転移が強い」(5)、「負の転移は習熟度の上がるにつれ消える」(6)、が考えられると陳自身が述べている。

・小森ほか（2012）&小森ほか（2016）

小森ほか（2012）と小森ほか（2016）では、Sの日本語の共起関係をCLJがどの程度習得できているかについて、正誤判断テストを用いて調査した結果、日本語では誤用で中国語では正用である場合はL1の負の転移が見られ、日本語でも中国語でも正用である場合は正の転移があるか否を再調査する必要であることが示唆された。

質問紙の例は以下表で示す。Aは漢語では誤用だが、和語では正用であり、Bは漢語も和語も誤用であり、Cは漢語も和語も正用であり、Dは漢語では正用だが、和語では誤用である。

表 3-3 小森（2012、2016）の質問紙の例

タイプ	中国語の連語	漢語動詞による連語	和語動詞による連語	数
A	整理头发 ○	*髮の毛を整理する ×	髮の毛を整える ○	各 19
B	建设家庭 ○	*家庭を建設する ×	*家庭を建てる ×	各 21
C	提出申请书 ○	申請書を提出する ○	申請書を出す ○	各 23
D	规模缩小 ○	規模が縮小する ○	*規模が縮む ×	各 23

（小森 2016 : 243 より抜粋）

<p>友達の結婚パーティーで（ ）をすることになったが、うまく進行できるか心配だ。</p> <p>①司会 ②主役 ③交流 ④採点</p> <p>銀行の約1万人の顧客名簿が（ ）してしまったそうだ。</p> <p>①流出 ②外出 ③移転 ④安定</p> <p style="text-align: right;">（小森 2014 により筆者作成）</p>
---

図 3-5 小森（2014）の質問紙の例

#### ・小森ほか (2014)

小森ほか (2014) は、文化庁 (1978) の枠組みに基づき、O 語 (OⅡ語、OⅢ語)、D 語、N 語について、「日本語独自義の習得」および「中国語独自義の転移」の総合的な語彙知識との相関を明らかにするために、習熟度の違う CLJ を対象に、「語彙総合テスト」と「漢字語テスト」の 2 種類の質問紙調査を行なった結果、N 語と O 語、D 語の「日本語独自義」は総合的語彙知識が増えるにつれて習得が進んでいくこと、O 語、D 語の「中国語独自義」は日本語に転移しやすく、総合的語彙知識が高い学習者でも、それに伴う誤りに気付きにくい傾向があることを明らかにした。

#### ・結果と共通の問題点

習得過程における母語の影響を見た各研究の調査語、対象者、及び結果を表 3-4 にまとめた。

表で示したように、三浦 (1997) のみが JLC を対象としている。

調査の結果から、JLC が学習する際に、S 語はエラーが出ない、OⅠ語の中国語独自義は日本語訳をする時にエラーが出る、OⅡの日本語独自義は中国語訳をする時にエラーが出る、D 語は既習者にエラーが出ない、ということが分かった。

しかし、三浦自身が述べているように、その研究は、既習であるかどうかの調査と習熟度の違いによる調査が行われていなかったことが問題点である。また、対象者はわずか 37 名でサンプルサイズが小さいことと、OⅠ語、OⅡ語の共有義が検討されていないことも問題点であると筆者は考える。

表 3-4 漢字語の習得研究の結果<sup>20</sup>

研究	調査語	対象者	結果
三浦 1997	S O I O II D	JLC	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S : レベル問わずエラーが出ない</li> <li>・ O I の独自義 : 中→日エラーが出る</li> <li>・ O II の独自義 : 日→中エラーが出る</li> <li>・ D : 既習者エラーが出ない</li> </ul>
安 1999	S、D、N	CLJ KLJ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CLJ は誤った推測が多い</li> </ul>
陳 2003b	S、O I O II O III D、N	CLJ 台湾	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S:簡単 (S だと分からないと困難)</li> <li>・ S&gt;D(D だと分からないから)</li> <li>・ O I、O II、O III : 不明</li> <li>・ N①&gt;N②</li> </ul>
加藤 2005a	S O I O II D、N	CLJ ELJ JNS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S : 簡単/正の転移</li> <li>・ O I : 負の転移/多義的性質の混同</li> <li>・ O II : 習↑⇨負の転移が減少</li> <li>・ D : 習↑⇨負の転移が消える</li> <li>・ N① : 正の転移・N② : 負の転移</li> </ul>
李 2006	S、O I O II O III、D	JFL・CLJ CNS JNS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S、O III、D&gt;O I、O II</li> <li>・ O I、O II 不明</li> <li>・ 中国語の意味に従って日本語を学習</li> </ul>
陳 2009b	S O① O② D N① N②	JFL・CLJ JSL・CLJ 台湾	<p>習熟度 (母語訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ S=O①=O②=D=N①=N② (上)</li> <li>・ S=O①=N①&gt;O②=D=N② (初&amp;中)</li> </ul> <p>習熟度 (正誤判断)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ S=O①=O②=D=N①=N② (上)</li> <li>・ S&gt;N② ; S&gt;D ; N①&gt;D (中)</li> <li>・ S&gt;O①=O②=D=N①=N② (初)</li> </ul>

<sup>20</sup> 「>」左側のほうが容易であったことを示す。「↑」は習熟度が上がることを示す。

			学習環境（母語訳&正誤判断） ・1級影響なし；2級影響あり
小森ほか 2012 小森ほか 2016	S 動詞の 用法	JFL・CLJ MLJ	・日+中+：正の転移△ ・日-中+：負の転移○（習↑⇔進んでいく）
小森ほか 2014	OII OIII D、N	JFL・CLJ	・日本語独自義：習↑⇔進んでいく ・中国語独自義：転移しやすい ・N：習↑⇔進んでいく

従来の CLJ を対象とする研究は、S 語がもっとも簡単であるということを共通して明らかになったが、共通した問題点もある。

それは、学習者の判断が習得に与える影響が十分に考慮されていないことである。すなわち、従来の実証研究は、学習者が日中漢字語の意味対応関係を知っていることを前提としたものであり、実際には学習者がその分類を知らないという可能性が検討されていない。

しかしながら、陳（2003b）では、CLJ が S 語と D 語を見る際に、それぞれ S 語と D 語だと判断できるか否かは習得に影響を及ぼす非常に重要なポイントだと示唆されている。つまり、学習者が実際に思っている分類も習得状況に関わる一因であると予測できる。よって、今後、実証研究を行う際には、学習者の判断を一つの要因として扱うことが必要であろう。



### 3.1.2 先行研究の方法的限界

表 3-5 で示したように、従来の研究では全て質問紙調査が行われている。

陳（2003b）以外の研究は、質問紙の設定にある程度文脈の効果を考慮しているが、提示された文脈は単文であったため、文全体の文脈情報を利用できない点については改善する余地があると考ええる。

そして、陳（2009b）は漢字語の意味の知識と運用を両方測るために、2種類のテストを実施したが、例で示したように、「文の正誤判断テスト」で漢字語知識の運用まで測れるのかについては検討の余地があり、むしろ漢字語知識の理解を測るテストの一種だと思われる。

小森ほか（2014）は、統計処理のしやすさと3選択肢より4選択肢のほうがより妥当であると考え、「正答、中国語関連、文脈関連、統語関連」という基準で選択肢を設定した。しかし、「統語関連」にあたる選択肢は、正答と同じ品詞情報を持っているが、文脈での正答の意味と関係がなく、選ばれる可能性がほぼゼロだと予測できるため、選択肢を増やす方便にすぎないと考えられる。

また、調査が行われる際に、学習者が問われる出題語の知識を持っているかどうかについては、まだ十分に調査されていない。

例えば、ある出題語に対して、正答を選んだ二人の学習者 A と B がいて、調査時点では、A は出題語の意味・用法を知っているのに、B は知らなかったとする。それが分からないまま調査すると、A と B の習得状況が明らかに違うのに、二人とも同じ正答を選んだため、習得の違いが見えなくなってしまう。換言すれば、調査時点で、学習者にとって問われる出題語の知識が既知か未知かを把握した上で、調査する必要がある。とすると、既知か未知かを問うテストと読解や聴解などの調査のテスト、2つのテストを行う必要がある。しかし、今までの調査法は形式は多少異なるが、いずれも1つのみのテストしか行われていなかった。

よって、語彙の習得を調査する時には、新たな調査法で行うことが必要であり、従来の1つの意味を問う調査だけでなく、複数の調査を行うべきであろう。

表 3-5 漢字語の習得研究の調査法

研究	調査法	例
三浦 1997	質問紙 日⇔中 訳語	教育の普及を <u>重視</u> する。①重視 ②重要 ③重大 ④重点 你小王、 <u>招待</u> 一下客人。 ①招待する ②もてなす ③喜ばせる ④待たせる
安 1999	質問紙 3 選択 1	(a 注意 b 注心 c 引意) が足りなくて事故を起こした。 私はアメリカ (a 映画 b 電影 c 画影) が好きです。 試験に失敗した (a 自分 b 自己 c 自心) を慰める。 卒業するためには何 (a 単位 b 学点 c 学分) 必要ですか？
陳 2003b	質問紙 訳語	地味 (じみ) (①故郷的味道 ②地方的小吃 ③樸素 ④特色)
加藤 2005	質問紙 正誤判断	日曜日は友達と <u>約束</u> があるので、カラオケに行けません。 *昨日、テレビで <u>新聞</u> を見ました。
李 2006	質問紙 日⇔中 訳語 自然さ	医生精心给病人看病。お医者さんは心を込めて患者を (A 看病 B 看護 C 診察 D 護理) する。 彼の父親は映画監督だ。(A 監督 B 导演 C 主演 D 监察) 古いノートを処分する。(自然/やや自然/どちらとも言えない/ やや不自然/不自然) 処分一些旧的笔记。(自然/有点不自然/不能确定/有点自然/自然)
陳 2009b	質問紙 母語訳 正誤判断	卒業： _____ ____人間の <u>呼吸</u> は、大人だと、普通 1 分間に 18 回ぐらいだ。 ____ピッチャーとキャッチャーは <u>呼吸</u> が合わないとダメだ。
小森ほか 2012 小森ほか 2016	質問紙 正誤判断	*今朝、私は髪のを <u>整理</u> した。 <整理头发> 予算が減って、工事の規模が縮小した。 <規模缩小>
小森ほか 2014	質問紙 4 選択 1	銀行の約 1 万人の顧客名簿が ( ) してしまったそうだ。 ① 流出 ②外出 ③移転 ④安定

## 3.2 意味推測の研究

### 3.2.1 先行研究の内容と問題点

漢字語に焦点をあてた意味推測研究は非漢字圏出身者を対象としたものが多い。すでに漢字知識を持っている CNS を対象とする研究は、筆者の知る限り、崔 (2015a、2015b、2017)、陳 (2014)、小森ほか (2018) が挙げられる。

#### ・崔 (2015a、2015b)

崔 (2015a、2015b) は文化庁 (1978)・三浦 (1984) の枠組みに基づき、S 語、O 語、D 語、N 語について、未習漢字語の意味推測の手がかりに焦点をあて、JFL での中国人学習者を対象に、選択肢式質問紙調査を行った。

選択肢は 4 つあり、以下のような判断基準でテストを作成した。A を選んだ場合は、漢字形態素から、B を選んだ場合は文脈から、C を選んだ場合は漢字形態素と文脈の両方で推測をしたと判断した。D は錯乱肢であった。つまり、漢字と文脈、2 種類だけの手がかりを前提とした。また、A、B、C、D は混ぜ合わせてランダムに提示した。

語彙条件	はあく 把握
文脈条件	状況を___してから対策を考えましょう。
統合条件	状況を <sup>はあく</sup> 把握してから対策を考えましょう。

図 3-6 崔 (2015a、2015b) の質問紙の例

調査の結果から、以下のようなことが明らかになった。

- (1) 習熟度とカテゴリーに関係なく、JFL の CLJ は漢字手がかりと文脈手がかりを組み合わせて利用できる。ただし、習熟度が高い学習者は二種類の手がかりを統合する能力が高い。
- (2) 漢字手がかりを利用する能力と文脈手がかりを利用する能力は別々の能力であり、習熟度を問わず JFL の中国人学習者はこの 2 つの能力を持っている。
- (3) 漢字語と文脈を両方与えた場合、漢字語のカテゴリーを問わず 2 種類の情報を組

み合わせて利用できる。他方、漢字語そのものを無視して文脈のみで意味を推測する傾向も見られた。そして、その傾向は S 語において特に強く、O 語において最も弱い。

また、Huckin&Bloch (1993) によると、中国語を母語とする英語学習者は未習英語を推測する際、文脈、形態素のほか、テキストに関するスキーマや世界知識も利用していることが分かったため、陳 (2014) は中国語を母語とする日本語学習者は未習漢字語を推測する際に、漢字形態素と文脈以外の手がかりも利用する可能性が高いと考え、改めて発話思考法で調査した。

#### ・陳 (2014)

陳 (2014) は陳 (2019a) の枠組みに基づき、S 語、OⅡ語、OⅢ語、D 語、N①語、N②語について、具体的な手がかりの項目を中心に、学習環境との相関を分析したうえで、中国大陸の学習者による漢字語の意味推測の実態を明らかにすることを目的とし、発話思考法で記述式質問紙調査を行った。

・「1979 年『バイバイ、エンジェル』で第 5 回角川小説賞を受賞、デビュー。他の代表作は『サマー・アポカリプス』『薔薇の女』など。」

・「.....「きみは『間違いだらけの夫婦関係』の着想が素晴らしいなんて、一度も思ったことはなかった。そうだろう？」確かにあれはひとつの作品として、なんらかの大きな要素をずっと欠いていたと思う。」

(陳 2014 より抜粋)

図 3-7 陳 (2014) の質問紙の例

オリジナルの基準で文字化したデータを分析した結果、学習環境と関係なく、中国人学習者は未習漢字語を推測する際に、「語彙知識」、「文脈情報」、「文法知識」、「世界知識」、という 4 つの手がかりで推測していた。中でも文脈情報が一番多く、次に、語彙知識が多く使われることが明らかになった。

また、推測する際に、①「文脈情報のみ」、②「語彙知識＋文脈情報」、③「語彙知識のみ」、④「文脈情報＋世界知識」、⑤「語彙知識＋文脈情報＋文法知識」、⑥「文脈情報＋文法知識」、⑦「語彙知識＋文脈情報＋世界知識」、⑧「語彙知識＋世界知識」、⑨「文脈情報＋記憶」、⑩「文脈情報＋文法知識＋世界知識」、⑪「語彙知識＋文法知識」、という 11 種類のパターンが使用可能であり、主に①～⑤の 5 つのパターンで推測していることも明らかになった。

#### ・崔 (2017)

崔 (2017) は、崔 (2015a, 2015b) の研究方法を改善し、陳 (2014) と同様に、発話思考法を用いて、推測結果の正答率と手がかりの使用状況は、語のタイプによって異なるか否かについて調べた。崔 (2015a, 2015b) と同じく、崔 (2017) も、文化庁 (1978) の分類を採用した。

正答率への語のタイプによる影響を検討した結果、CLJ にとっては、S 語の意味推測がもっとも簡単で、D 語、O 語、N 語の意味推測難易度が不明であることが判明した。その結果は、崔 (2015a) で得た「S 語の正答率が最も低い」という結果と異なり、その違いが回答方法の違いに起因すると崔自身は述べている。また、手がかりの使用状況に語へのタイプによる影響を検討した結果、S 語の推測に必要な手がかりが最も少なく、かつ O 語、D 語、N 語より有意に少ないことがわかったが、O 語、D 語、N 語の手がかりの使用状況は不明であると述べている。

#### ・小森ほか (2018)

小森ほか (2018) は、文化庁 (1978) の分類に基づき、N 語の推測状況と語構成のタイプ<sup>21</sup>による影響を検討するため、CNS を対象に、「意味推測テスト」と「推測のしやすさの評定」、2 つのテストを実施した。その結果、74 語のうち、3 割程度が正確に意味推

---

<sup>21</sup> 小森ほか (2018) は、日向 (1985) と野村 (1999) を参照した上で、①「並列関係」(前項漢字と後項漢字が類義、対義、反義であるもの。「栄養」、「制限」、「寄付」) ②「修飾関係」(前項漢字と後項漢字が修飾、被修飾の関係であるもの。「大木」、「途端」、「重役」) ③「客体関係」(前項漢字と後項漢字が項構造を成すもの。「感心」、「休講」、「見物」) ④「その他」(上記に該当しないもの。「世話」、「普段」)、4 つの語構成タイプを策定した。

測できることが示され、難易度が低い語と並列関係の語がより推測しやすいことも明らかになった。

この研究は、陳（2009a）で提案されている「N語の意味推測可能性」より、CLJが単漢字や語構成の知識を利用して意味推測を行うというヒントを得て、N語の推測と語構成の関係を検討してみた。しかし、調査対象者であるCNS（日本語学習者歴なしの中国語話者）は既習の日本語の知識を利用できないため、その結果は日本語学習者には適用されにくいと筆者は考える。

以上で述べた先行研究の結果を表3-6に集約した。

表 3-6 未習語の意味推測研究の結果

研究	調査語	被験者	調査法	結果
崔 2015a 2015b	S、O D、N	CLJ JFL	質問紙 (4 選択 1)	①手がかりの内容 ②習熟度語&タイプ⇔① ③語のタイプ⇔①
陳 2014	S、OⅡ OⅢ、D N①、N②	CLJ JFL/JSL	発話思考法 +FI <sup>22</sup>	①手がかりの内容 ②手がかりのパターン ③学習環境⇔①②
崔 2017	S、O D、N	CLJ JFL	発話思考法	①正答率 ②手がかりの内容 ③語のタイプ⇔①②
小森ほか 2018	S、O D、N	CNS JFL	質問紙 (意味推測) (難易度判定)	①正確さ ②難易度 ③語構成⇔①②

\* 「⇔」は両者の相関が検証されたことを示す

<sup>22</sup> フォローアップインタビューの略称

崔 (2015a、2015b)、陳 (2014)、崔 (2017) は CLJ を対象に、推測する際に使われた手がかりの内容を中心に、習熟度、語のタイプ、及び学習環境との相関を調べた。採用された調査法と手がかりのジャンル分けが異なるため、手がかりの内容そのものについては異なる結果が得られたが、学習者が文脈の中で語を理解するという同じ傾向が見られた。そして、崔 (2017) が語のタイプ別 (文化庁 1978 の分類に沿って) に考察した結果、S 語が最も簡単で O 語、D 語、N 語の意味推測難易度が不明であることが明らかになった。

これらの研究は CLJ が未知語に遭遇した際にどのように推測したかということを目的とし、結果も推測の手がかりの内容をある程度明らかにしたが、共通する問題点がある。それは、調査語が被験者が学習していたメインテキストに入っていないことを未知か否かの判断基準にしたことである。未知語というより、未習語だと判断すべきだと考えられる。語彙の学習・習得は大きな個人差があるため、未知語の意味推測研究をする際はより厳密に未知か否かを確認する必要があると考える。

一方、小森ほか (2018) は学習者ではなく CNS を対象に、意味推測難易度と語構成の関係を調べ、並列関係<sup>23</sup>の語はより推測しやすいということを明らかにした。この研究は日本語が全く分からない CNS を対象としたため、理論上未知語であるか否かの判断は必要ではないと考えられるが、N 語の定義と矛盾している出題語があり<sup>24</sup>、日本語未習者の結果が CLJ に適用されにくいことも問題点として挙げられる。

---

<sup>23</sup> 「栄養」、「制限」、「寄付」など、先項目漢字と後項漢字が類義、対義、反義であるもの。

<sup>24</sup> 小森 (2018) は文化庁 (1978) の N 語 (中国語に存在しない) を調査対象語にしたが、「医者」「牛乳」のような出題語が中国語に存在するため (北京大学中国語言語学研究センターが作ったコーパスで調べたところ、それぞれ 190 例と 130 例が出てきた)、N 語の定義と矛盾していると考えられる。

### 3.2.2 先行研究の手法的限界

表 3-8 で示したように、先行研究は主に「選択肢式の質問紙調査」と「発話思考法」を採用したが、意味推測研究の調査法としては、両方とも検討の余地があると考えている。

調査目的にもよるが、意味推測の実態を含めて、読解過程を解明する研究の調査法として、選択肢式の質問紙調査と比べ、発話思考法のほうがより妥当だと考えられている。外国語学習者を対象とする場合、一般的な「発話思考法」を改善し、普段通り<sup>25</sup>に読んでもらった後で、目標言語ではなく母語で語ってもらい、必要であれば途中で質問する（以下「I」）という3点を野田（2017）が主張している。つまり、「(母語での) 発話思考法+I」を主張した。

目標言語ではなく母語で語ってもらうほうがより正確に学習者の理解を把握することができると考えており、陳（2014）と崔（2017）もそのように調査を行ってきたが、途中で質問することは前後文脈の理解の妨げになる可能性が高く、発話思考法の本来の目的に反するのではないかと筆者は考える。さらに、筆者の経験では、いくら練習しても読みながら話すという「発話思考法」に慣れない学習者がおり、話せるようになっても、話したのは調査文の音読で、頭の中で考えたことがうまく調査者に伝わらない学習者もかなりの数にのぼる。

従って、本来の「発話思考法」に留まらず、調査目的に応じて、より相応しい調査法を工夫することが期待される。CLJを対象とする意味推測研究の場合、普段通りに読んでもらいながら口頭での母語訳をしてもらい、最後にフォローアップインタビューを実施するという調査法がより妥当であると考えられる。

---

<sup>25</sup> 辞書などが使用可能であること。



### 3.3 認知処理過程の研究

バイリンガルの心内辞書の構造については、1960年代から、「分離説」か「共有説」の二者択一 (Kolers 1963) が議論され始め、次に「単語連結仮説」と「概念媒介仮説」に基づく「折衷説」 (Potter et al. 1984) が主流となり、「発達仮説」が立てられた。

その後、発達仮説を踏まえ、Kroll & Stewart (1994) は「改訂階層モデル」を提案した。

以上の理論に基づいて、「語彙判断課題」と「読み上げ課題」を用いた一連の研究 (Nakayama 2002、茅元 2002、松見・蔡 2007、蔡・松見 2009、蔡ほか 2011) を経て、松見ほか (2012) が CLJ の心内辞書のモデルを提案し、L1 と L2 の語彙表象においては、形態表象が一部共有されているが音韻表象が分離されていることを主張した。

そして、形態類似性と音韻類似性が認知処理過程に及ぼす影響を検討した一連の研究 (邱 2002a、小森ほか 2008、大和他 2009、小森・玉岡 2010) から、視覚呈示された場合、形態類似性も音韻類似性も促進効果が見られ、習熟度の高低による影響を受けることが明らかになった。そして、S 語 (同根語) と O 語、D 語、N 語 (非同根語) の処理過程には違いが存在し、S は「形態→L1 音韻→概念／形態→概念」、O 語、D 語、N 語は「形態→L2 音韻→概念」というプロセスで処理され、O 語と D 語の共有義は習熟度の高い学習者にのみ形態類似性の促進効果があることも示唆された。

漢語・漢字語の認知処理研究は今でも盛んに行われているが、主に音韻類似性、聴覚呈示された場合の形態類似性、と書字の効果が検討されている。

### 3.4 既存の辞書とデータベース

「日中同形語」という用語の定義は研究によって違うが、この節では、「日本語と中国語の同一表記による漢語のこと」という定義を採用する。

日中同形語の意味・用法の異同に関する研究は数多くあるが、ほとんど辞書に頼っており、現代ではほとんど使っていない意味用法も扱っている。

日中同形語の意味を対比する日中両国で初めての辞典である張（1987）をはじめ、意味・用法の異同の記述的研究は数多くある。

唐（1993）は当時の常用漢字 1945 字とそれを含む漢字語を取り上げ、発音・字形・意味用法を記述したものである。一部の同形語については意味用法の異同を記述している。金（1987）、飛田・呂（1994）、王ほか（2007）はいずれも、「愛人」「手紙」のような日中同形異義語の異同について記述した本である。金（1987）は 257 語を、飛田・呂（1994）は 99 語を、王ほか（2007）は 1400 語を収録している。ただし、これらの研究はすべて記述のみであるため、辞書としての価値がある一方、具体的な意味対応関係およびその意味対応のパターンを量的に詳しく捉えたものではない。

一方、同形語の数や同形語の意味対応を数量的に扱っている研究もある。

例えば、中国語教育の立場から、曾根（1988）は中国語の語彙頻度表と日本語辞書を参照し、上位 8441 語から単音節語を除いた 6112 語中、56%を同形語と認定している。同様に高野・王（2002）は中国語頻度表と日本の高校教科書の語彙を比較し、日本語上位 3000 語中、41%を同形語と認定している。

日本語教育のほうでは、松下（2009、2011）、Matsushita（2012）が日本語の雑誌と書籍のコーパスの上位 5000 語中、雑誌で 38%、書籍で 43%を同形語と認定している。しかし、これらはコーパスの規模が現在の水準に比べると小さく、対象の異なり語数も 1 万語に満たない。また、結果において似ている部分も認められるが、方法が異なるため直接的な比較は難しい。より大きな均衡コーパスにおいて検証する必要があると思われる。

近年では、実用を目的とし、電子的に検索できる形にした日中漢字語に関するデータベースが徐々に増えてきた。その数はまだ多くないが、これからの発展が期待できると思われる。

朴ほか (2014a、2014b) と熊・玉岡 (2014) は旧 JLPT の 4 級から 2 級の二字漢語<sup>26</sup>に限定し、2058 語を取り上げ、すでにある辞典<sup>27</sup>にしたがって、その「表記」「読み」「頻度」「難易度」「品詞性」「日中意味的關係」をデータベースにした。「日中意味的關係」は主に文化庁 (1978) と張 (1987) に従って判断されている。

このデータベースは辞書を使った判定なので、使用実態と合わないところがある。例えば、「花瓶」も「空気」も S 語に判定されているが、「空気」は「その場の状態、雰囲気」という日本語の独自義があり、「花瓶」は「役に立たない人」という中国語の独自義がある。そして、詳細な意味的關係記述がなく、エクセルデータも 2019 年 6 月時点で公開されていない。

小森ほか (2017) は、心理言語学的アプローチによる研究において調査対象語を選定するための有効な基礎資料を築くために、朴ほか (2014a、2014b) と熊・玉岡 (2014) を基礎資料とし、「表記」「読み」「品詞」「日本語のアクセント」「音調」「日中書字異形度」「語義」「用例」をデータベースにした。

このデータベースは 2019 年 6 月時点で暫定版の一部のエクセルファイルが公開されているが、「日中意味的關係」の判定がない。

松下ほか (2017) は応用言語学の観点から、日本語の学習・教育・研究により直接的に役立てることを目的とし、文化庁 (1978) と三浦 (1984) の分類に基づいて、コーパスを構築した。そのコーパスは、『日本語を読むための語彙データベース』<sup>28</sup>の留学生用語彙ランクの上位 2 万語に含まれる 10054 語の漢語を含めており、以下の項目からな

<sup>26</sup> 『日本語能力試験出題基準』2007 年の改訂版

<sup>27</sup> 『新明解国語辞典』(第 7 版)『角川新国語辞典』(初版)『岩波国語辞典』(第六版)『明鏡国語辞典』(第二版)『旺文社詳細国語辞典』(初版)

<sup>28</sup> 松下 (2010) <http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/database.html>

る。

「ID」、「留学生用語彙ランク」「見出し語」「標準的表記」「文字数」「標準的読み方」「品詞」「語種」「中国語表記」「意味対応」「日本語と中国語に共通の意味／用例」「中国語のみに存在する意味・用法」「日本語のみに存在する意味・用法」「日本語独自の意味の類推可能性」。

2019年6月時点でまだ改良の余地があるが、エクセルファイルが公開されていて、既存の文章難易度判断システムに搭載できることと、2万語レベルの規模で意味対応パターンの量的側面を明らかにしたことはこのデータベースの意義であると思われる。

## 第4章 既存の枠組みと手法に基づく探索的調査（調査1）

### 4.1 調査の目的

本調査は2013年6月～10月の間に行い、当時、筆者の知る限り、中国語話者を対象とする意味推測研究について、公表された論文がなかった<sup>29</sup>。崔（2013）は未公開の修士論文であり<sup>30</sup>、崔（2015a、2015b）はその修士論文の調査をまとめた論文であったが、調査時点では、修士論文の要旨のみが公開<sup>31</sup>されていた。

崔（2013）は、文化庁（1978）の分類に基づいて、手がかりが漢字語のタイプ及び習熟度との関連を検証するために、「語彙手がかり（ママ）」「文脈手がかり（ママ）」に限定し、選択肢式の質問紙調査を行った。

しかし、Huckin & Bloch（2002）、Paribkht & Wesche（2015）、Nassaji（2003）などで示されたように、学習者はL2の語彙の意味推測を行う際、語彙手がかりと文脈手がかりに限らず、テキストに関するスキーマや世界知識、談話知識も利用していることが分かっている。したがって、中国語を母語とする日本語学習者は未習漢字語を推測する際に、語彙と文脈以外の手がかりも利用する可能性が高いと考える。さらに、選択肢のみでの調査だと、推測するとき学習者の心中で何が起っているのかは、明らかにならない。例えば、被験者がAを選んだ場合、調査の設定では漢字形態素だけを使って推測したことになるが、実際にそれだけなのかについて疑問の余地がある。

そこで、本調査では、Huckin & Bloch（2002）と谷口（1991）を参考に、内省的データ収集方法の一つである発話思考法（think aloud）<sup>32</sup>を利用し、具体的な手がかりの項目を中心に、学習環境との相関を分析したうえで、中国大陸のCLJによる漢字語の意

<sup>29</sup> 非漢字圏学習者を対象とする研究は、Mori&Nagy(1999)、Mori(2003)、Kondo-Brown(2006)、ウラムバヤル（2013）、など多くある。

<sup>30</sup> 修士論文の要旨は2013年1月にネットで公開され、修士論文は未公開である。崔（2015a、2015b）はその修士論文の調査をまとめた論文である。

<sup>31</sup> 2013年1月にインターネット上で公開されている。

<sup>32</sup> 発話思考法とは、「自らの思考過程の中で起きた問題を、どのように処理したかを、自身のことばで報告する」方法である（J.V.ネウストプニー・宮崎 2002:118）。

味推測の実態を明らかにすることを目的とする。さらに、漢字語のタイプに焦点を当て、どのような理由でそのような現象が起こるのか、その原因を追究する。以下は本調査で設定したリサーチ・クエスチョンである。

リサーチ・クエスチョン：

- RQ (1) 中国人日本語学習者が、未習漢字語を推測する際に、使った手がかりはどのようなものか。(4.4.1)
- RQ (2) 中国人日本語学習者が、未習漢字語を推測する際に、推測のパターンにはどんな種類があるのか。(4.4.1)
- RQ (3) 日本語に接触する頻度の異なる二つのグループ (JFL、JSL) の間では、推測の手がかりとパターンに違いがあるのか。(4.4.2)
- RQ (4) 使用可能なパターンと正答率に焦点をあて、漢字語のタイプ別に分析した場合、JFL 環境の学習者と JSL 環境の学習者の相違点はどのようなものか。(4.4.3)

## 4.2 調査概要

### 4.2.1 調査対象者

調査は JSL 環境・JSL 環境、各 15 名の CLJ を対象とした。JSL 環境の CLJ は、大学院と日本語学校に在籍している。調査当時、全員が 6 ヶ月以上日本に滞在していた。そのうち、9 人が N2 に合格していて、6 人が N1 に合格していた。

一方、JFL 環境の場合は、日本での滞在歴が全くない人に限定し、中国内陸の H 大学で日本語を学ぶ大学 3 年生を対象とした。三年生全員が 2013 年 12 月の日本語能力試験 N1 レベルを受験予定であり、H 大学の N1 の合格率はつねに 80%を超えているので、JSL 環境の対象者と同レベルと判断した。

### 4.2.2 漢字語の選別

まず、日中漢字語の対照辞典や先行研究の語彙リストから漢字語を取り出し、漢字語を多数用意した。その中から、H 大学の精読の授業で使用されている教科書の語彙リストに照らし合わせながら、一年・二年の教科書<sup>33</sup>に載っていない漢字語のみを抽出した。

その後、辞書で先行研究における分類を検証し、S 語、OⅡ語、OⅢ語、D 語、N①語、N②語という 6 タイプで各 3 個、計 18 個の漢字語を選別した。その中でも、OⅢタイプと OⅡタイプでは、日本語と中国語の意味が同じ部分を表す語 1 つと、日本語では中国語にない意味を表す語 2 つを選別した。

以下表 4-1 で示す。

---

<sup>33</sup> 調査時点では、『基礎日本語教程』という教科書が使われていたが、2019 年 6 月現時点では、『新編日語』という教科書が使われている。

表 4-1 調査対象語

タイプ	漢字語：意味「例文」 <sup>34</sup>	共通義 <sup>35</sup> 独自義
S	言外：言葉で直接表されていない所。 細心：こまかいことにまで注意を払うところがけ。 漸次：時間の経過と共に、その傾向や程度が少しずつ強まって （衰えて）行くことを表す。	日・中 日・中 日・中
OII	脱落：ぬけおちること。「50 ページが脱落している」 現役：浪人に対して、在校中の受験生。 「現役で大学に合格する」 始末：きまりをつけること。整理をすること。「始末をつける」	日・中 日 日
OIII	一定：定まって動かない、ある程度。「～の目的」 一面：新聞の第一ページ。 「例の事件が新聞の一面にのっている」 架空：想像で作る。「架空の人物」	日・中 日 日
D	懸念：不結果が予測されて、先行きが心配に思われること。 作為：見せかけのために手を加えること。 着想：目的通りに事を進めるために、くふうした方法や手段。	日 日 日
N①	受賞：賞を受けること。 専念：心を一つのことに集中すること。 想定：ある一定の状況や条件を仮に思い描くこと。	日 日 日
N②	抜本：根本の原因を抜き去ること。 反骨：容易に人に従わない気骨、権力に抵抗する気骨。 稼働：機械を動かすこと。	日 日 日

<sup>34</sup> 例文は文化庁（1978:85-86）と飛田・呂（1995:20-21）から抜粋したものである。

<sup>35</sup> 「日・中」は日中両国語での共通の意味を表し、「日」は日本語の独自の意味を表す。



### 4.2.3 問題文の出典

調査に利用した文は、選別した漢字語が一度だけ現れる 18 文である。

調査協力校の三年生の教科書には文学の文章が多く、また、JFL 環境の学習者は独学  
する際ニュースをよく使うため、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の「書籍・文学」  
と「新聞」の二つのジャンルから取り出した。

指示文は「以下の文を見て、下線部分の語彙の意味を書いてください。テストをして  
いる間に頭に浮かんだことをすべて、声に出して語ってください。」とした<sup>36</sup>。

文脈の長さとの相関を検証するため、問題文を一行程度 (39 語程度)、三行程度 (103  
語程度)、五行程度 (180 語程度) の三段階 6 文ずつで作成した。実際に使った問題文の  
例を以下に示す。また、正しい答えの例を示しておく。

- 1) <sup>37</sup>民法、刑法の基本法を抜本的に改正し、司法制度を三年以内に再構築。

正しい答えの例：<徹底的、从根本上><sup>38</sup>

- 10) 私は、海から上がって来るジュニアの姿を見ていた。彼は、黒い太陽の点のよう  
に見えた。それ程、海は眩しく、緑は鮮やかだった。彼の周囲に作為的なものは何  
ひとつなかった。ジュニアは、手に大きな巻き貝を持っていた。

正しい答えの例：<人为、人工>

---

<sup>36</sup> 文末の「資料 I」で示したように、指示文は中国語と日本語、両方を提示した。

<sup>37</sup> 文末の「資料 I」の番号に統一されている。

<sup>38</sup> 中国語は< >で囲む。

18) 「一郎は…？」

「一郎もお父さんが、殺したんじゃないかっていうんだろう」

「どうして一郎まで、殺されなければならないの」

「お母さんを締め殺すところを、一郎に見られたからっていうストーリーだよ」

「目撃者を、消したわけね」

「当然、死体を始末しなければならない。それでお父さんは二人の死体を車に乗せて、山の中へ運んで埋めて来たんじゃないかって…」

「それだけの時間が、あったと見ているのね」

正しい答えの例：＜処理＞

#### 4.2.4 手続き

まず、対象者の不安と緊張感を解消するため、自己紹介や雑談などの会話をする。つぎに、調査方法と目的を説明し、計算問題と意味推測の問題で練習させ、回答方法に慣れてから本調査を開始した。練習問題の例は図 4-1 で示す。

1)  $125 * 8 = ( )$

2) DONALD

+ GERALD

ROBERT

個々のアルファベットは 0~9 のどれですか？

3) 青木さんはいつもと違って、青いリボンで髪を縛り、明るく快活な様子に見えた。

4) 好奇心に満ちた明るい青年で、通訳として幕府の高官や諸藩士とつきあううち、激動する日本にひどく興味をもち、英国公使館員という立場をはなれてこの国のよき友人になろうとした若者である。

図 4-1 練習問題の例

調査は主に被調査者の母語、つまり中国語で行い、中国語で意味が伝わらない場合は日本語や英語でも良いと対象者に伝えた。調査開始後は、筆者は対象者から見えないところ（非調査者の声が聞こえる範囲）に座って、観察者になった。制限時間はとくに設定せず、十分に時間を与えた。また、11問終了時に休憩を入れた。

調査は一人約30分で、中国語で協力者に依頼して、録音と録画を行なった。調査を行った後、調査過程についてのインタビューを実施した。個々の対象者の発話を考慮したうえで、主に調査過程の内容と文脈の長さという二つの部分に関して質問した。質問例は図4-2で示す。インタビューも中国語で実施し、了解を得て録音した。

- 1) さっき、〇〇と言いましたが、〇〇という意味ですか？
- 2) 先ほど、ここで30秒ぐらい沈黙していましたが、その時、何を考えていましたか？
- 3) 三段階の長さの文脈を用意しましたが、それについて何か好みとかがありませんか？

図4-2 質問の例

## 4.3 分析と結果

本調査の結果の一部、手がかりの内容とパターンは陳（2014）で公開したが、その論文では、学習環境との相関が統計的に検討されていなかったため、4.3.2 節では統計的に検討する。そして、残された課題を取り上げ、調査の結果を統計的に検討した上で、分析を行った（4.3.3 節～4.3.5 節）。なお、陳（2014）の「百科事典的知識」が先行研究の「世界知識」と同じものを指しているため、全論文の統一性を考えた上で、本研究では、陳（2014）と違って、「百科事典的知識」の代わりに「世界知識」という用語を使い、「記憶」の代わりに「無」を使う。

### 4.3.1 手がかりの内容とパターン

録音した音声データを書き起こし、分析の基礎的な資料とした。インタビューした内容は、文字化したデータを分析する際の参考とした。

分析の結果、CLJ が未習漢字語を推測する際に使用した手がかりには、①語彙知識、②文脈情報、③文法知識、④世界知識があった。表 4-2 に中国人日本語学習者が未習漢字語に遭遇した際に使用した手がかりの項目を示す。

これらの定義は 2 名の超級 CJL の意見を参考に、筆者自身で定めたものである。その次に各項目に当たる学習者の答えの例もあげる。なお、記憶だけに頼り推測したケースもあるが、それは学習者が持っている知識を確信していることを指し、推測の過程を経っていないので、推測の手がかりだの分類から除外した。

そして、二つのグループ（JFL・JSL 環境）のデータを合わせて、一問ずつ分析したところ、中国人学習者が未習漢字語と遭遇した際に、使用可能なパターンとして、以下表 4-3 で示す 10 種類を抽出することができた。【 】内は本研究における呼称である。学習したかどこかで見たことだと思い、その意味を知っていることを確信し、何の手がかりも使わなかったのは場合は【無】とする。

表 4-2 使用した手がかりの内容

手がかり	内容
①語彙知識	同形の中国語の漢字語に関する知識や、構成要素から得られる情報
②文脈情報	部分的あるいは全体的な文の意味や、文が提示した情報
③文法知識	品詞、助詞「で」、「に」などの文法に関する知識
④世界知識	ニュース、法律、歴史などの学習者が持っている背景知識

① 語彙知識

例 (1) 「……父親が言外にそう意味を込めているのは分かった。」

答え：「言外」を見て、中国語の＜言外之意＞という意味を思い出した。だから、＜话里有话、没有用语言表达出来的意思＞という意味だと推測した。

例 (2) 「ただ国民の間にはプライバシー侵害への懸念もあり、……」

答え：中国語にも＜悬念＞という語があって、中国語の意味を借りて、＜未发生的、大家都想知道的事情＞（まだ発生していないこと、全ての人に知って欲しいこと）だと推測した。

例 (3) 「民法、刑法の基本法を抜本的に改正し、……」

答え：「本」という形態素は＜本质的＞という意味があるので、「抜本」は＜基本框架＞（基本的な骨組み）という意味である。

例 (4) 「……第5回角川小説賞を受賞、……」

答え：「受」は「受ける」という意味で、「賞」は「奨」という意味なので、組み合わせると、「受賞」は＜得奖＞という意味である。

## ② 文脈情報

例 (5) 「私は、海から上がって来るジュニアの姿を見ていた。彼は、黒い太陽の点のように見えた。それ程、海は眩しく、緑は鮮やかだった。彼の周囲に作為的なものは何ひとつなかった。ジュニアは、手に大きな巻き貝を持っていた。」

答え 1：中国語に翻訳すると、<我看到了从海上而来的ジュニア的身影、他像一个黑色的太阳的点、海很炫目、绿色很鲜艳、他的周围什么样的东西一个都没有、他拿着个贝壳>。前は全部自然的なもの、だから反対として「作為的なもの」は「人工的のもの」で、「作為」は<人為的>という意味です。

答え 2：(最初から最後まで読んでから) 「うん…全文の意味は分かったが、この単語の意味はわからないね。一人が海岸に立っていて、後ろに夕日があつて、夕日に照り映える。彼のまわりは太陽の光でいっぱいになった。だから、<映衬、装扮、充满> (照り映える、飾る、満ちる) という意味だと推測した」

例 (6) 「西郷では……ですから。しかし島に資本力がないために、戦後は浜田に次ぐ漁業前線基地でありながら、島としては零細漁業でずっときたために漸次生産力が低下して、本土の漁業の科学化に遅れを取ったのは事実です。」

答え：(網掛けの文の意味から) 資本など、何もないから、零細なことしかできない。だから規模が大きなのではできなくて、生産力の発展は遅い。だから<发展缓慢> (発展するのが遅い) という意味だと推測した。

例 (7) 「たとえ紹介状を持参していたとしても……のは当然だった。複数の診察室が同時に稼働している。頻繁にアナウンスが響き、患者の名が告げられるが、まだ順番は来そうにない。」

答え：(網掛けの文の意味から) 「複数の診察室」とあるので、診察室が違います。でも同時に稼働している、つまり同時運行しはじめるという意味です。後に「頻繁に響き」ともあるから、忙しい状態であると想像できます。だから、<开始工作>だと推測した。

例 (8) 「……きみは『間違いだらけの夫婦関係』の着想が素晴らしいなんて、一度も思ったことはなかった。……」

答え：二重括弧から「間違いだらけの夫婦関係」は作品の名前だと判断した……。

例 (9) 「かれらは徳川幕藩体制下で芸術の固定化や権威化が進むなか、格式や教養を必要としない職人の世界において、反骨精神をもつ細工師の立場を確立した。かれらは小さなもの、主題を奇想においた作品を彫り、〈粹〉の意地をつらぬいたのであった。」

答え：文が提供する単語（網掛け部分）から連想して、徳川幕府の古いイメージができたので、「反骨精神」は〈反抗精神〉という意味だと推測した。

### ③ 文法知識

例 (10) 「……幸い現役で大学に合格して……」

答え：……（中略）ここの「で」は原因、理由を表して……

例 (11) 「……きみは『間違いだらけの夫婦関係』の着想が素晴らしいなんて……」

答え：……（中略）があるので、ここの「着想」は名詞で……

### ④ 世界知識

例 (12) 「横浜市瀬谷区で起きた三菱自動車の大型トレーラーの事故以前にも、ハブ破損によるタイヤ脱落事故が数多く起きていたことが判明した。」

答え：「……背景が同じニュースを見たことがあって……」

例 (13) 「二年前、あの映画がパリで特集上映された時、新聞の一面に記事が掲載された。」

答え：「……台湾のバラエティー番組を思いつき、……」

表 4-3 手がかりのパターンと例

パターン	答えの例
文脈情報のみ 【文】 <sup>39</sup>	(文を読みながら翻訳している) <1979 年凭借这个作品得到提名 获得了第五届角川小说奖、出道>だから<获奖>と推測する。
語彙知識と 文脈情報 【語+文】	「稼働」か、学んだ「稼ぐ」と「働く」を思い出した。(一部の文 を利用して) これは病院についての話。働いて稼ぐということは通 じます。診察室が忙しいので、待つ時間が長い。だから<赚钱工作 > (稼ぎ働くこと) という意味だと推測する。
語彙知識のみ 【語】	「受賞」、賞を受ける、だから<获奖>という意味だと推測する。
文脈情報と 世界知識 【文+世】	中国でいうと、<我的电影在巴黎上映、然后新闻有刊载。>中国の バラエティーのニュースを連想した。中国のニュースには、このよ うな言い方もある。映画が上映して、トップページに載せられると か。だから<头版>という意味だと推測する
語彙知識、 文脈情報と 文法知識 【語+文+法】	「で」があるので、「現役」は連用修飾語であるはずですが。中国語 には<服兵役>、<现役军人>という語があつて、現在の意味を含 んでいます。そして、高校に入学して三年後に合格したから、<应 届>という意味だと推測する。
文脈情報と 文法知識 【文+法】	「漸次生産力が低下して」、中国の国情を参考にして、「第二生産力」 の第二を連想した。「きたために」、この「漸次」は副詞で、原因を 表すと思う。だから、「第二」ではなくて、だんだんにという意味 にしたい。だから、<渐渐>という意味だと推測する
語彙知識、 文脈情報と 世界知識 【語+文+世】	「始末」は「最初から最後まで」という意味がある。死体がいる状 態から無しの状態に変わったので、「片づける」という意味だと思 う。そして、『名探偵コナン』にも同じことがあるから<处理>と 推測する

<sup>39</sup> 【 】は本研究における称呼である。



語彙知識と 世界知識 【語+世】	文を見ないで、直接下線部の語を見る。専攻の法律には「作為犯」と「無作為犯」があるので、＜行為＞（行為、行い）という意味だと推測する。
語彙知識 文法知識 【語+法】	（直接に語を見て）「抜本的に」、「抜本」は形容詞。「本」は本質という意味です。うん…わからない。
文脈情報、 文法知識と 世界知識 【文+法+世】	（最初から最後まで読んだあと）この文章は政府が作ったものかなあ。物価下落を防ぐために何かをすべきだと思う。政府の白書、声明などを思い出した。（一文を指しながら）中国語に翻訳すると、＜密切关注＞となる。ここの「細心」は名詞なので、＜細心＞と推測する。

まとめて言うと、学習環境と関係なく、CLJ が未習の漢字語を推測する際に使った手がかりの内容は、「語彙知識」、「文脈情報」、「文法知識」、「世界知識」であり、主に「文脈情報のみ」、「語彙知識＋文脈情報」、「語彙知識のみ」、「文脈情報＋世界知識」、「語彙知識＋文脈情報＋文法知識」という五つのパターンで推測していた。

#### 4.3.2 手がかりと学習環境

JFL 環境と JSL 環境の各手がかりの出現数及び使用率を表 4-4 にまとめた。ここで言う使用率とは、環境別の延べ出現数のうち、各手がかりの出現数が占める割合である。

表 4-4 と図 4-3 とで示した手がかりの利用率の結果から、学習環境に関係なく、「文脈情報」という手がかりが一番多く使われ、その次に、語彙知識が多く使われることが分かった。

表 4-4 環境別の各手がかりの出現数（使用率）

	JFL 環境	JSL 環境
語彙知識	79 (22.57%)	96 (27.90%)
文脈情報	246 (70.29%)	216 (62.79%)
文法知識	8 (2.29%)	9 (2.62%)
世界知識	13 (3.71%)	14 (4.07%)
無	4 (1.14%)	9 (2.62%)
合計	350 (100%)	344 (100%)

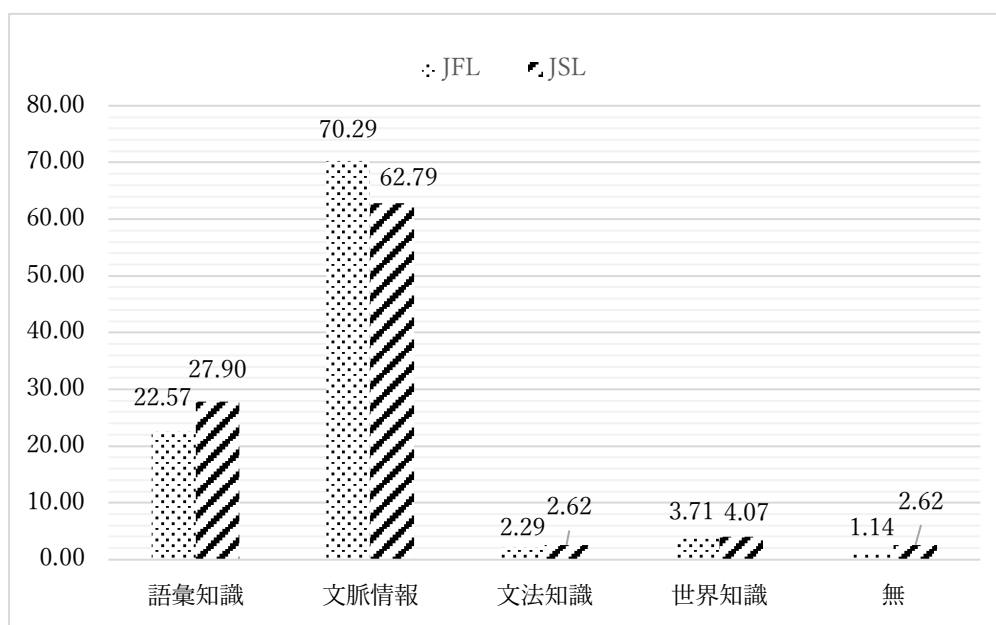


図 4-3 環境別の各手がかりの使用率

学習環境によって、手がかりの使用には差があるのかを検証するために、表 4-4 で示した環境別の手がかりの出現数を用いて、「無」以外<sup>40</sup> の 4 つの手がかりと学習環境についてのカイ二乗検定を行った。

その結果、手がかりの出現数は学習環境によって異なることが確認されなかった

<sup>40</sup> 「無」は手がかりだと考えていないため、本調査の検定ではすべて除外した。

( $\chi^2(3) = 3.518, p = 0.31$ )。この結果と残差を見ると、JFL 環境と JSL 環境での各手がかりの出現数はほぼ同じであると解釈することができる。

つまり、学習環境と関係なく、CLJ は主に「語彙知識」「文脈情報」「文法知識」「世界知識」4 種類の手がかりを使ったことを明らかにした。

また、手がかりのパターンは学習環境との相関があるか否かを検証する。JFL 環境と JSL 環境でのパターン別の出現数を表 4-5 に示した。各環境の被験者が 15 人であり、質問紙には 18 問あるため、環境別の延べ問題数は 270 問である。

表 4-5 環境別の手がかりのパターンの出現数及び割合

	JFL 環境	JSL 環境
【文】	168 (62.22%)	155 (57.41%)
【語+文】	56 (20.74%)	42 (15.56%)
【語】	16 (5.93%)	41 (15.19%)
【文+世】	15 (5.56%)	9 (3.33%)
【語+文+法】	3 (1.11%)	7 (2.59%)
【文+法】	3 (1.11%)	1 (0.37%)
【語+文+世】	2 (0.74%)	2 (0.74%)
【語+世】	1 (0.37%)	3 (1.11%)
【語+法】	1 (0.37%)	1 (0.37%)
【文+法+世】	1 (0.37%)	0 (0.00%)
【無】	4 (1.48%)	9 (3.33%)
合計	270 (100%)	270 (100%)

\* ( ) 内は当該手がかりのパターンが使用された回数の割合

JFL 環境と JSL 環境の間で、各パターンの使用回数に差があるかを見るために、カイ二乗検定を行った。検定する前に、手がかりの出現数を合算した。

品詞などの「文法知識」は語に依存しているため、「語彙情報」と「文法知識」を合わせて「A 語彙情報に関するパターン」とする。そして、「世界知識」という手がかりは「文脈情報」に依存していて、すなわち、「文脈情報」がなければ、学習者は文脈に関連する「世界知識」を思い出せないはずであるため、「文脈情報」と「世界知識」を合わせて「B 文脈情報に関するパターン」とする。「A」と「B」両方が含まれているパターンは「A+B 統合的パターン」とする。

合算した後の出現数は以下表 4-6 で示す。

表 4-6 合算したパターンの出現数

	JFL 環境	JSL 環境
A	20	43
B	183	164
A+B	63	54
無	4	9
合計	270	270

「無」を除いて、カイ二乗検定を行った結果、学習環境の間のパターンの出現数有意だった ( $\chi^2(2) = 10.083, p < .01$ )。

表 4-7 調整された残差

	JFL 環境	JSL 環境
A	-3.169 **	3.169 **
B	1.443 <i>ns</i>	-1.443 <i>ns</i>
A+B	0.827 <i>ns</i>	-0.827 <i>ns</i>

(+ $p < .01$  \* $p < .05$  \*\*  $p < .01$ )

残差分析の結果（上の「調整された残差」の表を掲載する）、「A」では JFL 環境が有意に少なく、JSL 環境が有意に多かった。

つまり、文脈の手がかり、及び統合の手がかりの使用は学習環境と関係ないが、語彙手がかりの使用は学習環境と関係があり、JSL 環境が JFL 環境より多いことが分かった。

以上の結果から、普段、日本語と接触する頻度の異なる二つのグループ（JFL、JSL）の間では、推測の手がかりの内容に違いはないが、手がかりのパターンに違いがあり、JSL 環境のほうがより語彙の手がかりを多く使用していることが分かった。

#### 4.3.3 語のタイプ、手がかりのパターンと正答率

本節では、CLJ が未習漢字語と遭遇する際に、どのタイプの語が一番推測しにくいのか、どんな手がかりのパターンを使えば正答率が一番高いのか、それらは学習環境によって違うのかを検討する。

まずは、どのタイプの語が一番推測しにくいのかを検討する。

語のタイプと学習環境が推測結果の正確さに影響があるかを検討するために、推測の結果が正しい場合は「1点」、間違った場合は「0点」で採点し、「語のタイプ」（6水準）と「学習環境」（2水準）を独立変数にし、推測の結果を従属変数にして、2元配置分散分析を行った。

その結果、学習環境の主効果（ $F(1, 168)=8.70, p<.05$ ）と語のタイプ的主効果が5%水準で有意であったが（ $F(5, 168)=14.48, p<.05$ ）、相互作用は有意でなかった（ $F(5, 168)=1.42, p>.05$ ）。

結果は表 4-8 で示す。

表 4-8 環境別の各タイプの推測結果

語のタイプ	JFL		JSL	
	N=15		N=15	
	M	S.D.	M	S.D.
S	1.40	0.82	2.13	0.74
OII	1.93	0.59	2.33	0.49
OIII	1.60	0.91	1.80	0.41
D	1.07	0.96	0.93	0.70
N①	2.47	0.63	2.60	0.63
N②	1.53	0.92	2.13	0.74

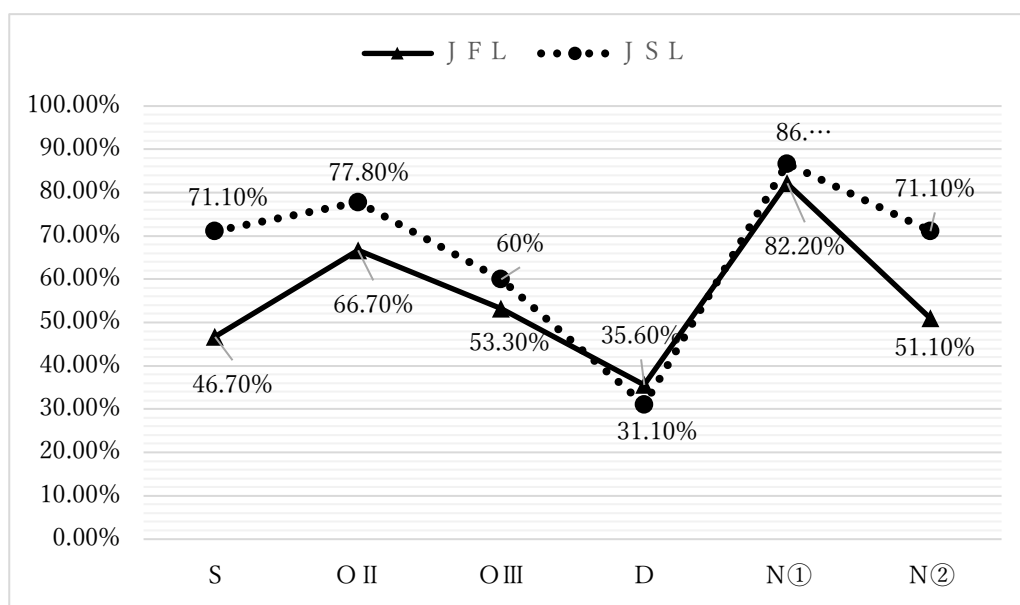


図 4-4 環境別・語のタイプ別の正答率

学習環境という要因が 2 水準であるため、多重比較する必要がない。語のタイプにおける多重比較の結果、N①語と S 語の間、N②語と D 語の間、OII 語と D 語の間に有意な差が認められた (「N①>S≒OIII≒N②>D」, 「OII>D」)<sup>41</sup>。

<sup>41</sup> 「>」は両者の間に有意な差があり、左側の値が右より有意に高いこととし、「≒」は両者の間に有意差がないことを表す。

つまり、JSL 環境でも JFL 環境でも、N①語がもっとも推測しやすく、D 語がもっとも推測しにくいということがわかった。そして、S 語、OⅢ語、N②語と OⅡ語は、D 語より推測しやすく、N①語より推測しにくいことも判明したが、それらのタイプ間の推測難易度は不明であった。

次に、どんな手がかりのパターンを使えば正答率が一番高いのかを検討する。

JSL でも JFL でも、延べ問題数は 270 問であるため、パターンの出現数が 2 桁以上のものに限定し（表 4-5 で示した上位 3 位まで絞って）、使用されたパターンと学習環境の違いによって、推測の結果が異なるか否かを検討する。1 問 1 得点で採点した上で（正しい場合は 1 点、間違った場合は 0 点）、パターンと学習環境を独立変数にし、推測の結果を従属変数にして、2 元配置分散分析を行った。

表 4-9 環境別の上位 3 位のパターンでの推測結果

パターン	JFL		JSL	
	<i>N</i>	M (SD)	<i>N</i>	M (SD)
【文】	168	0.50 (0.50)	155	0.71 (0.46)
【語+文】	56	0.73 (0.45)	42	0.79 (0.42)
【語】	16	0.86 (0.34)	41	0.44 (0.50)

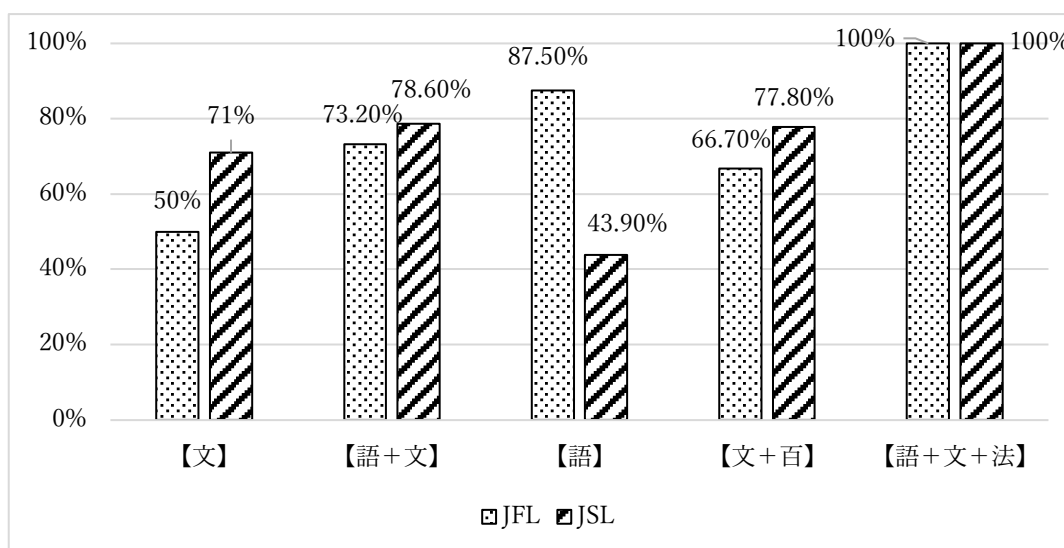


図 4-5 上位 5 位までのパターン別正答率

分析の結果、パターンの主効果 ( $F(2, 472)=4.01, p < 0.05$ ) は 5%水準で有意であったが、学習環境の主効果 ( $F(1, 472)=0.96, ns$ ) は有意でなかった。しかし、交互作用 ( $F(2, 472)=9.79, p < 0.05$ ) は有意であったため、単純主効果の検定を行った。

学習環境の単純主効果は、【文】 ( $F(1, 472)=16.11, p < 0.05$ ) と【語】 ( $F(1, 472)=9.94, p < 0.05$ ) の間が有意であった。多重比較の結果、【文】については JSL 環境の方が有意に高いが (JFL < JSL)、【語】については JFL 環境の方が有意に高い (JFL > JSL)。

一方、手がかりのパターンの単純主効果は、JFL 環境 ( $F(2, 472)=8.55, p < 0.05$ ) も JSL 環境 ( $F(2, 472)=6.78, p < 0.05$ ) も有意であった。

多重比較の結果、JFL 環境については、【語+文】と【文】の間、【語】と【文】の間で有意であった。JSL 環境については、【語+文】と【語】の間、【文】と【語】の間で有意であった。以上を整理すると、JFL 環境では、【語+文】 ≒ 【語】 > 【文】であり、JSL 環境では、【語+文】 ≒ 【文】 > 【語】である<sup>42</sup>。

つまり、JFL 環境においては、「文脈情報のみ」を使って推測した場合は正答率が最も低いのに対して、JSL 環境においては、「語彙情報のみ」を使って推測した場合は正答率

<sup>42</sup> 「>」は左側が有意に高いことを表し、「≒」は有意差がないことを表す。



が最も低い。そして、「文脈情報のみ」を使って推測した場合は、JSL 環境の CLJ の成績がより高く、「語彙情報のみ」を使って推測した場合は、JFL 環境の CLJ の成績がより高い。

以上の結果と 4.3.2 節の結果から、JSL 環境の CLJ は「語彙情報のみ」を多く使っているが、正解に導かない場合が多いことが分かった。そして、JSL 環境と JFL 環境の「文脈情報のみ」の使用率は差がないが、JFL 環境より JSL 環境の CLJ がより成績がよいことも分かった。

#### 4.3.4 文脈の長さについて

文脈の長さとの相関を検証するために、問題文を一行程度（1 問～6 問）、三行程度（7 問～12 問）、五行程度（13 問～18 問）の三段階で作成した。各段階の 6 文には、S、OⅡ、OⅢ、D、N①、N②、という 6 タイプの目的語一個ずつがある。

まずは、テスト中の学習者の反応を観察した。調査している間に、文脈の長さについての発言は何もなかった場合、インタビューの時学習者に「三段階の長さの文脈を用意しましたが、それについて何か好みとかがありませんか？」などの質問をした。

調査の結果によると、非調査者 30 人の中の 27 人（JFL 学習者 14 人、JSL 学習者 13 人）は、五行程度の問題文を見たとき、全部読まずに、推測語を含む三行ぐらいの文を利用して推測した。そこで、提示する文脈の長さは、文章なら 3 行ぐらいが一番理想的である可能性があると考えた。

#### 4.3.5 文脈の内容について

JSL 学習者を調査するとき、9 人の学習者から、「ああ、会話か、会話が好き」、「会話なら読みたいなあ」、「こういう会話があれば、場面が想像しやすいので、なんとかできる感じがする」などのフィードバックを得た。よって、会話文を利用することで学習者の意欲を高められるかもしれないと考えた。

なぜ三分の二の JSL 学習者は会話が好きなのか。文章より会話のほうが内容が簡単であるのか、それとも場面が想像しやすいためなのか。その理由を明らかにするため、そして、JFL 学習者も同じような意見を持っているかどうかを確認するために、JFL 学習者のインタビューには、「推測する際、文章と会話どっちのほうが好きですか。それはなぜですか。」という質問を加えた。JFL 学習者の 15 人は以下のように答えた。

A:「会話が好きです。会話の主語は人であることがもう分かっているからです。文章だと、主語が分からなくて混乱しやすいです。」

B:「会話のほうが分かりやすいです。内容自体が簡単だからです。」

C:「会話のほうが理解しやすいと思います。文章は長いので、どこから見始めたらいいいのか分からなくて、語気も取りにくいです。それに対して、会話は提供する情報が多くて、内容も簡単ですし、分かりやすいです。もし文章の中に新出単語が一つしかないなら、嬉しいけど、残念ながらありえませんが。」

D:「会話はあまり好きではありません。話し言葉的なものが多いからです。文章のほうが情報がより多く捉えられるからです。」

E:「会話だったら、推測しやすいです。二人が話しているので、反対の意見が出てくるかもしれません。例えば、「でも」とかがあって、B の話す内容を推測すれば、きっと A の反対だと思います。」

F:「どっちでもいいです。」

G:「文体や内容など、特に好みはありません。」

H:「どっちでもいいと思います。」

I:「文体に関係なく、内容が面白いなら読みたいです。例えば、殺人、恋愛、不倫などがあれば。」

J:「どっちでもいいと思います。」

K:「どっちでもいいです。」

L:「会話のほうがいいと思います。一行だけで推測することができますから。」

M:「会話でもいいし、文章でもいいです。ただし、哲学や思想に関するエッセイが好きです。歌を歌う感じがします。そして、自分の経験に関わる内容なら分かりやすいです。」

N : 「文章が好きです。それに、文学的な、叙事的な文が好きです。説明文や科学的な文は嫌いです。ニュースは最初あまり好きではありませんでしたが、勉強する必要があると思って、むりやり好きになりました。」

O : 「文体など特にこだわりはありません。内容が面白ければいいと思います。」

調査結果によると、15人中、5人は会話が好き、2人は文章が好き、5人は特に好みがない、3人は文体と関係なく内容を重視すると答えた。つまり、同じ傾向が見られなかった。よって、JFL 学習者にとって、推測する場合、個人の好みに合う文脈があるとモチベーションを高めることにつながると考えられる。

#### 4.4 考察

本調査では、中国人学習者が未習の漢字語を推測する際に、どのような手がかりを使っているかを具体的に探り、特に学習環境が手がかり、カテゴリー、文脈の長さとの相関があるかに着目して考察したうえで、文脈を使った漢字語の意味推測の実態を明らかにした。

前節で述べた結果を以下 RQ (1) ～ (5) にまとめ、先行研究と比較しながら、その理由を考察する。

RQ (1)、手がかりの内容及び学習環境との相関について、CLJ が未習の漢字語に遭遇した際に、学習環境と関係なく、主に、「語彙知識」「文脈情報」「文法知識」「世界知識」4 種類の手がかりを使うことを明らかにした。

RQ (2)、手がかりのパターン及び学習環境との相関について、CLJ が未習の漢字語に遭遇した際に、学習環境と関係なく、「文脈の手がかりのみ」、「語彙の手がかりのみ」、「統合的に文脈情報と語彙知識を使う」というパターンが利用可能であることを明らかにした。そして、「語彙の手がかりのみ」は、JFL 環境の学習者の使用数が JSL 環境の学習者より有意に少ないことも明らかにした。

以上の結果は、調査目的で述べた、CLJ が未習漢字語に遭遇した際に、「語彙知識」と「文脈情報」だけでなく、他の手がかりも使用可能であるという予測を支持した。つまり、崔自身が述べているように、崔 (2015a、2015b) は「調査の回答方法の制限で一部の手がかりの使用状況しか明らかにしていない」(崔 2017 : p35) ことが判明した。そして、JFL 環境では「文脈情報のみ」の割合が一番高い (62.22%) ことと、「語彙の手がかりのみ」の使用は JFL 環境の学習者がより少ないという結果も、崔 (2015b) で見られた、JFL 環境の CLJ は文脈情報のみで推測する傾向を支持した。

本調査での手がかりの内容を、Paribakht & Wesche (2015) の手がかりの分類基準を採用した崔 (2017:43) の「表 6」と照らし合わせると、以下表 4-10 の結果となる。

本調査では、L1 と L2 を区別せずに、調査対象語の形態素からの連想や共起をまとめ

て、「語彙知識」と称した。そして、文法知識も文が提供された情報の一部であるが、本調査では単独に取り上げ、「文法知識」と称する。それは、「語彙知識+文脈情報」の正答率は 73.20%と 78.60%であるが、「文法知識」を使うことで正答率が 100%になり、「語彙知識+文脈情報+文法知識」の正答率は 100%であるからだ。

表 4-5 と図 4-5 で示したように、「語彙知識+文脈情報+文法知識」というパターンの出現数が JFL 環境では 3 回、JSL 環境では 7 回、1 桁で統計分析の対象外になったが、唯一正答率が 100%のパターンとして、重視すべきだと思われる。このことから、「文法知識」は正しい推測にたどり着くための重要な手がかりであり、語彙知識、文脈情報、文法知識を組み合わせる方法が一番理想的な推測方法である可能性が高いと考える。

表 4-10 手がかりの内容が崔 (2017) との比較

研究	本調査	崔 (2017)
手がかりの内容	語彙知識	語の形式、語の共起、語の連想、 語の共起 (L1)、語の形式 (L1)
	文脈情報	文の意味、文章の意味
	文法知識	文の文法
	世界知識	世界知識

RQ (3)、正確さへの、語のタイプと学習環境による影響について検討した結果、学習環境と関係なく、最も推測しやすいのは N①語であり、その次は S 語、OⅢ語、N②語と OⅡ語であり、最も推測しにくいのは D 語であることが判明した。

語のタイプと未習語の意味推測難易度との関係を検討した先行研究は陳 (2003) と崔 (2017) があり、両方とも文化庁 (1978) の分類に基づいたものである。前者は、S 語と N 語の一部 (漢字から推測可能なもの) が簡単で、D 語が困難で、O 語が不明であることを明らかにし、後者は S 語が簡単で、O 語、D 語、N 語が不明であることを明らかにした。

そして、陳 (2009a) の分類に基づいた陳 (2009b) の結果から、S 語、O①語、N①語が簡単で、O②語、N②語、D 語が困難であることも明らかになった。本調査は S 語、OⅡ語、OⅢ語、D 語、N①語、N②語を調査語の対象としたため、文化庁 (1978)・三浦 (1984)・陳 (2009a)、3つの枠組みとも参照したと言える。

N①は最も簡単であるという結果は、陳 (2003) と陳 (2019b) の知見を支持した。N①が漢字から推測可能な語であり、文脈がなくても、漢字知識の利用という母語の正の転移を受け、正しい推測ができる。文脈から役立つ情報が見つかっても見つからなくても、正解に辿り着ける。

そして、D 語は最も困難であるという結果も、陳 (2003) と陳 (2019b) の知見を支持した。D 語が日中同形異義語であり、そのまま中国語の意味を借用すると、母語の負の転移を受け、文脈に頼って推測するしかない。文脈から役立つ情報が見つからない場合、推測が困難であるため、D 語が困難である。

また、OⅡ語、OⅢ語の難度が不明であるという結果は陳 (2003) の知見を支持し、三浦 (1984) のように O 語を OⅠ、OⅡ、OⅢに分けるのではなく、他の分類の仕方を考える必要であると考えられる。

N②は D より簡単であるという結果は、陳 (2009b) の結果と異なり、以下三つの理由があると考えられる。

一つ目は、台湾と大陸で使われている中国語が違い、同じ分類であっても、調査語の質が異なるためである。

二つ目は、本調査での被験者のレベルが揃っていないためである。6.2.1 節で述べたように、本調査では、JSL 環境と JFL 環境の被験者が同レベルだと判断したが、あくまでも目安で、厳密的な習熟度テストを行っていなかった。

三つ目は、陳 (2009b) の調査法と異なるためである。陳 (2009b) は「正誤判断テスト」と「母語訳テスト」2種類の調査を行い、テストの種類によって異なる結果がでた。本調査は、その2種類とも違う「発話思考法+フォローアップインタビュー」を用いて調査したため、違う結果が出ると考えられる。

先行研究の知見によると、S 語が N①より簡単か (崔 2017 : 「S>N」)、S 語と N①語が同じ (陳 2019b : 「S=N①」 (中級・上級)) であるが、本調査では、S 語が N①語よ

り困難 (S<N①) であることが分かった。それは、中上級学習者は未習の S 語を推測する際に、S 語だと知らない場合、あえて日中同形同義であると思わないようにし、違う結果に導いたためであると推察される。

RQ (4)、正確さへの、手がかりのパターンと学習環境による影響について検討した結果、JFL 環境においては、「文脈情報のみ」を使って推測した場合に正答率が最も低いのに対して、JSL 環境においては、「語彙情報のみ」を使って推測した場合に正答率が最も低い。そして、「文脈情報のみ」を使って推測した場合は、JSL 環境の CLJ の成績がより高く、「語彙情報のみ」を使って推測した場合は、JFL 環境の CLJ の成績がより高い。

この結果を手がかりのパターンの出現数 (表 4-5) と合わせて見てみると、日本にいる CLJ は、語彙知識のみという方法をよく使ったが、正しい結果にたどり着けないことが多かった。逆に、中国にいる CLJ は、語彙知識のみをという方法をあまり使わなかったが、正答率が高い。これは、中国にいる学習者と比べ、日本にいる学習者は日本語との接触が多いため、学習者自身の日本語能力に自信を持っているからであると推測される。

また、文脈情報のみという方法を使うとき、JSL 環境の学習者が JFL 環境の学習者より成績がよいというのは、JSL 環境の学習者はより文脈から役立つ情報を探す能力、つまり読解能力が高いからであると考えられる。

RQ (5)、文脈の長さや文脈の内容について、長さは、文章なら 3 行ぐらいが一番理想的である可能性があると考え、内容は、同じ傾向が見られなかったため、JFL 学習者にとって、推測する場合、個人の好みに合う文脈があるとモチベーションを高めることにつながると考えられる。

これは一見当たり前の結果であるが、多読などの活動を通して、付随的語彙学習をする際に、なるべく学習者の個人の好みに合わせた教材・資料を用意したほうが効果的であることが示唆された。

#### 4.5 まとめ

本章では、既存の枠組みに沿って、探索的調査を行い、CLJによる未習漢字語の意味推測の実態をある程度明らかにした。

本調査は、語数がやや少ない、より厳密的な習熟度テストを行うべきだという問題点があるが、使われた手がかりの項目を明らかにした点で、推測可能なパターンの実例を挙げながら説明している点で、そして、既存の語のタイプによる推測難易度を考察した点において意義があるものと思われる。

そのうち、語のタイプ別の推測難易度は先行研究と一致している部分もあり、一致しない部分もある。

同じく文化庁（1978）と三浦（1984）の「S、O I、O II、O III、N」という分類に基づいて調査をしたが、O語についての結果は、陳（2003）、李（2006）と本調査が全て異なった。調査法の違いが一つの原因だと考えられるが、O語は多義性があり、どの部分を取り出して調査したのがより大きな原因だと考えている。このことから、新しい枠組みの提案が必要であることが示唆された。

そして、先行研究から「S語がもっとも簡単」という結果が得られたが、本研究ではS語がN①語より難しいという違う結果が明らかになった。それは、未習のS語を推測する際に、S語だと知らない場合、あえて日中同形同義であると思わないようにし、違う結果に導いたためであると推察される。このことから、未習・既習も一つの要因として調査に入れる必要であることが示唆された。

以上の問題点、示唆、及び第2章を踏まえ、第5ではより漢字語の習得と教育に相応しい枠組みを提案する。第5章で提案された新しい枠組みに基づいて、第6章では語数を増やして、未習・既習という要因を入れた上でより厳密な調査を行う。



## 第5章 日中対照分析の枠組みの提案

第2章では理論的に新たな枠組みの必要性を述べ、第4章では実際の調査結果からその必要性に関する示唆が得られた。第2章と第4章を踏まえ、本章では、二字漢字語の意味における日中対照の新しい枠組みを提案し、その枠組みに基づいて、実際の分類作業を行い、分類の結果を述べる。

### 5.1 新たな枠組みの提案

#### 5.1.1 「Nothing in Japanese Orthography」という視点

2.2.2 節で述べたように、従来の二字漢字語における日中対照分析の枠組みは全て「Nothing in Chinese Orthography」の分類である。筆者の知る限り、張(1987)の『中日漢語対比辞典』は唯一「Nothing in Japanese Orthography」に言及する意味分類に関する記述研究であるが、文化庁(1978)とまったく同じ分類記号を用いたため、定義と説明に齟齬がある。

「4.Nothing 中国語では使用しても、日本語では使用して(ママ)、対照することができない言葉を Nothing 類に入れた。

例えば、「哀鳴」は、中国語では“哀しげに泣く”という意で用いるが、現代の日本語では普通もはや使用しない。また中国語では養魚場のことを「養魚池」というが、日本語にはこの語はない。このような語を N 類とする」

張(1987: 凡例)

そのほか、CLJ を対象とする習得研究である小森ほか(2014)も「Nothing in Japanese Orthography」に言及し、出題語である N 語の下位分類について、以下のように述べているが、文化庁(1978)の分類を用いたため、「Nothing in Chinese Orthography」の語の中で「Nothing in Japanese Orthography」の意味について検討することになってしまい、語ごとに検討しているのかそれとも意味ごとに検討しているのかがわかりにく

い。

「N語テスト(1)は、出題語はN語だが、その中国語相当語が中国語に固用の語で、日本語にはない語である。例えば、日本語の「財布」の場合、中国語の相当語は『钱包』で、これは中国語の固用語である。日本語字体に直した「\*钱包」という語は日本語には存在しない。…N語テスト(2)も、出題語はN語だが、その中国語相当語が日本語にもある同形語(O語とD語)である。例えば、日本語の「入力」には、<文字や数値等の情報をコンピュータに入れる>という意味があるが、この意味に相当する中国語は『輸入』である。しかし、この『輸入』は中国語だけでなく、日本語でも使われる。…」

小森ほか(2014:7)<sup>43</sup>

### 5.1.2 意味ごとに対応関係を検討した新しい枠組み

物事概念が存在する限り、全ての日本語と意味的に対応する中国語は存在するはずである。よって、本稿では、日本語の二字漢字語と意味的に対応する中国語が存在することを大前提として、かつ語彙化されている語のみを研究対象とする。

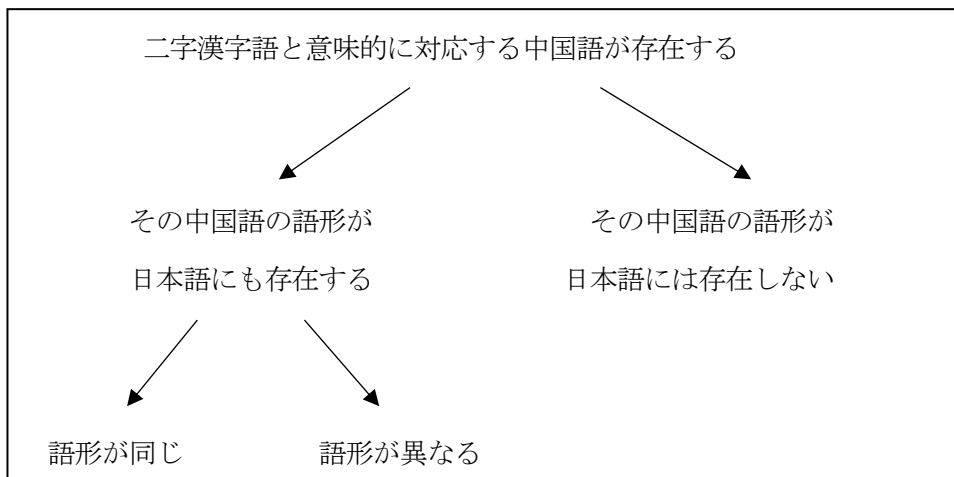


図 5-1 分類の基準

<sup>43</sup>小森ほか(2014)では、日本語の語彙は「」で、中国語の語彙は『』で囲んでいる。

母語知識を利用するという観点から、図 5-1 の分類基準を説明すると、CLJ は特定の文脈にある二字漢字語に遭遇した際に、その漢字語の表す「意味」を知っているはずであるため、「意味」を表す中国語を思い浮かべるとする。

まずは、思い浮かべた中国語の語形は日本語に存在するかどうかによって分類し、次に、存在する日本語の語形と同じかどうかによってさらに分類する。つまり、表 5-1 で示す 3 つのタイプに分類することができる。

表 5-1 意味ごとに提案した新たな枠組み

分類	定義	イメージ図 <sup>44</sup>
Same in Japanese Orthography 【SJO】	漢字語と意味的に対応する中国語が漢字語と同形である	X (日) = X (中) = X (日)
Overlap in Japanese Orthography 【OJO】	漢字語と意味的に対応する中国語が漢字語と同形ではないが、日本語に存在する	X (日) = Y (中) ≠ Y (日)
Nothing in Japanese Orthography 【NJO】	漢字語と意味的に対応する中国語が日本語には存在しない	X (日) = Z (中) ; Z (日) 非存在

以下具体的な例で各分類を説明する<sup>45</sup>。

SJO 類の場合、「親としての責任を考えると」にある「責任」という漢字語の意味的に対応する中国語が<責任>であり、漢字語「責任」と同形であるため、「Same in Japanese Orthography」に分類する。

OJO 類の場合、「この道はルールが改正された」にある「改正」という漢字語の意味

<sup>44</sup> アルファベットは構成要素の漢字を表し、「=」と「≠」は意味が同じかどうかを表す

<sup>45</sup> 本研究では、日本語の語彙は「」で、中国語の語彙は<>で囲んでいる。

的に対応する中国語が<修訂>であり、「改正」と同じではないが、日本語にも「修訂」が存在するため、「Overlap in Japanese Orthography」に分類する。

NJO 類の場合、「いろいろな書類をそろえている」にある「書類」という漢字語の意味的に対応する中国語が<文件>であり、日本語には「文件」が存在しないため、「Nothing in Japanese Orthography」に分類する。

## 5.2 分類の作業

### 5.2.1 作業の進め方

前節で述べた分類の基準に沿って、以下の手順で分類作業を行った。

第1段階では、『日本語を読むための語彙データベース』<sup>46</sup>にある「留学生語彙ランク」という指標を基準にし、初級、中級前半、中級後半、上級それぞれ「留学生語彙ランク」のIDの順番で語を多めに選別した。データベースの各レベルと旧日本語能力試験との対応を表5-2に示す。「留学生語彙ランク」のIDの順番は頻度順で並んでいるため、小さい番号から大きい番号まで順番に各レベルの語を選別した。そのうち、「初級」「中級前半」「中級後半」の全ては選別の範囲であるが、「上級」では「1級のみ」の語を選別の対象とした。

表 5-2 「留学生語彙ランク」と旧日本語能力試験の対応

留学生語彙ランクの ID		旧日本語能力試験	選別の基準
初級	1-1315	4 級と 3 級	全て
中級前半	1316-4000	2 級	全て
中級後半	4001-7000	2 級	全て
上級	7001-20000	2 級と 1 級と 0 級 <sup>47</sup>	1 級のみ

第2段階では、使用頻度の高い意味を選ぶために、NINJAL-LWP for TWC（以下、NLT）のデータにあるコロケーション情報に基づいて、高頻度の意味を選別した。

NLT は、日本語のウェブサイトから収集して構築した約 11 億語のコーパス『筑波ウェブコーパス』（以下、TWC）を検索するためのツールである。検索には、国立国語研究所（以下、国語研）と Lago 言語研究所が共同開発したコーパス検索システム NINJAL-LWP を利用している。語ごとのコロケーション情報を見られる、同じシステムを利用し

<sup>46</sup> 『日本語を読むための語彙データベース』 Ver.1.1  
<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/database.html>

<sup>47</sup> 「0 級」とは「級外」の意味である

た『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJ)を検索する NINJAL-LWP for BCCWJ(以下、NLB)というコーパスもあるが、本稿で NLT を選んだのは、TWC (『筑波ウェブコーパス』) がより規模が大きいウェブページの日本語コーパスであり、比較的新しい使い方なども含まれていると考えたからである。

操作手順としては、画面上の入力ボックスに「見出し語」を入力し、「絞り込み」ボタンをクリックして、見出し語ウィンドウを開く。ここでは、左側の文法パターンパネルの「パターン頻度順」をクリックすると、コロケーションのパターンを頻度順で並べることができるので、それぞれのコロケーションをクリックし、右のパネルにその用例を表示させた。この操作手順で、一番上から総頻度の 9 割までのパターンを一個ずつクリックして、コロケーションパネルと用例パネルを見ながら、コーパスで使われている実際の用例を一つずつ確認した。確認する際に、『スーパー大辞林 第 3 版』の語義の意味記述も参考にし、高頻度の意味・用法を 2 つまで取った。なお、品詞が複数ある場合は品詞ごとに分けて検索した。例えば、「意味」という語を、名詞「意味」と動詞「意味する」に分けて検索した。

第 3 段階では、選んだ高頻度の意味・用法をリストアップし、日本語母語話者 2 名に判定してもらい、コーパスの用例にある不自然な記述を修正した。

第 4 段階では、「漢字語と意味的に対応する中国語」の妥当性を検証するため、日本で日本語学や日本語教育を専攻する中国語が母語の博士課程大学院生 3 名を対象とし、NLT から抽出した日本語の例文を与え、対象語の中国語訳が正しいかどうかを判断してもらい、誤っていると判断される場合は正しい訳語を書いてもらった。

第 5 段階では、「漢字語の意味的に対応する中国語」が日本語に存在するかどうかを検証するため、日本語が母語の博士課程大学院生 3 名に許容度判断をしてもらった。そのうち、2 名の判定が一致したものは確定し、3 名の判定が全て異なった場合は、2 名以上の合議の上、判定を確定した。結果の一部を以下表 5-3 にまとめる。

## 5.2.2 分類の結果

用例を文化庁（1978）・三浦（1984）と比較しながら説明する。

表 5-3 新たな枠組みに基づく分類作業の一部の結果

分類	漢字語【文化庁/三浦】	NLT 例	意味的に対応する中国語
SJO (Same in Japanese Orthography)	幸運【S】	幸運がやっと訪れたのだ	<幸運>
	未定【O I】	次の入荷は未定です	<未定>
	位置【O II】	手の位置に頭を移動する	<位置>
	創作【O II】	劉天華が 1918 年に創作した曲	<創作>
	単位【O III】	町単位で実施します	<単位>
	水平【O III】	肩と水平を保つ程度の枕を使用	<水平>
OJO (Overlap in Japanese Orthography)	創作【O II】	人気のある創作料理店	<創意>
	水平【O III】	他国は 20 年前から水平を保っている	<平衡>
	調子【D】	喉の調子が悪い	<状態>
	見当【N】	地図で大体の見当をつけ車を走らせる	<方向>
	機嫌【N】	機嫌が良くなってきた	<心情>
NJO (Nothing in Japanese Orthography)	位置【O II】	八王子の中心部に位置する	<位於>
	単位【O III】	38 単位以上取得している者	<学分>
	迷惑【D】	他人に迷惑をかける	<麻煩>
	見当【N】	全然見当が付きません	<頭緒>
	寄付【N】	収益の一部は自然保護団体に寄付される	<捐贈>

S語である「幸運」<sup>48</sup>の場合、「幸運がやっと訪れたのだ」の「幸運」は、「意味的に対応する中国語」が<幸運>であり、<幸運>=「幸運」のため、【SJO】類に属する。

OⅠ語である「未定」の場合、中国語のほうが意味範囲が広いため、「日中共通の意味」である「次の入荷は未定です」の「未定」は【SJO】類に属するが、「中国語独自の意味」である<惊魂未定>（びっくりしてまだ気持ちがおさまらない）の<未定>（落ち着かない）は分類の対象外である。

OⅡ語である「位置」と「創作」の場合、日本語のほうが意味範囲が広いため、「日中共通の意味」である「手の位置に頭を移動する」の「位置」と「劉天華が1918年に創作した曲」の「創作」は【SJO】類に属し、「日本語の独自義」は【OJO】類（「人気のある創作料理店」の「創作」）か【NJO】類（「八王子の中心部に位置する」の「位置」）に属する。

OⅢ語の場合、「中国語独自の意味」は対象外だが、OⅡ語の場合と同じく、【SJO】類に属する意味もあり（「町単位で実施します」の「単位」、「肩と水平を保つ程度の枕を使用」の「水平」）、【OJO】類か【NJO】類に属する意味もある（「他国は20年前から保っている」の「水平」、「38単位以上取得している者」の「単位」）。

D語は、「日中共通の意味」がないため、【OJO】類（「喉の調子が悪い」）あるいはⅢ類（「他人に迷惑をかける」）に属する。

N語はD語と同じく、意味ごとに分けると、【OJO】類（「地図で大体の見当をつけ車を走らせる」の「見当」、「機嫌が良くなってきた」の「機嫌」）および【NJO】類（「全然見当がつかません」<頭緒>寄付「収益の一部は自然保護団体に寄付される」<捐贈>）に属する。

つまり、意味ごとに分類すると、従来の「S、OⅠ、OⅡ、OⅢ、D、N」という5つの分類は、完全な同形同義の「SJO」、完全な同形異義の「OJO」、と日本語に存在しない「NJO」という、よりCLJの自然な情報処理に相応しい3つの分類となった。

---

<sup>48</sup> 本研究では、日本語の語彙は「 」で、中国語の語彙は< >で囲んでいる。



### 5.3 まとめ

本章では、複数の意味を持つ語レベルの分類ではなく、CLJの母語知識を利用するという観点から、意味ごとに検討した上での新しい枠組みを提案し、651の意味を実際に分類した。第6章と第7章はその枠組みに基づき、二字漢字語の習得研究における言語間の類似性および母語の転移についてさらに検討する。なお、全ての分類結果のエクセルデータは付記の資料Vを参照のこと。(資料Vの意味は、「N1→N2N3→N4→N5→級外」という日本語能力試験の順でリストアップされている。)

## 第6章 新たな枠組みに基づく質的調査（調査2）

### 6.1 調査目的

3.2.3 節で述べたように、従来の意味推測研究は質問紙か発話思考法で行われてきた。質的研究の手法としては、両方とも検討する余地があると考えられる。質問紙だと、学習者の心中に起こっていたことを見えず、発話思考法だと、練習しても慣れない学習者がいる。

そこで、本調査では、3.2.3 節の最後で提案している「口頭訳の読解テスト+フォローアップインタビュー」という方法を採用する。そして、従来の文化庁(1978)・三浦(1984)の枠組みに基づいた調査と違って、本調査は第5章で提案している新しい枠組みに基づいて調査する。さらに、探索的調査（調査1）の結果を踏まえ、未習・既習別に JFL 環境の CLJ による二字漢字語の受容の実態を調査することを目的とする。

本調査では、CLJ の二字漢字語の受容において、語のタイプ、ストラテジーの利用、未習か既習という3つの側面から検討する。リサーチ・クエスチョンは以下のとおりである。

- RQ (1) : CLJ が二字漢字語を理解する際に、結果の正確さは語のタイプによって異なるのか。
- RQ (2) : RQ (1) は、調査対象語の未習・既習によって異なるのか。
- RQ (3) : CLJ が二字漢字語を理解する際に、ストラテジーの使用は語のタイプによって異なるのか。
- RQ (4) : RQ (3) は、調査対象語の未習・既習によって異なるのか。

## 6.2 調査内容

### 6.2.1 調査方法

「4.2.2 節」で述べたように、どうしても発話思考法に慣れない学習者がいるため、本調査では、「口頭訳の読解テスト」とフォローアップインタビューを採用した。

### 6.2.2 調査対象者

調査は、2018年7月に中国華北地域にある大学で行った。学部1年生15名と3年生15名を対象とした。念のため過去の学習歴をフェイスシートによって尋ねたところ、平均日本語学習歴はそれぞれ10ヶ月と34ヶ月であり、全員日本への留学歴はなかった。

### 6.2.3 調査対象語及び調査材料

調査語の選出においては、資料Vを基礎資料とし、調査協力校の精読という授業で使われている1年次の教科書<sup>49</sup>の語彙リストに照らし合わせながら、リストに載っていない漢字語のみを抽出し、さらに、それらの語を「リーディング チュウ太」<sup>50</sup>にかけて、N2N3級（旧日本語能力試験2級）に統一し、語彙リストを用意した。

教科書と照らし合わせるのは、調査語が1年生にとっては未習語で、3年生にとっては既習語であることを確保するためである。語のレベルをN2N3に統一したのは、協力校で「3年次の終わる前にN1を合格する」という卒業条件を満たすように、3年生の学習者N1までの語彙を学習者したはずであり、3年生にとっては既習語であることを確保するためである。

調査材料の作成においては、言語教師経験のある日本語母語話者に、語彙リストにある語を用いて読解文章を作成するよう依頼し、3つの文章を得た。

文章の長さは200文字前後で、難易度はjReadability<sup>51</sup>で「中級前半」に統一され、それぞれSJO類10語、OJO類10語、NJO類10語が入っている。

---

49 『新編日語』上海外語教育出版社

50 リーディング チュウ太：<http://language.tiu.ac.jp>

51 日本語文章難易度判別システム：<http://jreadability.net/>

調査対象語の内容と分布は表 6-1 と表 6-2 で示し、調査材料は付記の資料Ⅱをご参照  
 いただきたい。

表 6-1 調査対象語

分類	語	NLT 例	中国語
SJO	責任	誰も責任を取らない。	責任
SJO	期待	強くなりたい。彼女の期待に応えたい。	期待
SJO	不安	髪が傷むのではないかと不安を感じさせません！	不安
SJO	一般	一般に、就寝の3時間前のことをいいます。	一般
SJO	費用	費用は40万！	費用
SJO	当然	ステロイドを使ってないのだから、当然、痒い。	当然
SJO	公平	「人生は公平ではない。それに慣れよ。」と。	公平
SJO	存在	どうして忘れていたのだろう。	存在
SJO	克服	もっと施術を受けて完璧に克服をしようと思います	克服
SJO	幸福	相手に50与えれば、お互いが幸福になれます。	幸福
OJO	改正	この会則の一部を改正する。	修訂
OJO	駐車	違法駐車が多くて迷惑している。	停車
OJO	一体	果たして。もともと。一体何の話し？	到底
OJO	世間	世間の目を気にする。	世人
OJO	単純	計画は単純なものです。	簡単
OJO	裁判	裁判では白黒をつける。	審判
OJO	請求	交通事故の慰謝料を請求された。	要求
OJO	神経	とにかく、繊細な神経の持ち主だったことが分かる。	感覚
OJO	厳重	厳重に薬を管理してください。	嚴格
OJO	用心	説教やカウンセリングをしないよう用心してください	注意
NJO	正直	正直に話しました。	老实
NJO	気味	彼氏が最近うつ気味で心配しています。	有点
NJO	一応	下まで行き一応の雰囲気を確認する。	大致

NJO	書類	申請書類が多いのだ。	文件
NJO	強引	話を強引に戻しましたよ。	強行
NJO	的確	要点を的確に把握することが重要です。	正確
NJO	必死	これから必死に頑張ってみようと思います！	拼命
NJO	完全	完全な人間。	完美
NJO	確実	あの脱毛方法は再度生える事が無い確実な方法です。	可靠
NJO	帰宅	21 時過ぎに帰宅しようとしたら突然の大雨。	回家

表 6-2 調査語の分布

文章	調査語	文章の長さ	文章難易度
文章 I	SJO・10 語	169 字	中級前半
文章 II	OJO・10 語	212 字	中級前半
文章 III	NJO・10 語	200 字	中級前半

#### 6.2.4 手続き

読解の口頭訳テストは以下の手順で実施した。

協力者に調査材料を提示し、文章の意味理解を語ってもらい、「分からないところと確定できないところがあったら、下に線を引いてください」と母語で指示した。その間に、筆者は被験者が口頭で訳した内容を書き起こす。口頭訳が終わった直後に、筆者が訳文を見ながら、フォローアップインタビューを行い、対象語の意味となぜその意味だと思えるかを聞き、被験者に口頭で理由を説明してもらった。

調査は主に非調査者の母語、つまり中国語で行い、中国語で意味が伝わらない場合は日本語や英語でも良いと被験者に伝えた。制限時間はとくに設定せず、十分に時間を与えた。調査は一人約 30 分～40 分で、被験者の了解を得て、録音した。調査にあたっての指示はすべて中国語で行った。

対象語は未習か既習かを確認するために、読解テストを実施した後に、被験者に自己申告してもらった。

### 6.3 分析方法

表 6-3 採点基準

採点	判定基準
3点	回答が「意味的に対応する中国語」 <sup>52</sup> と完全に合っている。
2点	回答が「意味的に対応する中国語」と完全に合っていないが、正解である。
1点	回答が調査対象語の意味と部分的に合っているが、不正解である。
0点	回答が不正解である。

表 6-4 未習語の手がかりの分類基準

手がかり【記号】		定義	
言語的	語彙知識【V】	語の連想【V1】	対象語を見て関連する中国語を連想する【V1・L1】
			対象語を見て関連する日本語を連想する【V1・L2】
		語の共起【V2】	対象語がどの言葉と一緒に使うかの判断
		語の形式【V3】	構成要素の意味を説明する
	文脈情報【T】	文の意味【T1】	文を手がかりとして利用する (対象語を含むか否かに関係なく)
		文の文法【T2】	文法に関する言及
		記号【T3】	記号に関する言及
非言語的	世界知識【W】	調査材料と関連をもつ様々な事柄	

文字に起こした録音データを基に、回答の採点作業と手がかりの分類作業を行った。推測の結果が正しいと判断する場合は1点を、不正解と判断する場合は0点を採点し、

<sup>52</sup> すなわち、表 6-1 の「中国語」という列である。

採点基準は表 6-3 で示す。

手がかりの内容の分類基準について、第 4 章の分類基準を基にし、Paribakht & Wesche (2015) を参照した上で、以下表 6-4 の基準を設定した。各手がかりの発話例<sup>53</sup>も以下に挙げる。

・語の連想【V1】

例(1): 联想到中文的责任。

(中国語の<责任>を連想して) 【V1・L1】

例(2): 中文的请求是求别人。

(中国語の<请求>は「誰かにお願いする」という意味) 【V1・L1】

例(3): 以前见过「气配」

(「气配」という日本語を見たことがある) 【V1・L2】

例(4): 想到在日剧里见过「裁判所」

(テレビドラマに「裁判所」という語を見たことがある) 【V1・L2】

・語の共起【V2】

例(5): 中文里不说完全的计划。

(中国語では「完全なプラン」と言わない)

・語の形式【V3】

例(6): 书就是书、类就是种类、所以是书的种类。

(「書」は本で、「類」は種類で、合わせて本の種類という意味にした。)

例(7): 归在古代中文里有回的意思、宅在古代中文里有家的意思、所以翻译成回家。

(古典の中国語には、「帰」が帰るという意味で、「宅」が家の意味なので、「家に帰る」と訳した)

---

<sup>53</sup> 第 5 章ではすでに日本語訳で被験者の発話例の全体像を示したため、本章では手がかりの判定基準となった中国語の単文のみとそれぞれの日本語訳を提示する。

・文の意味【T1】

例(7): 这句话的意思是…

(この文の意味は…)

例(8): 带入这句话里验证…

(この文に入れて…)

例(9): …是修饰这个计划的

(「プラン」を修飾する…)

例(10): 结合上下文

(前後の文章を合わせて)

例(11): 从前面两句推测出…

(前の二つの文から推測した…)

・文の文法【T2】

例(12): 因为「される」是被动

(「される」は受け身表現だから)

例(13): 有「に」、是个副词

(「に」があるから、副詞だと分かった)

・記号【T3】

例(14)<sup>54</sup>: 因为有『 』, 所以应该是个书的名字

(『 』という記号があるから、本の名前だと分かった)

・世界知識【W】

例(15): 因为我姐一年前生完孩子、养孩子就是很辛苦

(姉は一年前に子供を生まれて、育てるのが大変だったから)

---

<sup>54</sup> 調査2では記号【T4】という手がかりが出現しなかったため、調査1の発話例を借りた。他の発話例は全て調査2に出現したものである。



## 6.4 結果

### 6.4.1 正確さについて

本節では、RQ1 と RQ2 について分析した上で、結果を述べる。分析指標は各タイプの語の得点となる。表 6-5 は、それを示したものである。学習者の自己申告の結果、既習語の場合は、全ての調査対象語に対して全員が「既習」と報告したため、各タイプの既習語の点数をそのまま集計する。未習語の場合は、「既習」と報告された語を除いた上で、残った語の得点を満点 30 との比率で調整した。

表 6-5 語のタイプ別の得点 (N = 30)

未習			既習		
SJO	OJO	NJO	SJO	OJO	NJO
30	6.7	6	28	17	13
25	5.6	4	30	19	13
30	3.3	5	30	18	18
29	6.7	3	30	18	16
29	15	4	30	19	20
30	12.5	4	30	20	20
30	20	6.7	30	22	21
30	10	3	30	12	17
30	8.9	6	30	24	24
27	7.8	5	30	22	22
30	12.5	3	30	23	19
27	11.3	6.7	30	23	15
27	11.3	8	30	23	22
30	12.2	8.9	30	20	21
29	10	6	30	22	21

正確さへの、語のタイプと未習・既習による影響が見られるかどうかを統計的に検討するために、調査語の意味理解の結果について、2元配置分散分析を行った。独立変数は語のタイプ要因（SJO、OJO、NJOの3水準）と未習・既習要因（既習、未習の2水準）で、従属変数は各被験者のタイプごとの得点である。結果は表6-6で示す。

表6-6 タイプごとの未習・既習別の結果

語のタイプ	未習 (N = 15)		既習 (N = 15)	
	M	SD	M	SD
SJO	28.87	1.60	29.87	0.52
OJO	10.25	4.11	20.13	3.13
NJO	5.29	1.83	18.80	3.36

分散分析の結果、5%水準において、語のタイプ要因の主効果 ( $F(2, 56)=449.81$ ,  $p<.001$ ) と、未習・既習要因の主効果 ( $F(1, 28)=138.31$ ,  $p<.001$ ) が有意であり、相互作用も有意であった ( $F(2, 56)=54.73$ ,  $p<.001$ )。相互作用が有意であったため、単純主効果の検定を行った。

語のタイプ要因の単純主効果は、未習 ( $F(2, 28)=356.00$ ,  $p<.001$ ) でも既習 ( $F(2, 28)=112.94$ ,  $p<.001$ ) でも有意であった。

語のタイプ要因のいずれの間に差があるかを確認するために、多重比較を行ったところ、未習においては、SJOとOJOの間、OJOとNJOの間、SJOとNJOの間で有意であった。すなわち、未習の条件では、「SJO>OJO>NJO」となる。

既習においても、SJOとOJOの間、SJOとNJOの間で有意であったが、OJOとNJOの間で有意ではなかった。すなわち、既習の条件では、「SJO≒OJO>NJO」となる。

一方、未習・既習要因の単純主効果は、SJO類 ( $F(1, 28)=5.32$ ,  $p<.05$ )、OJO類 ( $F(1, 28)=54.73$ ,  $p<.001$ )、NJO類 ( $F(1, 28)=186.92$ ,  $p<.001$ ) で有意であった。未習・既習要因が2水準であるため、多重比較する必要がなく、表6-6から分かるように、SJO類、OJO類、NJO類、いずれの条件においても既習の方は未習より成績が有

意に高かった。

以上の結果より、二字漢字語の意味理解では、語のタイプと関係なく、既習の方が未習より理解しやすいことが示された。そして、未習の条件では、SJO 類は最も理解しやすく、NJO 類はもっとも理解しにくく、OJO 類は難易度が両者の間であることが示され、既習の条件では、SJO 類が OJO 類・NJO 類より理解しやすいことも示された。

#### 6.4.2 ストラテジーの使用について

本節では、RQ3 と RQ4 について分析した上で、結果を述べる。

未習語においては、表 6-4 の基準に従い、語ごとに使われていた手がかりを「語彙知識のみ」(語)、「文脈情報のみ」(文)、「語彙知識+文脈情報」(統合) 3 種類のパターンに分けて、語のタイプ別に出現数を集計した。

表 6-7 で示したように、語のタイプと関係なく、「語彙知識+文脈情報」が一番多く使われていた。この種の手がかりに絞って、統計的に検討し、カイ二乗検定を行った結果、5%水準において有意であった ( $\chi^2(5) = 201.041, p < .01$ )。

ボンフェローニ法で多重比較したところ、成功した語においては、「SJO > OJO ≧ NJO」となり、失敗した語においては、「OJO ≧ NJO > S」となった。SJO 類の成功した数が失敗した数より有意に多く ( $p < .01$ )、OJO 類の成功と失敗との間に差がなく ( $p = .03$ )、NJO 類の成功した数が失敗した数に有意に少ない ( $p < .01$ )。

表 6-7 未習語のタイプ別のパターン

	S 成功	S 失敗	O 成功	O 失敗	N 成功	N 失敗
統合	135	5	36	58	20	84
文	0	1	5	16	1	19
語	1	0	0	3	1	7

合計	136	6	41	77	22	110
----	-----	---	----	----	----	-----

(N = 15)

一方、既習語においては、調査対象語に対する学習者はすでに持っている知識があるため、未習語と異なり、に以下 3 つのパターンがある。

パターン A : 既習の知識に対する確信があるため、文脈で検証しない。

例 (16) : 我知道这个词的意思...

(この語の意味は知っている)

例 (17) : 这个词的意思学过, 确定是停车。

(この語を勉強したことがある。<停车>だと確信する。)

パターン B : 既習の知識があるが、念のため、文脈で検証する。

例 (18) : 学过这个词, 结合上下文看也是这个意思

(勉強したことがあって、前後の文脈で見てもこの意味だと思います。)

パターン C : 語彙知識や文脈情報などの手がかりを使って推測する。

(「未習」の場合と同様であるため、発話例を省略する。)

パターン A の場合、学習者は何の手がかりも使わずに、自分の持っている知識をそのまま正しいものとした。

パターン B の場合、学習者の頭の中に、調査対象語に関する知識があるのだが、念のため、与えられた文脈の中で検証してみた。その時、文脈情報を通して、すでに持っている知識を支持する肯定的な根拠を得れば、これで終了するが、得られなければ、さらにパターン C に進む。なお、その「肯定的な根拠」はあくまでも学習者自身の文章への理解であり、必ずしも正解とは限らない。

パターン C の場合、未習とほぼ同じような扱いで、複数の手がかりを使って推測しながら理解する。その結果は、正答となった時もあり、誤答になってしまった時もある。

以下表 6-8 に、語のタイプに各パターンの出現数を示す。

表 6-8 既習語のタイプ別のパターン

	S 成功	S 失敗	O 成功	O 失敗	N 成功	N 失敗
A	0	0	4	1	6	2
B	139	1	39	16	47	14
C	0	0	55	22	36	30
合計	139	1	98	39	89	46

( $N = 15$ )

SJO 類は全てパターン B が使われ、ほぼ 100% 成功した。

まずは、成功した語に焦点をあて、同じパターン B を使う場合、語のタイプの影響があるか否かを検討するために、カイ二乗検定を行ったところ、有意であった ( $\chi^2(2) = 82.347, p < .01$ )。多重比較の結果、SJO の数が OJO より有意に多く ( $p < .001$ )、SJO の数が NJO より有意に多く ( $p < .001$ )、OJO の数と NJO の数の間に差がなかった ( $p > .05$ )。

次に、OJO 類と NJO 類の成否に手がかりの影響があるかどうかを統計的に検討するために、パターン B とパターン C に絞って、カイ二乗検定を行った結果、5%水準において有意であった ( $\chi^2(3) = 8.221, p < .05$ )。

表 6-9 多重比較の結果

O 成功 = O 失敗	$p = 1.000$	O 失敗 = N 成功	$p = 0.827$
O 成功 = N 成功	$p = 0.266$	O 失敗 = N 失敗	$p = 1.000$
O 成功 = N 失敗	$p = 1.000$	N 成功 = N 失敗	$p = 0.047$

ボンフェローニ法で多重比較の結果、全てのグループ間で差がなかった (表 6-9)。つまり、語のタイプによる成否と手がかりの使用との間には関係がない。

## 6.5 考察

以下では、CLJによる二字漢字語の受容が、なぜ語のタイプや未習・既習によって異なりが見られたかについて、6.4の結果を踏まえながら、語のタイプ別の難易度、未習・既習の影響とストラテジーの使用について検討する。

分析の結果をまとめて以下に述べる。

- (1) 未習語の場合、SJO類は最も理解しやすく、NJO類はもっとも理解しにくく、OJO類は難易度が両者の間である (SJO>OJO>NJO)。
- (2) 未習語の場合、同じ「語彙知識+文脈情報」という統合的な手がかりを使う場合であっても、SJO類において成功した数が有意に多く、NJO類において成功した数が有意に多く、OJO類の成功と失敗との間に差がない。
- (3) 既習の場合、SJO類がOJO類・NJO類より理解しやすい (SJO>OJO≒NJO)。
- (4) 既習の場合、同じ手がかりのパターンを使う時、SJO類がOJO類・NJO類より成功した数が有意に多く、OJO類・NJO類の成否に手がかりのパターンの影響が見られなかった。

結果(1)と(2)から、初級のCLJにとって、未習の条件ではSJO類がもっとも簡単であり、その次がOJO類であり、NJO類がもっとも難しいと言える。そして、その難易度の差が手がかりの使用と関係なく、語自体の難易度だと推察した。

一方、結果(3)と(4)から、既習の条件では、SJO類がOJO類・NJO類より簡単であると言える。そして、その差は手がかりの使用と大きく関わる事も推察した。SJO類の場合は、既習の意味を文脈に入れて検証し、肯定的フィードバックを得て、確信できるというプロセスを経てきたが、OJO類とNJO類の場合は、文脈で再確認しても完全に確信できなくて、さらに色々な手がかりを使って推測するというプロセスを経てきた。

## 第7章 新たな枠組みに基づく量的調査（調査3）

### 7.1 調査目的

3.1 節で述べたように、既存の学習者の中間言語を見る実証研究は、学習者が客観的に存在する日中漢字語の意味対応関係を知っていることを前提としたものであり、実際に学習者がその分類を知らないという可能性が検討されていない。それに加え、調査が行われる際に、学習者が問われる出題語の知識を持っているかどうかについては、まだ十分に調査されていない。

そして、それらの研究には、提示された文脈が単文であったため、文全体の文脈情報を利用できない点については改善する余地があると筆者は考える。

それらの問題点を改善し、本調査では、第6章で行った質的調査と同じ枠組みに基づいて、量的調査を行う。

調査時点で、出題語の知識を学習者が持っているかどうかを把握した上で、調査する必要があるため、既知か未知かの学習者の知識レベルを問うテストと、検討したいものを問うテスト、2つのテストを行う必要がある。

そこで、本調査では、第5章で提案している枠組みに基づき、母語の影響に焦点を当て、2つのテストを実施することで、学習者の二字漢字語の受容と学習者の知識レベル（既知か未知）、日本語能力（以下、L2能力）、漢字語のタイプ（以下、語のタイプ）、漢字語のレベル（以下、語のレベル）との関連性を明らかにすることを目的とする。

以下は本調査で設定したリサーチ・クエスチョンである。

RQ (1) : CLJ が二字漢字語を理解する際に、結果の正確さは語のタイプによって異なるのか。

RQ (2) : RQ (1) は、学習者の調査対象語に対する知識レベルによって異なるのか。

RQ (3) : RQ (1) は、学習者の L2 能力によって異なるのか。

RQ (4) : RQ (1) は、調査対象語のレベルによって異なるのか。

## 7.2 調査方法

本調査では、「正誤判断テスト→20分休憩→読解テスト→L2能力テスト」の順で、調査語の既知・未知を把握するための「正誤判断テスト」、学習者の調査語についての習得状況を調査するための「読解テスト」、習熟度を測るための「L2能力テスト」の3種類のテストを実施した。

以下はそれぞれのテストの内容を述べる。

### ・正誤判断テスト

「正誤判断テスト」では、被験者は視覚呈示される文における調査対象語の意味を理解し、日本語としてその意味が正しいかどうかを判断しなければならない。

テストには、特定の文脈における調査語の意味において、正しい文もあり、誤った文もある。

実際の判断結果が正しいかどうかで、第二言語としての日本語漢字語の意味表象がCLJの心内辞書に正しく形成されているかどうか、つまり、CLJが特定の文脈における調査対象語の意味を知っているかどうかを調べることができる。設問例は表7-1で示す。



表 7-1 正誤判断テストの設問例

<p>交際</p>	<p>_____ せっかく留学したのだから、自ら <u>交際</u> の範囲を狭めてしまうのはもったいないと思う。  <small>(もったいない：可惜)</small></p> <p>_____ <u>交際</u> の手段は言葉だけではなく、表情やしぐさ、その他の行動などによっても成立する。  <small>(しぐさ：動作)</small></p>
<p>会合</p>	<p>_____ 昨日、新宿で高校時代の同級生の <u>会合</u> があった。</p> <p>_____ 午後三時に駅の改札口で <u>会合</u> し会場へ行きましょう。  <small>(改札口：检票口)</small></p>
<p>経由</p>	<p>_____ 自分が <u>経由</u> していることは最後まで責任を負うべきだ。  <small>(責任を負う：负责任／べきだ：应该)</small></p> <p>_____ 世界の金融取引の約7割はスイスの銀行を <u>経由</u> して行われている。  <small>(金融取引：金融交易／スイス：瑞士／行う：进行)</small></p>
<p>優秀</p>	<p>_____ 私のクラスには1人編入生がいる。かなり <u>優秀</u> だ。  <small>(編入生：插班生)</small></p> <p>_____ どのメーカーも、自社製品の質が <u>優秀</u> だと宣伝している。  <small>(メーカー：厂商／自社製品：自己公司的产品)</small></p>
<p>作法</p>	<p>_____ 華道や茶道の <u>作法</u> を身につける。  <small>(華道：花道／茶道：茶道／身につける：掌握)</small></p> <p>_____ 鯛飯、いちご汁、蒸し寿司など、江戸料理の <u>作法</u> を紹介する。</p>
<p>確率</p>	<p>_____ ほとんどの大人が子どもに対しては横柄だ。もちろん <u>確率</u> の差はある。  <small>(横柄：专横、傲慢)</small></p> <p>_____ 結婚相談所を使って結婚するメリットは離婚する <u>確率</u> が低いことだ。  <small>(メリット：好处、优点)</small></p>

語彙サイズを測る古典的なものとして、チェックリスト・テスト（Yes/No テストとも呼ばれる）がある。テストの形式は、調査対象語のみをリストで提示し、それらの語彙を知っているかどうかをチェックして答えさせようとするものである。

チェックリスト・テストの問題点として、知らない単語でも偽りや錯誤により知っている単語だと解答する可能性が指摘されてきた。「正誤判断テスト」もある種の「Yes/NO テスト」であるため、以上のような偽りや錯誤を防ぐ必要があると考える。

知らないのに当てずっぽうに答えることを防ぐために、テストの指示文として、「以下の文を見て、下線部分の語の意味の正誤を判断してください。正しければ「○」を、間違いならば「×」を書いてください。確信できないなら必ず空欄のままにしてください。」と提示した。調査に際しては「確信できない場合は必ず空欄のままにしてください」と中国語で口頭でも注意した。

判断の結果として、正しい文を「○」で、間違いの文を「×」で書く場合は、提示された文脈における対象語の意味を知っているはずである。それに対して、正しい文を「×」か「\_」（空欄）で、間違いの文を「○」か「\_」（空欄）で書く場合は、提示された文脈における対象語の意味を知らないはずである。

それから、テストには文脈まで提示したが、提示された文脈は手がかりを与えるためのものではなく、語の意味を限定するためのものである。調査を実施した際に、「その場で推測するのではなく、知らないのなら、空欄にしてください。」と中国語でと再び口頭説明をした。

・読解テスト

「読解テスト」では、被験者が視覚呈示された文章を理解した上で、下線部の日本語の意味に対応する中国語を、4つの選択肢から1つ選ばなければならない。

真正性のある読解活動に近づけるために、テストの文脈として、一文か二文という単文ではなく、完全な文章を提示した。

選択肢を提示するとき、調査対象語を含む単文を提示すると、文章全体を読まずに、提供された単文のみで調査対象語の意味を理解して選ぶ可能性がある。それを防ぐために、選択肢のところには、一文の文脈提示をしなかった。

具体的形式として、調査対象語のところでは、下に線があって右下に番号があり、選択肢のところでは、番号と4つの選択肢がある。設問例は表7-2に記した。

表 7-2 読解テストの設問例

<p>林さんは<u>交際</u>①の幅が広い。今日の<u>会合</u>②に来ているあの IT 会社の人とも知り合 いだ。その会社<u>経由</u>③で、S 社の社長とも知り合えた。林さんは本当に<u>優秀</u>④な人だ。 日本のビジネス<u>作法</u>⑤もよく知っている。担当したプロジェクトは高い<u>確率</u>⑥で成功 している。まだ、入社して1年だなんて思えないくらいだ。</p> <p style="text-align: right;">(*プロジェクト：項目)</p>					
①	A 交流 [前項漢字]	B 活动 [文脈関連]	C 交际 [正答]	D 际会 [後項漢字]	
②	A 会场 [後項漢字]	B 聚会 [正答]	C 会合 [同形]	D 合作 [文脈関連]	
③	A 通过 [正答]	B 经由 [同形]	C 借助 [文脈関連]	D 经手 [前項漢字]	
④	A 勤奋 [文脈関連]	B 秀美 [後項漢字]	C 优越 [前項漢字]	D 优秀 [正答]	
⑤	A 作法 [同形]	B 礼仪 [正答]	C 手法 [後項漢字]	D 规范 [文脈関連]	
⑥	A 利润 [文脈関連]	B 确率 [同形]	C 频率 [後項漢字]	D 概率 [正答]	
SJO 類・①と④		OJO 類・③と⑤		NJO 類・②と⑥	

Laufer、Elder、Hill、& Congdon (2004) は語彙テストで測る能力に合わせて4つの出題形式を提案している。そのうち、調査対象語を提示し、その語義として適切なものを選ぶ、「受容-認識」という出題形式がある(図7-1)。

読解テストの選択肢の提示は、この「受容-認識」という出題形式を模倣し、選択肢を中国語に変えたものである。

読解テストの得点から、テストが終わった時点での、調査対象語の習得(理解)状況を調べることができる。

Melt
a. choose      b. accuse      c. make threats      d. turn into water

図7-1 「受容-認識」の例

#### ・L2 能力テスト

「L2 能力テスト」では、コンピュータによる日本語学習者のインターネット日本語能力自動判定テストである J-CAT<sup>55</sup>を用いた。J-CAT のスコアは7段階に分けられ、JLPT 日本語能力試験(旧)との互換表<sup>56</sup>もある。

J-CAT スコアによって、L2 能力が、「初級(-100)」、「中級前半(100-150)」、「中級(150-200)」、「中級後半(200-250)」、「上級前半(250-300)」、「上級(300-350)」、「日本語母語話者相当(350-)」に分けられる。

「初級」は旧 JLPT の4級、「中級前半」は3級、「中級後半」は2級に、「上級前半」は1級に相当する。「初級」の学習者は基本的な考えを述べることができ、「中級」の学習者は日常的な会話をこなすことができ、「上級」の学習者は学術的・専門的なコミュニケーションができる。

被験者の得点(スコア)で、個々の学習者の L2 能力を判断できると同時に、能力別にグループに分けることもできる。

<sup>55</sup> <http://www.j-cat.org>

<sup>56</sup> 「J-CAT のスコアについて」: <http://www.j-cat.org/html/ja/pages/interpret.html>

## 7.3 調査概要

### 7.3.1 調査対象者

中国語を母語とする中国大陸出身の学習者 134 名が調査に参加した。

被験者の年齢は 19 歳から 22 歳で、性別は男性が 15 名、女性が 115 名であった。

調査に参加した被験者は、同じ内陸の某大学で主専攻で日本語を学ぶ 2 年生から 4 年生までの学部生であり、2 年生が 56 名、3 年生が 60 名、4 年生が 18 名であった。

4 年生には、6 ヶ月間日本への留学経験のある学習者が 4 名いた。4 名とも女性であり、2018 年に日本語能力試験 N1 級を取得していた。他の 130 名のうち、29 名は日本語能力試験 N1 級を取得し、70 名は日本語能力試験 N2 級を取得していた。

調査を行った段階での平均学習者歴は 2 年 3 ヶ月、最も短い者で 1 年 6 ヶ月、最も長い者で 3 年 6 ヶ月であった。

### 7.3.2 調査対象語

「読解テスト」と「正誤判断テスト」を作成するために、第 5 章で提案した新しい枠組みに基づいて、SJO 類・OJO 類・NJO 類を多数選択した。なお、本調査で実際に使用した、SJO・OJO・NJO 各 12 語の調査語は表 7-3 に示した通りである。

以下、これらの対象語を選択した手続きを説明する。

まずは、漢字語と各語の高頻度意味を多数用意した。

具体的には、資料 I の語彙を基礎資料とし、NINJAL-LWP for TWC（以下、NLT）のデータに基づいて、『大辞林』（第三版）を参考にし、表 5-1 が示した漢字語カテゴリーに基づいて、NLT のコロケーションパネルと用例パネルを見ながら、用例を一つずつ確認し、高頻度の意味を取った。

同じシステムを利用した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）を検索する NINJAL-LWP for BCCWJ（NLB）もあるが、本研究で NLT を選んだのは TWC（筑波ウェブコーパス）がより規模が大きいウェブページの日本語コーパスであり、比較的新

しい使い方なども含まれていると考えたからである。

次に、未知語の存在を確保するために、調査協力校の総合日本語という授業に使われている教科書<sup>57</sup>と照らし合わせ、教科書に載っていない語のみを抽出した。

さらに、選択された意味ごとに NLT 文脈例を多数用意した。NLT のデータに基づいて、筆者自身が内省しながら文脈例を抽出した上で、教師経験のある日本語母語話者 2 名に判定してもらい、不自然な記述を修正した。

その後、用意された文脈における対象語の意味に対応する中国語、すなわち中国語訳語の妥当性を検証するため、日本語学や日本語教育を専攻にしている、中国語母語の大学院生 3 名（博士課程）に判断してもらい、誤っていると判断される場合はその文脈例を削除した。

最後に、中国語訳語が日本語に存在するかどうかを検証するため、日本語母語話者 3 名に許容度判断をしてもらった。そのうち、2 名の判定が一致したものは確定し、3 名の判定が全て異なった場合は、2 名以上の合議の上、判定を確定した。

以上の手順を踏まえ、「調査対象語」「NLT 文脈例」「意味的に対応する中国語」三つの項目があるリスト（以下、「調査 3 の語彙リスト」）を用意した。

---

<sup>57</sup> 『新編日語』上海外語教育出版社

表 7-3 調査対象語

<p><b>【種類】</b> 意味の異同と書字の有無</p>	<p>調査対象語 &lt;意味的に対応する中国語&gt;</p>
<p><b>【SJO】</b> X (日) = X (中)</p>	<p>投資&lt;投资&gt; 遺産&lt;遗产&gt; 反撃&lt;反击&gt;          軽快&lt;轻快&gt; 記録&lt;记录&gt; 投稿&lt;投稿&gt;          倉庫&lt;仓库&gt; 愉快&lt;愉快&gt; 交際&lt;交际&gt;          優秀&lt;优秀&gt; 克服&lt;克服&gt; 短期&lt;短期&gt;</p>
<p><b>【OJO】</b> X (日) = Y (中) ≠ Y (日)</p>	<p>打開&lt;打破&gt; 高値&lt;高价&gt; 態勢&lt;形势&gt;          面目&lt;面子&gt; 本文&lt;正文&gt; 経緯&lt;经过&gt;          陽気&lt;气候&gt; 発達&lt;发展&gt; 経由&lt;通过&gt;          作法&lt;礼仪&gt; 創作&lt;创意&gt; 覚悟&lt;决心&gt;</p>
<p><b>【NJO】</b> X (日) = Z (中), Z (日) 非存在</p>	<p>未練&lt;留恋&gt; 白状&lt;坦白&gt; 対面&lt;见面&gt;          貫禄&lt;气场&gt; 柔軟&lt;灵活&gt; 匹敵&lt;媲美&gt;          回数&lt;次数&gt; 見当&lt;头绪&gt; 会合&lt;聚会&gt;          確率&lt;概率&gt; 位置&lt;位于&gt; 境界&lt;边界&gt;</p>

### 7.3.3 調査材料

本節では、作成の順番に沿って、「読解テスト」の作成を説明してから、「正誤判断テスト」の作成について説明する。

読解テスト（資料IV）の作成手順は以下の①～④である。

① 言語教師経験のある日本語母語の日本語学研究者に、「調査3の語彙リスト」を渡し、リストにある意味を用いて筆者と一緒に読解文章を作成するよう依頼した。作成した際に、3種類の調査語が出来る限り均等に割り当てられるように注意し、最終的に6つの約200字程度の文章を得た。そのうち、文章1、文章2、文章3にあるのは全てN1レベル以上の語であり、文章4、文章5、文章6、にあるのは全てN2N3レベルの語である。各文章における調査対象語の分布は表7-4で示す。なお、語のレベル判定はリーディングチュウ太で判別し、各文章の難易度もjReadabilityで判別した。

② 読解文章における調査語の中国語訳の許容度を判定するために、中国語を母語とする日本語学・日本語教育専攻の博士課程大学院生4名に、文章における調査語の意味を中国語に翻訳してもらった。一致率が75%以上の場合はそのまま採用し（一致率は表7-4で示す）、それ以下の場合は3名の合議で決定した。

③ 決定された中国語訳が「調査3の語彙リスト」にある「意味的に対応する中国語」と一致する場合は採用し、一致しない場合は他の分脈に入れ換え、手順①②を繰り返した。

④ ①～③の手順で得た6つの文章にある各調査語の選択肢を設ける。選択肢の設定基準として、4つのうち1つのみが正答であり、誤答は、調査語の前項漢字あるいは後項漢字を含む中国語（「前項漢字」か「後項漢字」）、読解文章の文脈と意味的に関連があると考えられる中国語（「文脈関連」）、調査語と同形の中国語（「同形」）、という3つの基準で設定した。語のタイプによって設定基準が異なり、詳細は表7-5で示す。SJO類は日中同形同義の語であるために、正答が「同形」と同じ選択肢であり、3つの誤答をそれぞれ「前項漢字」、「後項漢字」、「文脈関連」に1つずつ設定した。OJO類とNJO類は意味的に対応する中国語が日本語と非同形であるため、正答は「同形」と異なり、3つの誤答がそれぞれ、「同形」、「前項漢字」か「後項漢字」、「文脈関連」に1つずつ設定された。

正誤判断テスト（資料Ⅲ）を作成した際の手順は以下の通りである。

「調査3の語彙リスト」を基礎資料とし、多少の文脈を加え、意味ごとに「正用の文」と「誤用の文」を1文ずつ40字程度作った。調査語が全部で36語であるため、合計72問を作成した。その後、日本語教師経験のある日本語母語話者3名に見てもらい、不適切なところを修正した。このテストは、被験者が特定の文脈における調査語の意味を知っているか否かを測ることを目的としているため、文の意味理解を妨げそうな語に中国語訳を付けてカッコで提示した。



表 7-4 中国語訳語の判定の一致率

文章 1 語／一致率	文章 2 語／一致率	文章 3 語／一致率	文章 4 語／一致率	文章 5 語／一致率	文章 6 語／一致率
投資 100	対面 75	記録 100	陽気 75	交際 100	位置 100
遺産 100	貫禄 75	匹敵 75	発達 75	会合 100	境界 75
未練 100	反撃 100	面目 75	回数 100	経由 100	創作 50
白状 100	軽快 75	投稿 100	見当 50	優秀 100	覚悟 75
打開 75	態勢 75	本文 75	倉庫 100	作法 100	克服 100
高値 100	柔軟 75	経緯 100	愉快 100	確率 100	短期 100

(単位%)

表 7-5 読解テストにおける調査語の分布と文章難易度

	文章 1	文章 2	文章 3	文章 4	文章 5	文章 6
種類	SJO 2 語 OJO 2 語 NJO 2 語	SJO 2 語 OJO 1 語 NJO 3 語	SJO 2 語 OJO 3 語 NJO 1 語	SJO 2 語 OJO 2 語 NJO 2 語	SJO 2 語 OJO 2 語 NJO 2 語	SJO 2 語 OJO 2 語 NJO 2 語
語の レベル	N1・4 語 <u>級外</u> ・2 語	N1・6 語	N1・6 語	N2N3・ 6 語	N2N3・ 6 語	N2N3・ 6 語
対象語 <sup>58</sup>	投資/ <u>遺産</u> 打開/ <u>高値</u> 未練/白状	反撃/軽快 態勢/柔軟 対面/貫禄	記録/投稿 面目/本文 経緯/匹敵	倉庫/愉快 陽気/発達 回数/見当	交際/優秀 経由/作法 会合/確率	克服/短期 創作/覚悟 位置/境界
文章 難易度	中級前半	中級前半	中級後半	中級後半	中級前半	初級後半

<sup>58</sup> 下線がある語のレベルは「級外」である。

### 7.3.4 予備調査

「読解テスト」と「正誤判断テスト」の質問紙が出来た後、JSL 環境での 30 名の CLJ を対象に、予備調査を行った。

順番として、「正誤判断テスト」を実施してから「読解テスト」を行った。調査時点では、30 名とも日本語学校に在籍していて、15 名が N1 の合格者であり、15 名が N2 の合格者であった。

予備調査の結果に基づいて、2 つのテストの質問紙を修正した。

読解文章と正誤判断の文に、調査語以外の理解できないと言われた語に中国語の訳語を加えた。そして、「正誤判断テスト」で「知っている」と判断されたのに、「読解テスト」で選ばれた正答以外の選択肢について再検討した。

例えば、SJO 類である「軽快」について (図 7-2)、「正誤判断テスト」では多くの被験者が正用の文も誤用の文も判断ができたのに、「読解テスト」では正答の A ではなく D を選んだ。この場合、知っていると言われたら A が選ばれるはずであるが、実際に D が選ばれていたのは、文脈において中国語の<軽快>と<敏捷>の意味を区別できなかったからだと予測できる。被験者に確認したところ、その予測が正しいことが示された。「読解テスト」は中国語の語彙知識を測ることが目的でないため、例のような混乱を招いた選択肢を修正した。

先日の空手の試合で…… (中略) フットワークも軽快④だ。…… (中略) さすが大学ナンバー1の選手だ。

(\*フットワーク：歩法 \*空手：空手道)

④ A 軽快 B 轻松 C 快捷 D 敏捷

図 7-2 読解テストの選択肢の修正例

### 7.3.5 手続き

調査は、雑音のない環境下にあるパソコン教室で集団で行った。

「正誤判断テスト」と「読解テスト」は紙を用い、「L2 能力テスト」はデスクトップのパソコンを用いた。

被験者は「正誤判断テスト」を終えた後、続けて「読解テスト」を行った。最後に、簡単なアンケート（フェースシート）を行い、所用時間は全部で約2時間であった。

初めに、「正誤判断テスト」の質問紙を配り、被験者には文脈における調査語の意味を正しいと思うかどうか判断するよう求めた。確信できる場合は「○」あるいは「×」を書くが、確信できない場合は必ず空欄のままにするよう中国語で指示した。制限時間は特に設定せず、十分に時間を与えた。

全員終了時に20minの休憩を入れた。

続けて、「読解テスト」の質問紙を配り、文章にある下線部の語の意味を理解し、その意味に対応する最も適切な中国語を選択肢から選ぶよう求めた。文章全体の翻訳として適切かどうかではなく、文章にある下線部の語の意味として適切かどうかを判断の基準にするよう母語で指示した。なお、いずれのテストでも辞書の使用を禁じた。

また、調査対象者を日本語能力で群分けするため、別の日に同じ教室でL2能力テスト（J-CAT）を行った。

## 7.4 分析と結果

### 7.4.1 分析方法

まずは J-CAT のスコアに基づいて、調査対象者を L2 能力で群わけした。

計 134 名の被験者のうち、4 名が日本への留学経験があり、本調査は JFL 環境での CLJ を研究対象とするため、その 4 名の回答を分析対象外とした。残り 130 名の被験者を、上位群（上級前半・16 名）、中位群（中級後半・68 名）、下位群（中級・46 名）の 3 群に分けた。

次に「読解テスト」と「正誤判断テスト」を採点した。

満点の差が大きいと、そのまま分析することができないため、今回は 2 つのテストの満点に差が出ないように<sup>59</sup>、「読解テスト」は 1 問 1 点で採点され、「正誤判断テスト」は 1 問 0.5 点で採点した。

「読解テスト」は 1 語 1 問で、計 36 語あるため、1 問 1 点で採点すれば、満点が 36 点（総計 36 問）である。「正誤判断テスト」は 1 語 2 問で、計 36 語あるため、1 問 0.5 点で採点すれば、満点が 36 点（総計 72 問題）である。つまり、両方のテストとも満点が 36 点であり、平均 1 語が 1 点である。

最後に、「正誤判断テスト」の得点で、個々の学習者の各語に対する知識レベルを判定する。得点が 1 点である場合は「高い」と判断し、得点が 0.5 点と 0 点の場合は「低い」と判断する。

分析には、統計解析ソフト R (Version 3.6.0) を使った。

---

<sup>59</sup> 大きさが違い過ぎる場合、そのまま分析することは不適切である。例えば、商品 A と商品 B のどちらが客の購買意欲に影響するかを分析する場合、普通は A と B の両方から影響があると思われる。しかし、圧倒的な値段差がある場合（商品 A が自動車で、商品 B が焼き鳥とか）片方の商品の影響力はないに等しくなる。テストでもそうであるため、本調査では満点に差が出ないという採点方法にした。

#### 7.4.2 語彙学習の効果

まずは、語彙学習を通して、知識レベルの低い語（未知語）の習得が進んでいたかを確認し、正誤判断テストと読解テストとの得点を比較する。具体的には、正誤判断テストの得点が「0」と「0.5」の語に限定し、2つのテストの得点を語ごとに並べて表を作ってから、対応のある t 検定を行った。

表 7-6 正誤判断テストと読解テストの得点 (N=130)

	正誤判断テスト	読解テスト
Min	0.00	0.00
Median	0.50	1.00
Max	0.50	1.00
Mean	0.29	0.68

検定を行った結果、5%水準において、両群の母平均には有意な差があり ( $t=-40.52$ 、 $df=4799$ ,  $p<.001$ )、読解テストの成績が正誤判断テストの成績より有意に高い。

このことから、語彙学習を通して、未知語の習得（理解）が進んできたと分かった。

#### 7.4.3 L2 能力、語のタイプと知識レベルの影響

本節では、知識レベルを「高い」と「低い」に分けて、読解テストの結果への「L2 能力」と「語のタイプ」の影響を検討する。

知識レベルが低い語について、正答率<sup>60</sup>には、語のタイプと L2 能力がどんな影響を与えたかを統計的に検討する。

<sup>60</sup> ある学習者の、知識レベルが低い語の正答率 = 「低い」語の正解数 / 「低い」語の出現数

表 7-7 読解テストにおける正答率

語の タイプ	L2 能力	知識レベル低い語の正答率			知識レベル高い語の正答率		
		<i>N</i>	Mean	S.D.	<i>N</i>	Mean	S.D.
SJO 類	上位群	16	79.90	14.26	16	87.95	16.28
OJO 類	上位群	16	64.50	19.29	16	73.21	20.44
NJO 類	上位群	16	72.64	17.51	16	75.71	22.41
SJO 類	中位群	68	87.48	16.17	61	94.36	10.71
OJO 類	中位群	68	61.03	16.66	61	68.10	26.61
NJO 類	中位群	68	64.88	20.99	61	73.74	24.86
SJO 類	下位群	46	84.54	13.99	37	86.66	20.58
OJO 類	下位群	46	56.41	16.09	37	57.48	35.58
NJO 類	下位群	46	56.54	16.99	37	66.69	32.76

(Mean と S.D.の単位は%)

3 種類の語のタイプ (SJO 類、OJO 類及び NJO 類の 3 種類のタイプ) × 3 種類の L2 能力 (上位群・中位群・下位群) を独立変数とし、正答率を従属変数とし、二元配置分散分析を行った。

分析の結果、語のタイプの主効果が有意であった ( $F(2, 254)=48.38, p<.05$ )。L2 能力の主効果も有意であった ( $F(2, 127)=4.64, p<.05$ )。さらに、両変数の交互作用は有意傾向であった ( $F(4, 254)=2.27, p=.054$ )。次に語のタイプの影響を L2 能力別に検討した。

上位群については、語のタイプ条件の主効果が有意傾向であった ( $F(2, 30)=3.22, p<.10$ )。そこで、3 種類の語のタイプ条件間の違いを Bonferroni 法によって多重比較した。その結果、SJO 類と OJO 類の差 ( $p=.079$ ) も、SJO 類と NJO 類の差 ( $p=.149$ ) も、OJO 類と NJO 類の差 ( $p=.262$ ) も有意でなかった。つまり、上位群の場合は、SJO 類・OJO 類・NJO 類の正答率は同じ程度であると言えよう (SJO $\approx$ OJO $\approx$ NJO)。

中位群については、語のタイプ条件の主効果が有意であった ( $F(2, 134)=44.64,$

$p < .001$ )。そこで、3種類の語のタイプ条件間の違いを Bonferroni 法によって比較した。その結果、SJO 類と OJO 類との差 ( $87.48\% - 61.03\% = 26.45\%$ ) も、SJO 類と NJO 類との差 ( $87.48\% - 64.88\% = 22.6\%$ ) も有意であった (いずれも、 $p < .001$ )。OJO 類と NJO 類の間の差 ( $64.88\% - 61.03\% = 3.85\%$ ) は有意でなかった ( $p = .23$ )。

つまり、SJO 類の正答率が OJO 類・NJO 類より有意に高いが、OJO 類と NJO 類の正答率は同じ程度であると言えよう (SJO > OJO  $\approx$  NJO)。

下位群についても、語のタイプ条件の主効果が有意であった ( $F(2, 90) = 45.91$ 、 $p < .001$ )。3種類の語のタイプ条件間の違いを Bonferroni 法によって比較した結果、SJO 類と OJO 類との差 ( $84.54\% - 56.41\% = 28.13\%$ ) も、SJO 類と NJO 類との差 ( $84.54\% - 56.54\% = 28.00\%$ ) も有意であった (いずれも、 $p < .001$ )。OJO 類と NJO 類の間の差 ( $56.54\% - 56.41\% = 0.13\%$ ) は有意でなかった ( $p = .97$ )。

つまり、SJO 類の正答率が OJO 類・NJO 類より有意に高いが、OJO 類と NJO 類の正答率は同じ程度であると言えよう (SJO > OJO  $\approx$  NJO)。

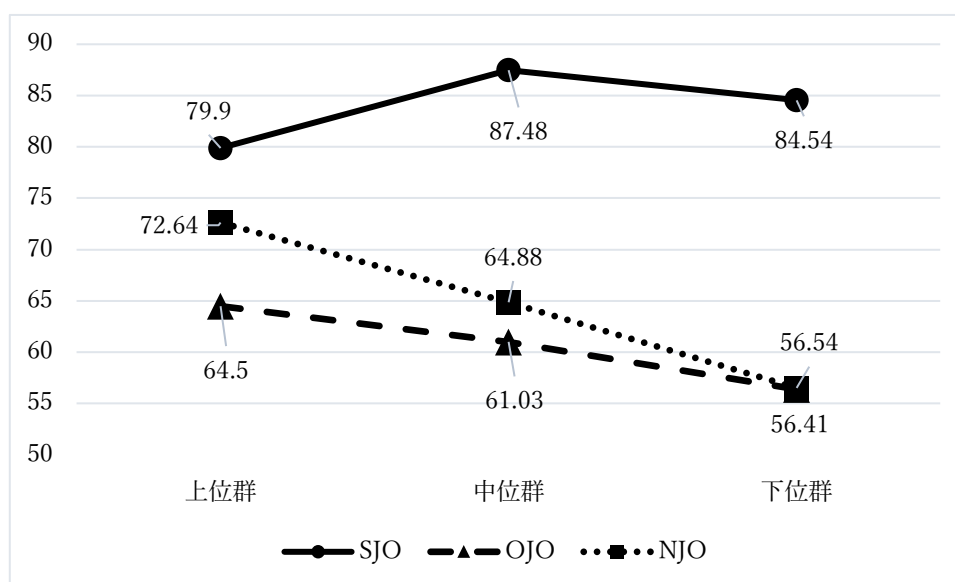


図 7-3 知識レベルの低い語の正答率

知識レベルの高い語の正答率<sup>61</sup>についても同様の分析を行った。

統計処理の結果、Mauchly の球面性検定で有意確率が 5%を下回っているため、球面性検定の仮定が成り立たなかった。F 値について、ここでは Greenhouse-Geisser のイプシロンを利用して自由度を修正した結果を採用した。(本研究で提示されている F 値に少数が二桁あるものはすべてこれと同様、自由度を修正したものである。)

その結果、語のタイプの主効果が有意であった ( $F(1.92, 213.21)=24.04, p<.001$ )。L2 能力の主効果も有意であった ( $F(2, 111)=3.45, p<.05$ )。両変数の交互作用は有意ではなかった ( $F(3.84, 213.21)=0.62, ns$ )。

語のタイプの主効果において、Bonferroni 法によって多重比較を行った。その結果、SJO 類と OJO 類との差 ( $p<.001$ ) も、SJO 類と NJO 類との差も ( $p<.001$ ) 有意であったが、OJO 類と NJO 類との差は有意でなかった ( $p=0.13$ )。

つまり、上位群・中位群・下位群においては、SJO 類の正答率が OJO 類・NJO 類より有意に高いが、OJO 類と NJO 類の正答率は同じ程度であると言えよう (SJO>OJO ≒NJO)。

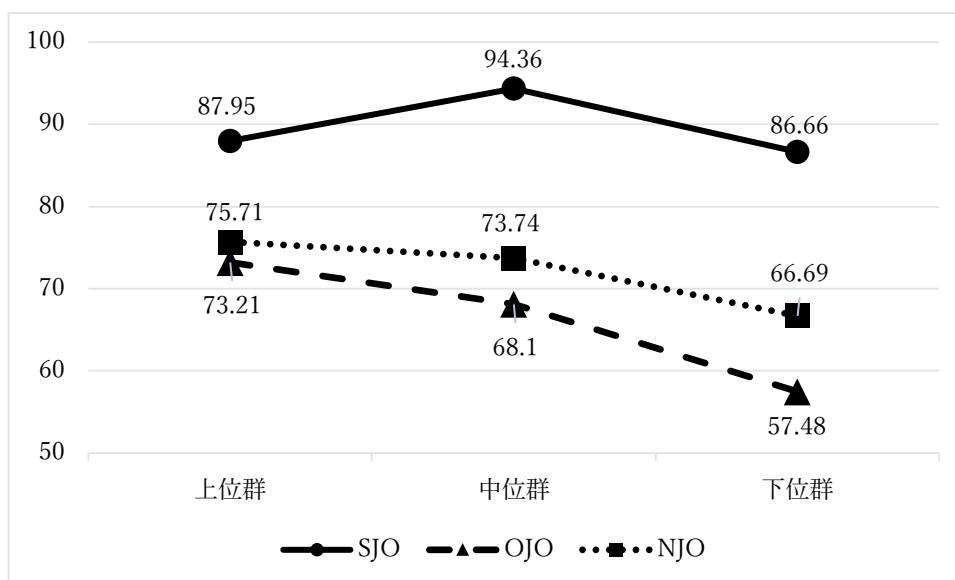


図 7-4 知識レベルの高い語の正答率

<sup>61</sup> 知識レベルが高い語の正答率 = 「高い」語の正解数 / 「高い」語の出現数



#### 7.4.4 語のレベル、語のタイプと知識レベルの影響

読解テストの結果への、語のレベルと語のタイプの影響について検討するために、タイプごとの正答数と誤答数を比較することにした。

級外である「遺産」「高値」(延べ語数 260 例) という 2 語を除外し、読解テストの結果より抽出された延べ語数は 4, 420 例であった。知識レベル別の、各レベル・各タイプの延べ語数は表 7-8 に示す。次に、前節と同じ、高・低の知識レベル別に検討する。

知識レベルの低い語については、カイ二乗検定を行った結果 ( $\chi^2(5) = 335.92, p < .001$ )、有意であった。そこで、6 群 (N1・SJO 類、N1・OJO 類、N1・NJO 類、N2N3・SJO 類、N2N3・OJO 類、N2N3・NJO 類) で多重比較を行った。

表 7-8 知識レベル・タイプ別の出現数

	知識レベル低い		知識レベル高い	
	正答	誤答	正答	誤答
N1・SJO	240	101	269	40
N1・OJO	308	167	128	47
N1・NJO	264	272	154	90
N2N3・SJO	491	33	241	15
N2N3・OJO	289	295	113	83
N2N3・NJO	413	149	197	21
合計	2005	1017	1102	296

(N= 130)

表 7-9 多重比較の結果（知識レベル低い）<sup>62</sup>

タイプ別比較	<i>p</i>	タイプ別比較	<i>p</i>
N1・SJO≒N1・OJO	=1.000	N1・OJO>N1・NJO	<.003
N1・SJO>N1・NJO	<.003	N1・OJO<N2・SJO	<.003
N1・SJO<N2・SJO	<.003	N1・OJO>N2・OJO	<.003
N1・SJO>N2・OJO	<.003	N1・OJO≒N2・NJO	=0.039
N1・SJO≒N2・NJO	=1.000	N1・NJO<N2・SJO	<.003
N2・SJO>N2・OJO	<.003	N1・NJO≒N2・OJO	=1.000
N2・SJO>N2・NJO	<.003	N1・NJO<N2・NJO	<.003
N2・OJO<N2・NJO	<.003		

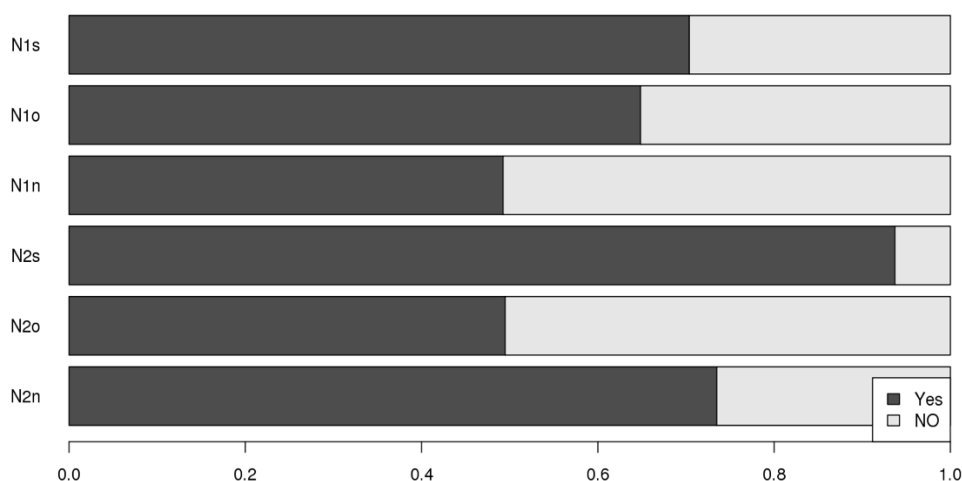


図 7-5 多重比較の結果（知識レベル低い）

図 7-5 と表 7-9 で示したように、多重比較の結果、知識レベルが低い場合、N2N3・SJO 類がもっとも簡単で、その次が N1・SJO 類、N1・OJO 類、と N2N3・NJO 類で、N1・NJO 類と N2・OJO 類がもっとも難しいことが分かった。

<sup>62</sup> ボンフェローニ法で有意水準を補正した（補正後の有意水準  $\alpha'=0.003$ ）。

また、知識レベルの高い語についても同様の分析を行った。

その結果も有意であった ( $\chi^2(5)=158.03, p<.001$ )。そこで、6群 (N1・SJO 類、N1・OJO 類、N1・NJO 類、N2N3・SJO 類、N2N3・OJO 類、N2N3・NJO 類) で多重比較を行った。

表 7-10 多重比較の結果 (知識レベル高い) <sup>63</sup>

タイプ別比較	<i>p</i>	タイプ別比較	<i>p</i>
N1・SJO>N1・OJO	<.003	N1・OJO≒N1・NJO	=.464
N1・SJO>N1・NJO	<.003	N1・OJO<N2・SJO	<.003
N1・SJO≒N2・SJO	=.070	N1・OJO≒N2・OJO	=.027
N1・SJO>N2・OJO	<.003	N1・OJO<N2・NJO	<.003
N1・SJO≒N2・NJO	=1.000	N1・NJO<N2・SJO	<.003
N2・SJO>N2・OJO	<.003	N1・NJO≒N2・OJO	=1.000
N2・SJO≒N2・NJO	=1.000	N1・NJO<N2・NJO	<.003
N2・OJO<N2・NJO	<.003		

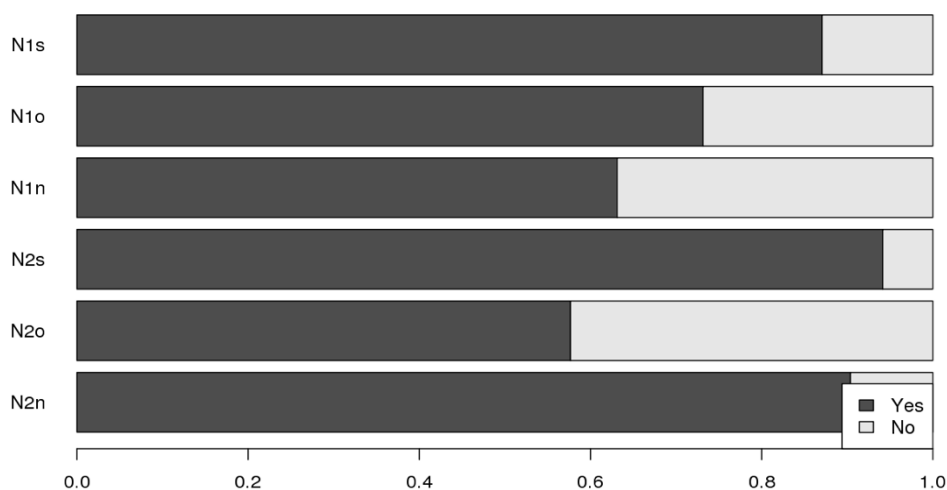


図 7-6 多重比較の結果 (知識レベル高い)

<sup>63</sup> ボンフェローニ法で有意水準を補正した (補正後の有意水準  $\alpha'=0.003$ )。

図 7-6 と表 7-10 で示したように、多重比較の結果、知識レベルが高い場合、N1 レベルの SJO 類と N2N3 レベルの SJO 類・NJO 類はより簡単であり、N1 レベルの OJO 類・NJO 類と N2N3 レベルの OJO 類はより難しい。

## 7.5 考察

前節で分析した結果を以下 3 つの結論にまとめる。

結論 1：文章を読んでいて未知の語に出会ったときに、文脈や前後関係からその語の意味を推測することで、知識レベルが低い語（未知語）の習得が進んできた。

この結論は一見、当たり前の結果であるが、今回行われたのは短時間の調査であったため、先行研究の知見を支持したと言えよう。

Nation (2001) は、言語能力を高めるために欠かせない要素として、meaning-focused input（何かを知るために読む、聞く）、meaning-focused output（何かを伝えるために話す、書く）、language focused learning（言語自体についての学習）、fluency development（流暢さの訓練）の 4 つをあげている。meaning-focused input のための優れた方法として、「多読」というものがある。辞書の使用を最小限にし、既知語率が 95% 以上の文章内容を読み取る方法である。

「多読」で行われていた語彙学習方法は、「付随的語彙学習（incidental vocabulary learning）」という、文章を読んでいて未知の語に出会ったときに、文脈や前後関係からその語の意味を推測することで語彙を増やしていくものである（谷内 2003）。付随的語彙学習の長所は「忘れにくい」で、短所は「その単語を読み飛ばす可能性」があると岡田（2007）が指摘していた。この学習方法は効率のいい方法とは言えないが、「意図的語彙学習（intentional vocabulary learning）」より語彙知識の「深さ」を促進することができる点で意義があると言われている。

本調査での読解テストは、平均 200 字程度の文章が提供されていて、未知語率が 6%

以下<sup>64</sup>であるため、多読の条件に相応しいと考える。さらに、むずかしいだろうと思われる調査対象語の下に線を引いて、学習者の注意を向けさせていたため、意図的学習 (intentional learning) と偶発的学習 (incidental learning) の相互補完的な形の学習であると言える。

よって、今回の調査では一回のみの読解活動を行ったが、習得 (理解) が進んできた結果から、付随的語彙学習は効果的であることを支持したと考えられる。

結論 2: 知識レベルが低い語、すなわち未知語においては、上級学習者 (上位群) にとっては、語のタイプ別の正答率の差は見られなかったが、中級学習者 (中位群・下位群) にとっては、SJO 類が OJO 類・NJO 類より正答率が高い。一方、知識レベルが高い語、すなわち既知語においては、L2 能力と関係なく、SJO 類が OJO 類・NJO 類より正答率が高い。

本調査は、正誤判断テストの結果で学習する前のスタートラインを揃えていたため、知識レベル別の正答率は習得率と見なす。

未知語の場合、上級学習者では習得率の差が見られなかったことから、L2 習熟度が高いレベル (上級) の CLJ にとっては、どんなタイプの語であっても習得難易度は同じであると推察できる。上級学習者は相当高い読解力を持つため、文脈が与えられた場合、語のタイプと関係なく、統合的に手がかりを使用し、正解まで辿り着いたと推測される。

それに対して、L2 習熟度が中レベル (中級) の CLJ にとっては、SJO 類が OJO 類・NJO 類より習得しやすいと推察できる。文脈が与えられた場合には、OJO 類と NJO 類の難易度に差がないのは、中級学習者は文脈から役立つ情報を取る能力がある程度身につけているため、母語知識をそのまま利用できない場合は、文脈情報を手がかりにして理解していたからだと推測される。

一方、既知語の場合、学習者はすでに問われる語の意味を知っていて、すなわちメンタルレキシコン内にその知識があると見なす。

---

<sup>64</sup> 各文章には 6 語の調査対象語があるため、6 語とも未知の場合は、 $6 * 2 / 200 = 6 / 100$  である。

普通、既知語なら、正答率が 100%だと思われている。しかし、本調査の調査結果で示したように、上級学習者でも OJO 類と NJO 類の正答率は 75%前後で、100%ではない。すなわち、既知なら必ず正解に結びつくとは限らない。それは、作文を書くような産出のタスクでなくても、読解テストというタスクの中である種の知識運用が行われているからだと考えられる。

SJO 類が完全な日中同形同義語であるため、前後の文脈から肯定的なフィードバックを得て、学習者がより既知の意味を確信できると推測する。それに対して、OJO 類と NJO 類が非日中同形同義語であるため、読解活動をしている間に、持っている知識を検証したり修正したりして、さらに確信できた場合もあり、逆に疑った場合もあると推測する。

従って、L2 能力と関係なく、SJO 類と OJO 類・NJO 類より正答率が高い結果が得られた。

結論 3 : 知識レベルが低い場合、N2N3・SJO 類がもっとも簡単で、その次が N1・SJO 類、N1・OJO 類、と N2N3・NJO 類で、N1・NJO 類と N2・OJO 類がもっとも難しい。一方、知識レベルが高い場合、N1・N2N3 レベルの SJO 類と N2N3 レベルの NJO 類はより簡単であり、N1・N2N3 レベルの OJO 類語と N1 レベルの NJO はより難しい。

この結果から、CLJ にとっては、語の難易度の判断基準が JLPT のレベル分けだけでなく、日中両国語の意味対応関係にも関係があると考えられる。

未知語の場合は、「N2N3・SJO > N1・SJO ≒ N1・OJO ≒ N2N3・NJO > N1・NJO ≒ N2N3・OJO」という 3 段階に分けられ、既知語の場合は、「N1・N2N3・SJO ≒ N2N3・NJO > N1・N2N3・OJO ≒ N2N3・NJO」という 2 段階に分けられる。

## 第8章 総合的考察

本章では、調査1～3の調査結果を統合し、先行研究の結果と比較した上で、中国語を母語とする日本語学習者の漢字語の受容に影響する要因を総合的に考察する。最後に本研究の意義を示す。

### 8.1 結果のまとめと総合的考察

調査1～3では、中国語を母語とする日本語学習者の二字漢字語の受容に影響する要因を、(1) 学習者の知識レベル、(2) 日本語能力、(3) 漢字語のタイプ、(4) 漢字語のレベル、(5) ストラテジーの使用、(6) 文脈の内容、という6つの側面から検討した。研究結果を表8-1にまとめる。

表 8-1 各研究課題に関する研究結果

調査	研究課題	研究結果
【調査1】 従来の枠組みに 基づく探索的調査  中上級・未習語	RQ (1) CLJ が未習の漢字語を推測する際に使った手がかりはどのようなものか。学習環境と関係あるのか。	学習環境と関係なく、主に4種類：「語彙知識」「文脈情報」「文法知識」「世界知識」（ニュース、法律、歴史などの学習者が持っている背景知識）
	RQ (2) CLJ が未習の漢字語を推測する際に手がかりのパターンにはどんな種類があるのか。学習環境と関係あるのか。	・3種類のパターン：①文脈の手がかりのみ、②語彙の手がかりのみ、③統合的に①と② ・①場合、JFL<JSL
	RQ (3) 正確さへの、語のタイプと学習環境による影響	学習環境と関係なく、 N①>S、OⅡ、OⅢ、N②>D
	RQ (4) 正確さへの、手がかりのパターンと学習環境による影響	JFL 環境：「文脈のみ」の正答率が最も低い/JSL 環境：「語彙のみ」の正答率が最も低い

		「文脈のみ」：JSL>JFL 「語彙のみ」：JFL>JSL
	RQ (5) 文脈の長さ・内容	最も有効な文脈 長さ：3行ぐらい 内容：個人の好みに合わせる
【調査2】 新たな枠組みに 基づく質的調査	RQ (1) ストラテジーの内容、及 び未習・既習との関係	未習： ・「語」「文」「統合」3種類 既習： ・「確信」「検証」「推測」3種類
初級・未習語 中上級・既習語	RQ (2) 正確さへの、語のタイプ と未習・既習の影響	未習：SJO>OJO>NJO 既習：SJO>OJO=NJO
	RQ (3) 正確さへの、ストラテジ ーの使用と未習・既習の影響	未習：・SJO 成功>失敗 ・OJO 成功=失敗 ・NJO 成功<失敗 既習： ・SJO：「検証」、ほぼ100%成功 ・OJO・NJO：「検証」と「推測」、成 否と関係なし
【調査3】 新たな枠組みに 基づく量的調査	RQ (1) 正確さへの、語のタイプ、 L2 能力と知識レベルの影響	未知：・上級：SJO=OJO=NJO ・中級：SJO>OJO=NJO 既知： ・上級&中級：SJO>OJO=NJO
上級・未知・既知 中級・未知・既知 初級・未知・既知	RQ (2) 正確さへの、語のタイプ、 語のレベルと知識レベルの影響	未知： N2N3・SJO> N1・SJO=N1・OJO=N2N3・NJO >N1・NJO=N2N3・OJO 既知： N1/N2N3・SJO=N2N3・NJO> N1/N2N3・OJO=N2N3・NJO



本研究で行った3の調査のうち、調査1と調査2は「未習・既習」という用語を使って分析・考察し、調査3は「未知・既知」という用語を使った。それは、調査1でも調査2でも厳密に「既知・未知」のテストを行っていない、調査3ではそのテストを行っていたからである。本節では、総合的考察を行うため、「未知・既知」という用語に統一する。

最初に、語のタイプ別の習得難易度について考察する。

本研究から、語のタイプ別の習得難易度は学習者の知識レベル、すなわち未知語か既知語か、及び日本語能力によって異なる、という結果が得られた。未知語の場合は学習者の日本語能力によって違う傾向が見られ、既知語の場合は同じ傾向が見られた。

表で示したこの部分に関する結果をまとめて言うと、

- (1) 未知語の場合、初級の学習者にとっては、語の習得難易度が **SJO** 類、**OJO** 類、**NJO** 類の順で難しくなる。
- (2) 未知語の場合、中級の学習者にとっては、**SJO** 類が **OJO** 類・**NJO** 類より簡単である。
- (3) 未知語の場合、上級の学習者にとっては、**SJO** 類、**OJO** 類、**NJO** 類の難易度は同じである。
- (4) 既知語の場合、日本語能力と関係なく、**SJO** 類が **NJO** 類・**OJO** 類より簡単である。

つまり、未知語の場合、日本語能力が上達するにつれて、語のタイプ間の習得難易度の差がなくなり、それに対して、既知語の場合は、**SJO** 類がより簡単であるとの結果をえた。

3.1 節で挙げられた学習者の中間言語を見る先行研究は、基となる対照研究の成果が違いますが、すべて語のタイプ別の難易度を明らかにすることを目的としている。それらの先行研究で採用された枠組みは文化庁(1978)・三浦(1984)か陳(2009a)

である。具体的にいうと、文化庁（1978）・三浦（1984）の「S、O I、O II、O III、D、N」と本研究で提案した枠組みを比較すると、SとO Iが全部SJOになり、O IIとO IIIはSJOになる部分もOJO・NJOになる部分もあり、DとNがOJOあるいはNJOになる。それに加え、先行研究では、各調査が行われた時点での、学習者の知識レベル（未知か既知か）が不明であるため、完全に本研究の結果と比較することはできないが、可能な限り、上記の（1）～（4）をそれらの研究結果と比較してみる。

（1）～（4）の共通点として、未知の場合も既知の場合も日本語習熟度と関係なく、SJOがもっとも簡単であるという結果は、陳（2003b）、加藤（2005）、李（2006）、陳（2009b）、小森（2012、2016）と一致したと言える。その理由について、加藤（2005）は正の転移だと述べ、小森（2012、2016）は再調査する必要があると述べた。

また、未知の場合、文化庁（1978）に基づいた研究から、O語の難易度が不明であるとの結果が得られたが、それは文化庁（1978）のO語に、SJOの意味とOJOの意味、両方が存在しているためだと考える。そして、既知の場合は、李（2006）よりO IとO IIの難易度が不明であるとの結果が得られたが、O IがSJOに相当し、O IIがSJOかOJOに相当するため、それも既存の分類上の問題だと考える。意味レベルで分類すればその問題を解決できると予測し、新しい分類を提案したが、（1）～（4）の結果がその新しい分類の妥当性を支持したと言える。

さらに、同じ未知の場合だとしても、（1）～（3）の結果は、日本語習熟度の違いによって語のタイプの中の難易度が変わっていく（陳 2009b）という先行研究の知見をある程度支持したと言える。

続いて、読解における二字漢字語の受容に関するストラテジーの内容について考察する。

表で示したこの部分に関する結果をまとめて以下に述べる。

- （1）日本語習熟度と関係なく、未知の場合は、語彙的手がかりのみを使うこと（語）、文脈的手がかりのみを使うこと（文）、語彙的手がかりと文脈的手がかりを統合的に使うこと（統合）、という3つのストラテジーのパターンがある。

(2) 日本語習熟度と関係なく、既知の場合は、文脈で検証しないで既習の知識を使うこと（確信）、文脈で検証した上で既習の知識を使うこと（検証）、語彙知識や分脈情報などの手がかりを使って再推測した結果に従うこと（推測）、という3つのストラテジーのパターンがある。

語彙学習ストラテジーは、「メタ認知ストラテジー」、「認知ストラテジー」「社会ストラテジー」、「情意ストラテジー」に分けられると O'Malley and Chamot (1990) が述べている。その中で、未知語の意味を推測することは「認知ストラテジー」の1種であると考えられている。その未知語の意味推測における手がかりの内容を検討したものに、崔 (2015a、2015b、2017) の一連の研究がある。(1) の結果は、主に語彙的手がかりと文脈的手がかりを使う点と、中国語話者の日本語学習者は統合的に語彙的手がかりと文脈的手がかりを使える点で共通している。

それに対して、既知語だと、そのまま知っている語の意味を利用して文章を読むという共通の認識が存在しているため、筆者の知る限り、今までは、既知語と出会った際に使われたストラテジーの内容を検討する研究がなかった。しかし、(2) の結果から、既知の知識への確信の程度の違いや学習者の個人差によって、いくつかのパターンが存在し、必ずしも既知が正解に結びつくとは限らないことが分かった。ここで言う「既知」とは、「正誤判断テスト」の得点が1点（満点）である場合、すなわちある語のある意味の存在を知っているとのことである。その理由は7.5節で述べたように、調査3の「読解テスト」は作文を書いてもらうような典型的な産出タスクではないが、そのタスクの中である種の知識運用が行われていたからである。具体的に、SJO 類なら、文脈から肯定的なフィードバックを得られるため、確信できる程度が高く、正答率も高い。それに対して、OJO 類と NJO 類なら、文脈の中で検証や修正をし、確信できた場合もできない場合もあるため、正解に結びつくとは限らない。

最後に、タイプ別の漢字語の難易度とストラテジーの使用を合わせて考察する。

表で示したこの部分に関する結果をまとめて言うと、

- (1) 未知の場合は、語のタイプと関係なく、「語」「文」「統合」という 3 種類のストラテジーが使える。そして、未知の場合、同じ「統合」というストラテジーを使っているとしても、語の各タイプの間には正答率の差があり、SJO 類、OJO 類、NJO 類の順で正答率が減っていく。
- (2) 既知の場合は、SJO 類に出会った際に主に「検証」というストラテジーを使うのに対して、OJO 類と NJO 類に出会った際に、「検証」か「推測」というストラテジーを使った。そして、SJO 類の正答率はほぼ 100%であり、OJO 類と NJO 類の正答率より高いが、OJO 類と NJO 類を比べると、両者の間に、正答率でもストラテジーの使用でも差はなかった。
- (3) 正答率と日本語習熟度との相関を検討した結果、未知の場合、初級においては SJO 類、OJO 類、NJO 類という順に正答率が低くなるが、中上級においては、SJO 類の正答率が OJO 類・NJO 類より高いが、OJO 類と NJO 類との間に差はなかった。既知の場合、日本語習熟度と関係なく、SJO の正答率が OJO 類と NJO 類より高かった。

読解の理論的モデルには、「ボトムアップ処理理論 (bottom-up processing theory)」、「トップダウン処理理論 (top-down processing theory)」、「相互作用理論 (interactive model)」、「ネオボトムアップ相互作用理論 (neo-bottom-up interactive processing model)」がある。

ボトムアップ処理理論は、データ駆動型処理とも呼ばれ、知識や期待などの人の要因からの影響を受けにくく、「小さな言語単位から大きな言語単位の理解へと段階的に処理が進んでいく」(門田 2006 : 72)、「書かれたテキストからの情報にほぼ全面的に依存した形で処理が進められる」(門田 2006 : 72) という理論である。

トップダウン処理理論は、概念駆使型処理とも呼ばれ、人の知識や期待に依存して情報を解釈する仕組みであり、「テキストからの最低限の手掛かりから予測を立て、その予測の正誤を検証し、確認または棄却する読み手主体」(門田 2006 : 74) の性格を持っている。

相互作用理論は、上記のボトムアップとトップダウン、2 つの処理過程が同時並行的に行われているという考えである。

ネオボトムアップ相互作用理論は、読み手の眼球運動のメカニズムを分析することで、「すぐれた読み手は、語彙の処理などを省略しているのではなく、ボトムアップ過程については、高速化ないし自動化された処理をしていること」（門田 2006：78）を主張する新たなボトムアップ重視の考え方である。

従来の先行研究には、管見の限り、漢字語のタイプ別の難易度とストラテジーの使用を合わせて検討したものがなかった。しかし、読解活動においては、語のタイプとストラテジーの使用が常に共存しているため、両者を合わせて検討した方が、中国語話者の日本語学習者による二字漢字語の受容の実態をより解明することができると考えられる。

上記の（1）と（3）を合わせて見ると、初級では、同じストラテジーを使っても各タイプの間には正答率の差が出るため、未知語の場合は、漢字語自体の難易度がストラテジーの使用より重要な位置を占めると示唆された。さらに、日本語習熟度が上がるにつれ、その差がだんだん消えていくという状況が見られたため、漢字語自体の難易度と日本語の習熟度には相関があるのではないかと考えられる。

また、既知語の場合は、S語に使用されたストラテジーの内容がO語、N語と異なり、正答率も異なる。それに対して、O語とN語はストラテジーの使用も正答率も同様である。このようなことから、漢字語自体の難易度より、ストラテジーの使用のほうがより重要な位置を占めることが分かった。そして、日本語習熟度が上がったとしても、その状況が変わらなかったため、中級と上級においては、ストラテジーの使用は日本語の習熟度と相関がないのではないかと考えられる。

以上のことより、中国語話者にとって、未知語と遭遇した際に、漢字語の知識上の難易度によって、習得の差があり、その差は日本語習熟度があがるにつれて段々なくなると考えられる。それに対して、既知語と遭遇した際には、ストラテジーの使用によって、習得の差が出て、日本語習熟度が変わってもその差が変わらないと考えられる。前者から、中国語話者は、未知語の漢字語がある文章を読むとき、よりボトムアップ処理に従うと推察し、後者から、既知語のみの文章を読むときは、よりトップダウン処理に従うと推察した。

## 8.2 本研究の意義

本論文の意義は以下 3 点にまとめることができる。

- (1) 中国語話者のための日本語教育という立場から、漢字語の日中対照分析の枠組みを提案し、分類の手順も決めたこと。

本論文では、既存の二字漢字語に関する枠組みと意味分類を見直し、母語知識の利用に影響を与える意味レベルでの分類と「Nothing in Japanese Orthography」という考えの必要性という 2 点を指摘し、新たな枠組みを提案した。

新たな枠組みは、辞書的意味の日中対照分析に、意味レベルでの分類という観点を加えるものである。語の多義性を考慮し、意味レベルで分類するという観点を加えることによって、漢字語のどの意味を調査に用いるかという選定がしやすくなり、漢字語のどの意味を特定の文脈で学習するかという指導もしやすくなる。語レベルでの分類という全能の視点の枠組みに比べて、より学習者の立場に相応しくて妥当性が高い分類であると考えられる。

また、「Nothing in Japanese Orthography」という観点を加えることによって、その意味の類推度の高低、及びその意味の運用度の高低に基づき、習得研究に用いるものを選定することもしやすくなる。また、母語の知識が習得にどのように作用するのかを限定することも、母語の知識を利用するに際してどのような点に注意し、指導するのかを明確にすることもできる。

- (2) 漢字語の受容における習得研究の調査法の改善案を提案したこと。

読解における学習者のストラテジーの使用を検討する研究には、従来の質問紙や発話思考法ではなく、「口頭訳テスト+フォローアップインタビュー」という調査法を利用することで、調査法に慣れない学習者がいるという発話思考法の限界を改善することができ、質問紙より真正性のある読解活動に近いと、学習者の心中で起こ

ったことを調査することもできる。

母語の影響に焦点を当てた中間言語を見た研究では、単文で文脈が提示された 1 つのみの質問紙調査をするのではなく、200 字前後の文脈を提示することで文全体の文脈情報が利用できなかった点を改善することができるし、2 ステップの質問紙調査を行うことで、調査が行われる際に学習者が持つ出題語の知識レベルを把握することもできる。

- (3) 漢字語自体の難易度とストラテジーの使用を統合的に調査することによって、漢字語のタイプ、ストラテジーの使用、漢字語レベル、日本語習熟度と学習者の知識レベルが漢字語の受容に与える影響を明らかにしたこと。

これまでの漢字語の習得研究は、漢字語自体の難易度に日本語習熟度や学習環境が与えた影響を検討する、あるいは、ストラテジーの使用に日本語習熟度や学習者の知識レベルが与えた影響を検討するものであった。すなわち、漢字語自体の難易度とストラテジーの使用、どちらかの 1 つの要因に注目して調査を行っていた。しかし、読解における二字漢字語の受容には、その 2 つの要因が独立して影響を与えるのではなく、共存して相互的な影響を与えらる。

本研究は、質的調査と量的調査の両方を行うことで、二字漢字語の受容に影響を及ぼす様々な要因を検討したこと、特に漢字語自体の難易度とストラテジーの使用という 2 要因を統合的に検討したことに独自性があると考えられる。

## 第9章 終章

本章においては、本研究全体の要約と結論を述べた後、調査結果を踏まえ日本語教育への示唆を述べ、最後に今後の展望を述べる。

### 9.1 本論文のまとめ

本節において、章ごとのまとめを行うことにする。

第1章「序論」においては、本研究のきっかけと背景、本研究の目的、本研究で扱う用語の定義、本研究における全体の構成、及び流れについて述べた。

第2章「日中漢字語の意味対応関係」においては、「日中両国語における漢語・漢字語」の意味の異同が生じる原因を述べた後、「漢語・漢字語のみの意味分類」「その他の分類」に分け、先行研究を概観した。

その結果、先行研究には、従来の枠組みが全て語ごとに日中の意味対応関係を議論してきた辞書ベースの分類であることと、「中国語にない」語をN語とする視点、という2つの問題点があるが明らかになった。一方、先行研究から、文脈における「意味的に対応する中国語」まで考えて分類する必要があるという示唆も得た。

この結果を踏まえ、本研究においては、中国語話者の立場から考え、具体的な文脈を見ながら分類基準を定め、日本語に存在するか否か、つまり「Nothing in Japanese Orthography」という視点からより中国語話者の二字漢字語の習得研究に相応しい新たな枠組みの必要性を述べた。

第3章「従来の意味対応関係に基づく研究」においては、「学習者の中間言語を見る研究」「意味推測の研究」「認知処理過程の研究」「既存の辞書とデータベース」に分け、第2章でレビューした枠組みに基づいた先行研究を概観した。

その結果、従来の母語の影響を検討した研究には、学習者の判断が習得に与える影響が十分に考慮されていないという共通の問題点があり、1つのテストを行うだけでは、



調査が行われる際に学習者が問われる出題語の知識を持っているかどうか把握できないという手法的な限界もあることが明らかになった。また、未知語の意味推測研究にも、調査法に検討の余地があると考えに至った。

この結果を踏まえ、意味推測研究の場合は、普段通りに読みながら口頭での母語訳をしてもらい、最後にフォローアップインタビューを実施するという調査法を提案し、母語の影響を見る語彙習得を調査する時には、従来の 1 つの意味を問う調査だけでなく、2 つの調査を行うべきであると主張した。

「探索的調査」においては、既存の一番新しい枠組みを用い、発話思考法を利用し、具体的な手がかりの項目を中心に、学習環境との相関を分析したうえで、中上級の中国語話者による漢字語の意味推測の実態、及びその原因を考察することにより、以下のことを明らかにした。

- I. 中上級の中国語話者は未習の漢字語に遭遇した際に、学習環境と関係なく、主に、「語彙知識」「文脈情報」「文法知識」「世界知識」の 4 種類の手がかりを使う。
- II. 中上級の中国語話者は未習の漢字語に遭遇した際に、学習環境と関係なく、「文脈の手がかりのみ」、「語彙の手がかりのみ」、「統合的に文脈情報と語彙知識を使う」というパターンが利用可能であり、「語彙の手がかりのみ」は、JFL 環境の学習者の使用数が JSL 環境の学習者より有意に少ない。
- III. 学習環境と関係なく、最も推測しやすいのは N①語であり、その次は S 語、OⅢ語、N②語と OⅡ語であり、最も推測しにくいのは D 語である。
- IV. JFL 環境においては、「文脈情報のみ」を使って推測した場合に正答率が最も低いのにに対して、JSL 環境においては、「語彙情報のみ」を使って推測した場合に正答率が最も低い。そして、「文脈情報のみ」を使って推測した場合は、JSL 環境の CLJ の成績がより高く、「語彙情報のみ」を使って推測した場合は、JFL 環境の CLJ の成績がより高い。
- V. 文脈の長さは、文章なら 3 行ぐらいが一番理想的である。文脈の内容は個人の好み合ったものがモチベーションを高める

第5章「日中対照分析の枠組みの提案」においては、中国語話者のための日本語教育に役立つ枠組みを提案した。そして、実際のカテゴリ作業を行い、既存の枠組みと比較しながらカテゴリの結果を述べた。

第6章「質的調査」においては、前の第5章で提案した新たな枠組みを用い、第4章の問題点を改善し、「口頭訳の読解テスト+フォローアップインタビュー」という方法を採用し、未習・既習別にJFL環境の中国語話者による二字漢字語の受容の実態を調査することにより、以下のことを明らかにした。

- I. 未習語の場合、SJO類が最も理解しやすく、NJO類がもっとも理解しにくい。OJO類の難易度は両者中間である。
- II. 未習語の場合、同じ「語彙知識+文脈情報」という統合的な手がかりを使うとしても、SJO類の成功数は有意に多く、NJO類の成功数は有意に少ない。OJO類は成功と失敗の数に差がない。
- III. 既習の場合、SJO類がOJO類・NJO類より理解されやすい。
- IV. 既習の場合、同じ手がかりのパターンを使う時、SJO類がOJO類・NJO類より成功数が有意に多く、OJO類・NJO類の成否に手がかりのパターンの影響は見られなかった。

第7章「量的調査」においては、第6章と同じく新しい枠組みを用い、既知か未知かの学習者の知識レベルを問う正誤判断テストと、検討したいものを問う読解テスト、2つのテストを行い、調査時点で出題語の知識を学習者が持っているかどうかを把握した上で、学習者の二字漢字語の受容と学習者の知識レベル（既知か未知）、日本語能力（以下、L2能力）、漢字語のタイプ（以下、語のタイプ）、漢字語のレベル（以下、語のレベル）との関連性を調査することにより、以下のことを明らかにした。

- I. 付随的語彙学習を通して、知識レベルが低い語（未知語）の習得が進む。
- II. 知識レベルが低い語、すなわち未知語においては、上級学習者（上位群）にとって

は、語のタイプ別の正答率の差は見られなかったが、中級学習者（中位群・下位群）にとっては、SJO 類が OJO 類・NJO 類より正答率が高い。一方、知識レベルが高い語、すなわち既知語においては、L2 能力と関係なく、SJO 類が OJO 類・NJO 類より正答率が高い。

- III. 知識レベルが低い場合、N2N3・SJO 類がもっとも簡単で、その次が N1・SJO 類、N1・OJO 類、と N2N3・NJO 類で、N1・NJO 類と N2・OJO 類がもっとも難しい。一方、知識レベルが高い場合、N1・N2N3 レベルの SJO 類と N2N3 レベルの NJO 類はより簡単であり、N1・N2N3 レベルの OJO 類と N1 レベルの NJO 類はより難しい。

第 8 章「総合的考察」においては、第 4 章、第 5 章、第 6 章で述べた調査結果をまとめ、中国語話者による二字漢字語の受容の実態を総合的に考察し、以下の結論をえた。読解場面においては、

- I. 未知語と遭遇した際に、漢字語の知識上の難易度によって、習得の差があり、その差は日本語習熟度があがるにつれて段々なくなる。
- II. 既知語と遭遇した際に、ストラテジーの使用によって、習得の差が出て、日本語習熟度が変わってもその差は変わらない。

更に、以下の本研究の意義も明確にした。

- I. 中国語話者のための日本語教育という立場から、漢字語の日中対照分析の枠組みを提案し、分類の手順も決めた。
- II. 漢字語の受容における習得研究の調査法の改善案を提案した。
- III. 漢字語自体の難易度とストラテジーの使用を統合的に調査することによって、漢字語のタイプ、ストラテジーの使用、漢字語レベル、日本語習熟度と学習者の知識レベルが漢字語の受容に与える影響を明らかにした。

第 9 章「終章」においては、本論文の各章をまとめ、研究結果の日本語教育への応用の可能性を述べ、本研究の今後の課題を述べた。

## 9.2 日本語教育への応用

表 5-1 の再提示

分類	定義	イメージ図 <sup>65</sup>
Same in Japanese Orthography 【SJO】	漢字語と意味的に対応する中国語が漢字語と同形である	X (日) = X (中) = X (日)
Overlap in Japanese Orthography 【OJO】	漢字語と意味的に対応する中国語が漢字語と同形ではないが、日本語に存在する	X (日) = Y (中) ≠ Y (日)
Nothing in Japanese Orthography 【NJO】	漢字語と意味的に対応する中国語が日本語には存在しない	X (日) = Z (中) ; Z (日) 非存在

本研究では、母語である中国語の知識を利用することに着目して、以上の意味レベルでの新しい枠組みを提案した。そして、第 8 章の結論から、未知語の場合、特に日本語習熟度が初級レベルの学習者にとっては、漢字語自体の難易度が重要な位置を占めることが分かった。

他方、JFL 環境では、初級日本語学習者は主に教科書から大量の語彙を学んでおり、しかも、授業中に語彙を教えるには時間的な余裕がなく、学習者の自律学習に頼るといふ現状である。

以上のことから、初級（一年、二年）の教科書に、文脈における個々の新しい語の中国語訳を提示するとともに、その意味および形の日中対応関係を明示したほうがより効率的であると考えられる。

今回は、今中国で使われている全ての教科書を調べたわけではないが、調査協力校で使われている初級の教科書では、語と品詞情報のみが提示されている（図 9-1）。

<sup>65</sup> アルファベットは構成要素の漢字を表し、「=」と「≠」は意味が同じかどうかを表す

け			
毛 (名)	1	結構 (形動・副)	复习三
ケーキ (名)	3	結婚 (名・自サ)	8
劇場 (名)	14	欠席 (名・自サ)	3
ゲストハウス (名)	4	元 (名)	6

図 9-1 『新編日語』の単語リスト

以上のような提示の仕方だと、本文に出た語の意味に対応する中国語がわからないため、まずは、意味的に対応する中国語を単語リストで提示する必要がある。その上で、本文の中では、新出単語に下線や色付けなどのマークを付ける等の工夫をして、「SJO 類」(同形同義)か「非 SJO 類」(非同形同義)かが分かるようにすれば、さらに効率的になると考えられる。

また、読解活動をする時に、「形→意味」というプロセスで考える学習者がいる可能性もあるため、以下に図示する、本研究で「意味→形」というプロセスを経て提案した新しい枠組みを用いて、当該漢字語が中国語に存在するか否かという情報を加えると有効であると考えられる。

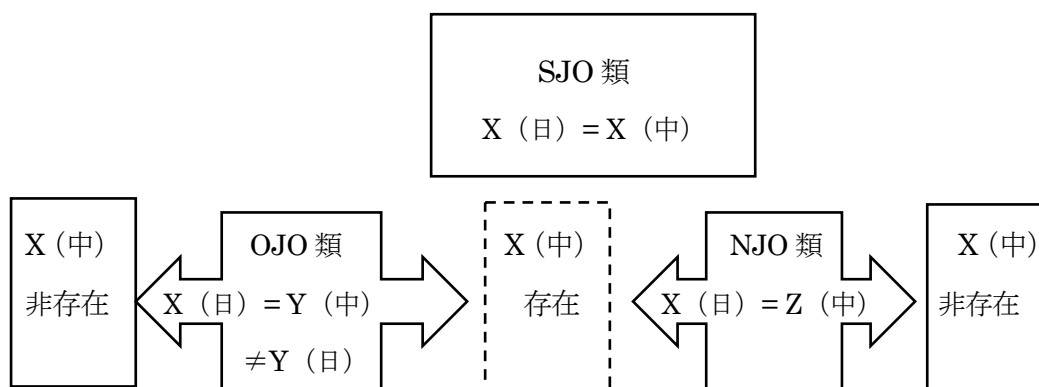


図 9-2 中国語に存在するかどうかの情報を加えるイメージ

「SJO 類」(同形同義)と「非 SJO 類」(非同形同義)の情報を明示した上で、破線の四角で囲んだ、一部の OJO 類と NJO 類を要注意語として明示しても良いと考えられる。

### 9.3 今後の展望

これまで、中国語話者による二字漢字語習得のための枠組みを提案し、読解場面における受容の実態を明らかにしてきた。しかし、本研究には課題も多く残されている。以下、本研究の今後の課題の主なものとして、次の二点を挙げる。

#### (1) 他言語話者との比較

奥野 (2005 : 50) によると、「2 言語を対象としても言語転移の有無を判断することはできず、1 言語のみを対象として言語転移であると結論づけることは恣意的、主観的判断である。」

本論文は中国語話者のみを対象として母語の影響を検討した。その結果が母語の影響によるものなのかを結論付けるためには、ベトナム語話者、韓国語母語話者など、もう 2 つ以上の言語の母語話者と比較する必要がある。

#### (2) 産出場面 (output) における習得難易度の解明

本論文では、母語知識を利用するという観点から、中国語話者のための漢字語教育の枠組みを提案した。しかしながら、提案したのは漢字語を理解するための枠組みではなく、むしろ漢字語習得全体に役立つための枠組みであると考えられる。よって、産出場面も視野に入れて研究する必要がある。

今後、ライティングなどのような産出場面では、この枠組みが利用できるかどうか、語のタイプがどのような影響を与えるのかも明らかにしたい。

以上の点を今後の主たる課題として、更なる研究の深化を目指していきたい。

## 引用文献

- 荒川清秀 (1979) 「中国語と漢語 -文化庁『中国語と対応する漢語』の評を兼ねて-」『愛知大学文学論叢』 3, pp.8-9
- 荒川清秀 (1986) 「字音形態素の意味と造語力-同訓異字の漢字を中心に-」『愛知大学文学論叢』 82・83, pp.592-569
- 荒川清秀・荒川由紀子 (1988) 「現代中国語の造語力-日本語における漢語との関連で-」『愛知大学文学論叢』 89, pp.350-323
- 荒川清秀 (1998) 「日本漢字語の中国語への流入」『日本語学』 17-5, pp.56-67
- 荒川清秀 (2002) 「日中漢語語基の比較」『国語学』 53, pp.84-96
- 荒川清秀 (2012) 「日中両国語における漢語語基の意味と造語力」『日中対照言語学研究論文集：中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴』 pp.1-13
- 荒川清秀 (2018) 『日中漢語の生成と交流・受容：漢語語基の意味と造語力』 白帝社
- 安龍洙 (1999) 「日本語学習者の漢語の意味の習得における母語の影響について-韓国人学習者と中国人学習者を比較して-」『第二言語としての日本語の習得研究』 3, pp.5-17
- 庵功雄 (2015) 「中国語話者の母語の知識は日本語学習にどの程度役立つか -「的」を例に-」『汉日语言对比研究论丛』 7, pp.165-173
- 庵功雄 (2017) 『一步進んだ日本語文法の教え方 1』 くろしお出版
- 庵功雄 (2018) 『一步進んだ日本語文法の教え方 2』 くろしお出版
- 井上優 (2005) 「学習者の母語を考慮した日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』 pp.83-102
- 上野恵・魯曉琨 (1995) 『おぼえておきたい日中同形異義語 300』 光生館
- ウラムバヤルツェツェグドラム (2003) 「未知漢字語彙の意味推測を促す指導の効果:推測手がかりの使用と正確さの観点から」『第二言語としての日本語の習得研究』 16, pp.178-195
- 王永全・許昌福・小玉新次郎 (2007) 『日中同形異義語辞典』 東方書店
- 王蜀豫 (2001) 『日中語彙の対照的研究：同形語を中心に』 四川文芸出版社
- 大河内康憲 (1992) 『日本語と中国語の対照研究論文集』

- 大関浩美 (2010) 『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版
- 大塚秀明 (1990) 「日中同形語について」『筑波大学外国語教育論集』12, pp.327-337
- 大村益夫 (1965) 「中国人・朝鮮人に対する漢字語彙教育について」『講座日本語教育』1, pp.61-77
- 岡田順子 (2007) 『効果抜群！語彙の定着をさらに促進する単語テスト集』アルク
- 岡益巳 (2002) 「日本経済語彙における日中両語間でのずれについて」『日本語教育』113, pp.63-72
- 奥野由紀子 (2005) 『第二言語習得過程における言語転移の研究：日本語学習者による「の」の過剰使用を対象に』風間書房
- 郭志紅 (1989) 「中国人に対する日本語教育における漢字教育の諸問題」『講座日本語教育』24, pp.188-196
- 加藤稔人 (2005) 「中国語話者による日本語の漢語習得 - 他言語話者との習得過程の違い - 」『日本語教育』125, pp.96-105
- 門田修平 (2006) 『第二言語理解の認知メカニズム：英語の書きことばの処理と音韻の役割』くろしお出版
- 茅元百合子 (2002) 「語彙判断課題と命名課題における中国語話者の日本語漢字アクセス」『教育心理学研究』50, pp.436-445
- 河住由希子 (2005) 「中国人学習者の漢字語彙使用に見られる問題点」『早稲田大学日本語教育研究』7, pp.53-65
- 川口義一 (1989) 「漢字指導の新しい試み」『講座日本語教育』24, pp.33-35
- 邱學瑾 (2002a) 「台湾人日本語学習者における日本語漢字熟語の処理過程 - 日・中 2 言語間の同根語と非同根語の比較 - 」『広島大学大学院教育学研究科紀要第 2 部文化教育開発関連領域』51, pp.357-365
- 邱學瑾・松見法男 (2007) 「単語検索後の意味再生に及ぼす表記形態と辞書メディアの影響 - 台湾人日本語学習者における日本語単語の記憶 - 」『広島大学日本語教育研究』17, pp.61-65
- 金若静 (1987) 『同じ漢字でも-これだけ違う日本語と中国語-』学生社
- 金若静 (1990) 『続・同じ漢字でも-これだけ違う日本語と中国語-』学生社
- 熊可欣・玉岡賀津雄 「日中同形二字漢字語の品詞性の対応関係に関する考察 (特集号：



- 日本語、韓国語、中国語の同形二字漢字語の品詞性に関するデータベース)『ことばの科学』27, pp.25-51
- 候仁峰 (1997) 「同形語の品詞の相違についての考察」『日本学研究』6, pp.78-88
- 小室リー郁子 (2015) 「中国語を母語とする日本語学習者にとっての漢字語彙：母語知識が活用できる漢字語彙資料とは」『間谷論集』9, pp.1-25
- 小室リー郁子 (2019) 『中国語話者のための漢字語彙研究：母語知識を活かした教育をめざして』くろしお出版
- 小森和子・玉岡賀津雄・近藤安月子 (2008) 「中国語を第一言語とする日本語学習者の同形語の認知処理-同形類意義語と同形異義語を対象に-」『日本語科学』23, pp.81-94
- 小森和子・玉岡賀津雄 (2010) 「中国人日本語学習者による同形類義語の認知処理」『レキシコンフォーラム』5, pp.165-200
- 小森和子・三國純子・徐一平・近藤安月子 (2012) 「中国語を第一言語とする日本語学習者の漢語連語と和語連語の習得 - 中国語と同じ共起語を用いる場合と用いない場合の比較 - 」『小出記念日本語教育研究会』20, pp.49-61
- 小森和子・玉岡賀津雄・斎藤信浩・宮岡弥生 (2014) 「第二言語として日本語を学ぶ中国語話者の日本語の漢字語の習得に関する考察」『中国語話者のための日本語教育研究会』5, pp.81-94
- 小森和子・三國純子・徐一平 (2016) 「中国語を母語とする日本語学習者の漢語と和語の連語形式の習得に及ぼす母語の影響—モンゴル語を母語とする日本語学習者との比較から—」『日本学研究』26, pp.240-258
- 小森和子・早川杏子・玉岡賀津雄 (2017) 「日中対照漢字二字熟語データベース」『明治大学国際日本学研究』9, pp.209-229
- 小森和子・早川杏子・三國純子 (2018) 「中国語話者は和製漢語を正しく意味推測できるのか：日本語未習者への調査から」『中国語話者のための日本語教育研究』9, pp.69-83
- 斎藤倫明・石井正彦 (2011) 『これからの語彙論』ひつじ書房
- 崔娉 (2013) 「中国人日本語学習者における漢字語彙の意味推測」お茶の水女子大学修士論文 (未公開)
- 崔娉 (2015a) 「中国語を母語とする日本語学習者における未知漢字語彙の意味推測」『第

- 二言語としての日本語の習得研究』18, pp.103-119
- 崔娉 (2015b) 「日本語の未知漢字語彙の意味推測に見る中国語を母語とする学習者の推測手がかりの利用：漢字語彙の日中対応関係及び L2 習熟度の観点から」『言語文化と日本語教育』50, pp.61-70
- 崔娉 (2017) 「日本語読解における未知漢字語彙の意味推測：中国語を母語とする日本語学習者を対象に」『中国語話者のための日本語教育研究』8, pp.32-45
- 蔡鳳香・松見法男 (2009) 「中国語を母語とする上級日本語学習者における日本語漢字単語の処理過程：同根語と非同根語を用いた言語間プライミング法による検討」『日本語教育』141, pp.14-24
- 蔡鳳香・費曉東・松見法男 (2011) 「中国語を母語とする上級日本語学習者における日本語漢字単語の処理過程 - 語彙判断課題と読み上げ課題を用いた検討 - 」『広島大学日本語教育研究』21, pp.55-62
- 周錦樟 (1986) 「日中漢語対応の問題 - 文化庁『中国語と対応する漢語について - 』」『日本語日本文学』12, pp.69-89
- 瀋國威 (1993) 「現代中国語における日本製漢字語」『日本語学』7, pp.41-49
- 鈴木義昭 (1985) 「漢字系学生の授業と実際」『講座日本語教育』21, pp.78-104
- 鈴木義昭 (1989) 「中国の簡体字」『講座日本語と日本語教育 9 日本語の文字・表記(下)』pp.140-168
- 石堅・王健康 (1983) 「日中同形語における文法的ずれ」『日本語・中国語対応表現用例集』5, pp.56-82
- 曹麗萍 (1992) 「日中同形異義漢字語について」『日本文学研究会会報』07, pp.28-40
- 曾根博隆(1988) 「日中同形語に関する基礎的考察」『明治学院論叢』424, pp.61-96
- 高野繁男・王宝平(2002) 「日中現代漢語の層別 - 日中同形語に見る - 」『日中文化論集 - 多様な角度からのアプローチ - 神奈川大学・浙江大学学術交流十周年記念』pp.118-139
- 谷内美智子 (2003) 「付随的語彙学習に関する研究の概観」『言語文化と日本語教育. 増刊特集号, 第二言語習得・教育の研究最前線』pp.78 - 95
- 谷口すみ子(1991) 「思考過程を出し合う読解授業 - 学習者ストラテジーの観察 - 」『日本語教育』75, pp.37-50

- 張志剛 (2014) 『現代日本語の二字漢語動詞の自他』 くろしお出版
- 張淑榮・徳田武 (1987) 『中日漢語対比辞典』 ゆまに書房
- 張麟声 (2011) 『新版 中国語話者のための日本語教育研究入門』 日中言語文化出版社.
- 陳毓敏 (2003a) 「中国語を母語とする日本語学習者における漢語習得研究の概観 - 意味と用法を中心に - 」 『第二言語習得・教育の研究最前線』 2003 年 11 月増刊特集号 , pp.96-113
- 陳毓敏 (2003b) 「中国語を母語とする日本語学習者の漢語習得について - 同義語・類義語・異義語・脱落語の 4 タイプからの検討 - 」 日本語教育秋季大会予稿集 pp.174-179
- 陳毓敏 (2009a) 「中国語母語学習者の日本語の漢字語習得研究のための新たな枠組みの提案 - 意味使用の一般性と意味推測可能性を考慮して - 」 『日本語科学』25 , pp105-117
- 陳毓敏 (2009b) 「中国語母語の日本語学習者における漢字語の習得研究」 お茶の水女子大学博士論文
- 陳夢夏 (2014) 「中国人日本語学習者における未習漢字語の意味推測に関する一考察」 『2013 年度上海外国語大学日本文化経済学院国際研討会記念文集』 pp.8-13
- 陳夢夏 (2019) 「二字漢字語における日中対照分析の枠組みの提案」 『一橋日本語教育研究』 7, pp.15-28
- 陳力衛 (2019) 『近代知の翻訳と伝播 - 漢語を媒介に - 』
- 唐磊 (1993) 『現代日中常用漢字対比詞典』 北京出版社
- 飛田良文・呂玉新 (1986) 「「中国語と対応する漢語」を診断する」 『日本語学』 6, pp.72-85、明治書院
- 飛田良文・呂玉新 (1994) 『日本語・中国語意味対照辞典』 南雲堂
- 中川正之 (1992a) 「<中国語から見た>語構成 - とくに並列語をめぐって - 」 『月間言語』 21-3、 pp.74-79
- 中川正之 (1992b) 「類型論から見た中国語・日本語・英語」 『日本語と中国語の対照研究論文集』 (上) pp.3-21
- 中川正之 (1995) 「単語の日中対照」 『日本語学』 5, pp.64-71
- 中西泰洋 (2008) 「日本語学習者の漢字・語彙の学習方法について」 『神戸大学留学生生セ

- ンター紀要』14, pp.21-26
- 中村太一 (2004) 「語彙の習得」『第二言語習得研究の現在』大修館書店
- 日向敏彦 (1985) 「漢語サ変動詞の構造」『上智大学国文学論集』8, pp.161-179
- 野沢素子 (1970) 「中国人に対する日本語教育 - 漢字語彙を中心にして - 」『日本語と日本語教育』2, pp.103-101
- 野田尚史 (2017) 「中国語話者の日本語読解：調査方法と調査結果」『中国語話者のための日本語教育研究』8, pp.1-15
- 野村雅昭 (1999) 「サ変動詞の構造」森田良行教授古稀記念論文集刊行会 (編) 『日本語研究と日本語教育図書』 pp.1-23 明治書院
- 野村雅昭 (2013) 『現代日本漢語の探究』東京堂出版
- 朴ソンジュ・熊可欣・玉岡賀津雄 (2014a) 「同形二字漢字語の品詞性に関する日韓中データベース概要」『ことばの科学』27, pp.3-23
- 朴ソンジュ・熊可欣・玉岡賀津雄 (2014b) 「同形二字漢字語の品詞性に関する日韓中データベース」『ことばの科学』27, pp.53-111
- 濱川祐紀代 (2009) 「漢字を専門とする留学生の「漢字学習」に関する調査」『JSL 漢字学習研究会誌』2, pp.38-45
- 潘鈞 (1995) 「中日同形詞詞義差別異浅析」『日語学習与研究』3, pp.19-23
- 藤山智子 (2009) 「日本語の語彙知識と文章理解」『アジア・オセアニア地域における多文化共生社会と日本語教育・日本研究: 第8回国際日本語教育・日本研究シンポジウム会議録. 第1部』 pp.310-316
- 藤山智子 (2011) 「中国語を母語とする日本語学習者の漢語・漢字語習得研究の概観 - 母語の影響、転移を中心として - 」『比較社会文化研究』30, pp.109-116
- 文化庁 (1978) 『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局
- 松下達彦 (2009) 「マクロに見た常用漢字語の日中対照研究 - データベース開発の過程から - 」『桜美林言語教育論叢』5, pp.117-131
- 松下達彦 (2011) 「複数の語彙リストの比較による日本語の常用語に含まれる日中同形漢語の量的検証」第3回北東アジア言語教育学会発表資料
- 松下達彦・陳夢夏・王雪竹・陳林柯 (2017) 「日中対照漢字語データベースの開発と応用」『2017年度 日本語教育学会秋季大会 予稿集』 pp.366-371

- 松見法男・蔡鳳香 (2007) 「中国語-日本語間で生じる言語内・言語間ストループ効果の検討：中国語を母語とする初級の日本語学習者を対象として」『広島大学大学院教育学研究科紀要第2部』 56, pp.181-186
- 松見法男・費曉東・蔡鳳香 (2012) 「日本語漢字単語の処理過程 - 中国語を母語とする中級日本語学習者を対象とした実験的検討 - 」『第二言語習得研究と言語教育』くろしお出版
- 三浦昭 (1984) 「日本語から中国に入った漢語の意味と用法」『日本語教育』 53, pp.102-112
- 三浦久美子 (1997) 「日中同形語が学習者に与える影響 - 日本人の中国語学習者を対象にして - 」『言語文化』 6, pp.89-96
- 宮島達夫 (1993) 「日中同形語の文体差」『阪大日本語研究』 5, pp.1-18
- 孟盈 (2017) 「中国語を母語とする日本語学習者における語彙習得研究：言語間類似性の観点から」『日本語研究』 37, pp.151-164
- 望月八十吉 (1974) 『中国語と日本語 〈中国語研究学習双書 13〉』 光生館
- 大和祐子・玉岡賀津雄 (2009) 「中国人日本語学習者の日本語漢字語の処理における母語の影響」『ことばの科学』 22, pp.117-135
- 叶栩邑 (2015) 「意味に基づく日中同形語の分類の揺れ - 二字漢語分類のツーバーション対照を中心に - 」『日本学研究』 25, pp.14-25
- 吉澤真由美 (2016) 「語彙の習得」『第二言語としての日本語習得研究の展望』 ココ出版
- 李愛華 (2006) 「中国人日本語学習者による漢語の意味習得 - 日中同形語を対象に - 」『筑波大学地域研究』 26, pp.185-203
- 林玉恵 (2002) 「日華・日漢辞典から見た日中同形語記述の問題点 - 同形類義語を中心に - 」『世界の日本語教育』 12, pp.107-121
- J.V.ネウストプニー・宮崎里司『言語研究の方法：言語学・日本語学・日本語教育学に携わる人のために』くろしお出版
- Ellis, R. 1994. *The Study of Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.
- Huckin, T., & Bloch, J. 1993. Strategies for inferring word meanings in context: A cognitive model. *Second Language Reading and Vocabulary Learning* . ed. by

- Huckin, T., Haynes, M., and Coady, J. 153-178.
- Krashen, S. 1981. *Second Language Acquisition and Second Language Learning*. Oxford: Pergamon.
- Kolers, P. A. 1963. Interlingual word associations. *Journal of Verbal Learning & Verbal Behavior*. 2. 291-300.
- Kroll, J. F., & Stewart, E. 1994. Category interference in translation and picture naming: Evidence for asymmetric connection between bilingual memory representations. *Journal of Memory and Language*. 33. 149-174.
- Kondo-Brown, K. 2006 How Do English L1 Learners of Advanced Japanese Infer Unknown Kanji Words in Authentic Texts?. *Language Learning*. 56: 1, 109-153.
- Laufer, B., Elder, C., Hill, K & Congdon, P. 2004. Size and strength: do we need both to measure vocabulary knowledge? . *Language Testing* 21:2, 202-226.
- Matsushita, T. 2012. In What Order Should Learners Learn Japanese Vocabulary? A Corpus-based Approach. PhD Thesis, Victoria University of Wellington.
- Mori, Y. & Nagy, W.E. 1999. Integration of information from context and word elements in interpreting novel kanji compounds. *Reading Research Quarterly*. 34. 80-101.
- Mori, Y. 2003. The Roles of Context and Word Morphology in Learning New Kanji Words. *The Modern Language Journal*. 87. 404-420
- Nation, I.S.P. 2001. *Learning vocabulary in another language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Nation, I.S.P. 2013. *Learning vocabulary in another language*. Cambridge: Cambridge University Press. Second edition.
- Nakayama, M. S. 2002. The cognate status effect in lexical processing by Chinese-Japanese bilinguals. *Psychologia*. 45. 184-192.
- Nassaji, H. 2003. L2 Vocabulary Learning from Context: Strategies, Knowledge Sources, and Their Relationship with Success in L2 Lexical Inferencing. *TESOL Quarterly*. 37:4. 645-670.
- Otwinowska, A. 2016. *Cognate Vocabulary in Language Acquisition and Use: Attitudes, Awareness, Activation*. Multilingual Matters

- Paribakht, T. S., & Wesche, M. 2015. L1 influence in L2 lexical inferencing. *New Perspectives on Transfer in Second Language Learning*. Bristol, U.K.: Multilingual Matters, ed. by Liming Yu and Terence Odlin . 76-106
- Ringbom, H. 2007. *Cross-linguistic Similarity in Foreign Language Learning*. Multilingual Matters

## 参考文献

- 秋元美晴 (2016) 「第二言語としての日本語の語彙習得と学習」『日本語語彙論』ひつじ書房
- 池田富見子 (2011) 「中国語を母語とする日本語学習者の漢字語の習得 - 漢字の音韻類似度、漢字語タイプ、語彙レベルが及ぼす影響 - 」『久留米大学外国語教育研究所紀要』18, pp.133-147
- 石原嘉人 (2012) 「漢字圏の学生にとっての漢字語彙習得」『琉球大学留学生センター紀要留学生教育』09, pp.35-53
- 上田倫史 (2015) 「第7章 第二言語の語彙の習得と指導」『英語教育の実践的研究』溪水社
- 海保博之・原田悦子 (2009) 『プロトコル分析入門 - 発話データから何を讀むか - 』新曜社
- 郭毓芳 (2009) 「日本語漢字語彙習得の考察への一提案 - 中国語母語話者を対象に - 」『大阪大学言語文化学』18, pp.221-230
- 加藤稔人 (2005) 「中国語母語話者による日本語の語彙習得 - プロトタイプ理論、言語転移理論の観点から - 」『第二言語としての日本語の習得研究』8, pp.5-23
- 邱學瑾 (2000a) 「バイリンガルの視覚的語彙処理に関する研究の展望」『広島大学教育学部紀要 第2部』49, pp.271-276
- 邱學瑾 (2000b) 「バイリンガルの音韻処理に関する研究の動向 - 視覚的語彙処理の研究を中心に-」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第2部』50, pp.251-258
- 邱學瑾 (2002) 「漢字圏・非漢字圏日本語学習者における漢字熟語の処理過程 - 意味判

- 断課題を用いた形態・音韻処理の検討 - 』『教育心理学研究』50(4), pp.412-420
- 邱學瑾 (2010) 「日本語学習者の日本語漢字語彙処理のメカニズム - 異言語間の形態・音韻・意味の類似性をめぐって - 』『日本語教育特集：心理学の観点から見た第二言語としての日本語教育』146, pp.49-60
- 高偉建 (1989) 「日中同形語の対照研究 - 日本の漢語の意義特徴を中心に - 』『大阪大学日本学報』8, pp.79-103
- 黄正浩 (1994) 「漢字語彙の日中朝対照研究」『講座日本語教育』29, pp.334-358
- 侯仁鋒 (1997) 「同形語の品詞の相違についての考察」『日本学研究』6, pp.78-88
- 黄力游・林翠芳 (2004) 『日汉同形异义词词典』外语教学与研究出版社
- 小森和子 (2017) 「日中同形語から見えること - 似ているようで似ていない同形語の習得の難しさ - 』『日本語学特集：「同じことば」の言語学』36-11, pp.56-67
- 迫田久美子 (2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
- 佐々木嘉則『第二言語習得再入門：今さら訊けない…』凡人社
- 杉森直樹 (2010) 「V. 語彙力の測定・評価」『テストイングと評価 4 技能の測定から大学入試まで』pp.237-252 大修館書店
- 竹内理・水本篤 (2012) 『外国語教育研究ハンドブック - 研究手法のより良い理解のために - 』松柏社
- 谷内美智子・小森和子 (2009) 「第二言語の未知語の意味推測における文脈の効果-語彙的複合動詞を対象に-」『日本語教育』142, pp.113-122
- 長友和彦 (1998) 「第二言語としての日本語の習得研究」『児童心理学の進歩 37』pp.79-110
- 松見法男 (2006) 「言語学習と記憶」『講座・日本語教育学 第3巻 言語学習の心理』pp.128-160
- 松見法男 (2010) 「言語的コミュニケーションの心理学」『わかりやすさとコミュニケーションの心理学 朝倉実践心理学講座』5, pp.41-61
- 三國純子・小森和子・徐一平 (2015) 「中国語を母語とする日本語学習者の漢語連語の習得 - 共起語の違いが誤文訂正に及ぼす影響 - 』『中国語話者のための日本語教育研究』06, pp.34-49
- 水本篤・竹内理 (2008) 「研究論文における効果量の報告のために：基本的概念と注意



点』『英語教育研究』 31, pp57-66

柳納新 (1997a) 「关于日汉同形近义词 (上)」『日语知识』 6, pp.22-25

柳納新 (1997b) 「关于日汉同形近义词 (下)」『日语知识』 7, pp.22-25

## 調査資料

筑波大学、国立国語研究所、Lago 言語研究所『NINJAL-LWP for TWC』 Ver. 1.30

(<http://corpus.tsukuba.ac.jp>)

国立国語研究所、『現代書き言葉均衡コーパス』(少納言)

([https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/))

松下達彦『日本語を読むための語彙データベース』 Ver. 1.1

(<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/database.html>)

松村明 (編)『大辞林』 第三版、三省堂 (電子版)

依藤醇・呉川・三宅登之・加藤晴子・植村麻紀子 (編)『中日辞典』 第三版、小学館／商務印書館 (電子版)

守屋宏則・王亜新・今井敬子・大川完三郎・遠藤雅裕 (編)『日中辞典』 第三版、小学館／商務印書館 (電子版)

周平・陳小芬『新編日語』 第一版、上海外語教育出版社

J-CAT 日本語テスト

(<http://www.j-cat.org/>)

日本語読解学習支援システム リーディング チュウ太

(<http://language.tiu.ac.jp/>)

jReadability 日本語文章難易度判別システム

(<http://jreadability.net/>)

## 付 記

### 資料 I 調査 1 の記述式意味推測調査紙

请阅读以下句子，并写出划线部分词语的意思。测试中请将脑中所想全部说出来。

(以下の文を見て、下線部分の語彙の意味を書いてください。テストする間に頭に浮かんだことをすべて、声に出して語ってください。)

1. 民法、刑法の基本法を抜本的に改正し、司法制度を三年以内に再構築。

---

2. 二年前、ぼくの映画がパリで特集上映された時、新聞の一面に記事が掲載された。

---

3. 体が強くなくても病弱でない限りはやっていける—父親が言外にそう意味を込めているのは分かった。

---

4. ただ国民の間にはプライバシー侵害への懸念もあり、損益相殺を希望する人にだけに番号を付与する選択制にとどめる。

---

5. 1979年『バイバイ、エンジェル』で第5回角川小説賞を受賞、デビュー。他の代表作は『サマー・アポカリプス』『薔薇の女』など。

---

6. 横浜市瀬谷区で起きた三菱自動車の大型トレーラーの事故以前にも、ハブ破損によるタイヤ脱落事故が数多く起きていたことが判明した。

---

7. たとえば、高額な臓器移植を保険適用すべきかなどを考える場合に、一定の基準が必要となるからだ。これは、非常に困難な課題を伴う。一年間生命を維持することがいくらに相当するかを金額で算出しなければならないからだ。

---

8. 首相は、構造改革を引き続き推進する決意を示す一方で、「政府は日銀と一致協力して、デフレ阻止に向けて強い決意で臨む」と強調し、景気後退と物価下落が同時進行するデフレスパイラルの回避にも「細心の注意を払う」と表明。

---

9. 携帯電話から何件か電話をかけ、雑誌を何冊か拾い読みした。昼食にはチキンとサラダの軽い食事を庭で食べ、DVDで映画を見た。ディエゴが仕事に専念しているので、カサンドラはひとりで過ごすしかなかった。

---

10. 私は、海から上がって来るジュニアの姿を見ていた。彼は、黒い太陽の点のように見えた。それ程、海は眩しく、緑は鮮やかだった。彼の周囲に作為的なものは何ひとつなかった。ジュニアは、手に大きな巻き貝を持っていた。

---

11. 子供の頃、自分は永遠に1980年代を出られないと勝手に思い込んでいたように—1980年代が当たり前のように終わった時のように、幸い現役で大学に合格して、高校入学の3年後には、ちゃんと恋子自身が大学生になっていた。

---

ちょっと休みましょう！（休息一下再继续吧）

12. かれらは徳川幕藩体制下で芸術の固定化や権威化が進むなか、格式や教養を必要としない職人の世界において、反骨精神をもつ細工師の立場を確立した。かれらは小さなもの、主題を奇想においた作品を彫り、〈粹〉の意地をつらぬいたのであった。
- 

13. 「きみは正しかったらしい」しばらくして、彼は言った。喉はからからで、砂利が詰まっているようだ。

「きみは『間違いだらけの夫婦関係』の着想が素晴らしいなんて、一度も思ったことはなかった。そうだろう？」確かにあれはひとつの作品として、なんらかの大きな要素をずっと欠いていたと思う。

---

14. 長椅子の上には男と女が重なり合っている。裸で。おそらく上になっているのが男だろう。ギンバエが飛び立つと、背中の刺青が見えた。かなり腐敗が進んでいたにもかかわらず、はっきりと見えたのだ。それは一風変わった絵であった。武者絵でもなければ役者絵でもなく、架空の動物や人物でもなく、見る者を威嚇しない、静かな風景が彫りこまれているだけだった。
- 

15. 西郷では大型まき網の漁船が一隻もないのを支庁でもらってきた資料で見て知っているから念を押して訊いたが、遠くまで行く必要がないのです。隠岐堆まで行かなくてもいい魚がとれるんですから。しかし島に資本力がないために、戦後は浜田に次ぐ漁業前線基地でありながら、島としては零細漁業でずっときたために漸次生産力が低下して、本土の漁業の科学化に遅れを取ったのは事実です。
-

16. たとえ紹介状を持参していたとしても、大学病院で待たされるのは当然だ。頭が常態であれば、待ち時間に読む本を持参しないと退屈すると思いがたるところだが、慣れない早起きで曇った頭にすっかり膜がかかっていたらしい、出がけにバッグに入れた朝刊だけでは読むところがすぐなくなってしまうのは当然だった。複数の診察室が同時に稼働している。頻繁にアナウンスが響き、患者の名が告げられるが、まだ順番は来そうにない。

---

17. A「起訴できない？ まあ、桜川という人は、細かい点にうるさいからね。しかし、起訴できないとは言い過ぎだろう。住居侵入の現行犯だし、その犯意も一応立証できている。どこが悪いというのかね」

B「でも、検事さんの言うこともわかりますよ。この状態で起訴して、公判になって、何かとんでもないことを言い出した場合を想定しているのでしょうか」

A「とんでもないこと？ どんなことだ？」

B「いや、それはわかりません・・・」

---

18. 「一郎は…？」

「一郎もお父さんが、殺したんじゃないかっていうんだろう」

「どうして一郎まで、殺されなければならないの」

「お母さんを締め殺すところを、一郎に見られたからっていうストーリーだよ」

「目撃者を、消したわけね」

「当然、死体を始末しなければならぬ。それでお父さんは二人の死体を車に乗せて、山の中へ運んで埋めて来たんじゃないかって…」

「それだけの時間が、あったと見ているのね」

---

ご協力ありがとうございます。(感谢您的合作)

## 資料Ⅱ 調査2 「口頭訳読解テスト」の質問紙

### A

子どもが生まれる前は、親としての責任を考えると、期待よりも不安が大きかった。子どもを育てるためには、一般にたくさんの費用がかかるし、当然、つらいことも多い。そして、子どもがいない人を見て、公平ではないと感じるかもしれないと思っていた。しかし、子どもの存在は大きな力を与える。つらいことも多いが、それを克服することで得られる幸福もあるのだ。

### B

この道はルールが改正されて、駐車ができなくなった。しかし、一体、どういうわけか、まだ車を止める人がいる。世間の目とか、気にしないのだろうか。なぜこの道に駐車するのかというと、答えは単純で、「めんどうだし、ちょっとだけだから」だそうだ。何かあったら、裁判になって、お金を請求されることもあるかもしれないのに、私にはその神経がわからない。もっと厳重に取り締まってほしい。とはいえ、私もルールを破らないよう、用心しないといけない。

### C

正直、きょうのビジネスプレゼンは疲れた。遅れ気味のプロジェクトのことについて、ちゃんと話したつもりだが、うまく伝わらなかった。一応、いろいろな書類をそろえていたのだが、強引に話を進めてしまったかもしれない。あるいは、的確に伝えようと必死に話しすぎたのかもしれない。完全なプランだとは思っていなかったけれど、やはり落ち込んだ。次こそ、確実な仕事をしなくてはと思った。帰宅してから兄に話をきいてもらおう。

### 資料Ⅲ 調査3 「正誤判断テスト」の質問紙

正誤判断: 请阅读下列句子, 并判断在该句中, 划线部分的词语意思是否正确, 正确的画“○”, 错误的打“×”, 不知道或不确定的请勿作答。

例: 小説

○ あの人は 小説 を書くのが上手だ。

1. \_\_\_\_\_ 妻は10年以上、月一回程度だったが、<sup>ていど</sup>不倫<sup>ふりん</sup>を続けていたことを 白状 した。  
(不倫: 出轨, 婚外情)
2. \_\_\_\_\_ <sup>しゅじゅつ</sup>手術を受けてからは、スポーツが出来るようにもなり、入院の 回数 も減った。
3. \_\_\_\_\_ 午後三時に駅の改札口で 会合 し会場へ行きましょう。  
(改札口: 检票口)
4. \_\_\_\_\_ B型の人は 柔軟 な考え方ができるので、恋も上手にできるはずだ。  
(考え方: 想法/はずだ: 应该)
5. \_\_\_\_\_ あなたの学校の<sup>かんそう</sup>感想<sup>よ</sup>を寄せてください。順次私のホームページに 投稿 させていただきます。  
(順次: 按顺序, 依次/させていただく: 请允许我, 请让我)
6. \_\_\_\_\_ あの人の家は私の家の 対面 にある。本当に縁だね。
7. \_\_\_\_\_ あの文章と比べると、本文 はとても面白いです。
8. \_\_\_\_\_ いや、別に 未練 があるわけじゃないし、会いたいわけでもない。  
(わけではない: 并不是, 也不是)
9. \_\_\_\_\_ 毎年、この季節になると、彼はウニの 高値 <sup>いの</sup> <sup>しじょう</sup>を祈って市場へ送る。  
(ウニ: 海胆)
10. \_\_\_\_\_ K先生の技術は達人の 境界 <sup>たつじん</sup> に達していた。 (達人: 高手, 达人)
11. \_\_\_\_\_ ぐっすり眠ったので、気分がとても 軽快 になった。
12. \_\_\_\_\_ ここの生活条件はあまりよくないが、しばらく 克服 しましょう。  
(しばらく: 姑且, 暫且)
13. \_\_\_\_\_ 明らかな嘘<sup>うそ</sup>でもいいから、相手の 面目 <sup>あいて</sup> を立てる言い方をしてください。  
(明らか: 明显的/相手: 对方/言い方: 说话方式)

14. \_\_\_\_\_ このような状況を 打開 する方法があれば教えてください。
15. \_\_\_\_\_ 彼は議員の 位置 を利用して、たくさんの公費を私用に使った。
16. \_\_\_\_\_ 多くの人に聞いたが、この事件の 経緯 を知っているのは彼だけだ。
17. \_\_\_\_\_ この論文は当時の政治を厳しく 反撃 している。
18. \_\_\_\_\_ 彼は学生でまだ 貫禄 がないのに車を買いました。
19. \_\_\_\_\_ せっかく留学したのだから、自ら 交際 の範囲を狭めてしまうのは  
もったいないと思う。 (もったいない：可惜)
20. \_\_\_\_\_ みんなが使うトイレです。次の人が 愉快 に使えるように、みんなできれいに  
使いましょう。
21. \_\_\_\_\_ 自分が 経由 していることは最後まで責任を負うべきだ。  
(責任を負う：负责任／べきだ：应该)
22. \_\_\_\_\_ 昨夜は雪が降っていたのに、今朝起きたら快晴で、ぽかぽか 陽気 だった。  
(ぽかぽか：暖洋洋，温暖，暖和)
23. \_\_\_\_\_ どのメーカーも、自社製品の質が 優秀 だと宣伝している。  
(メーカー：厂商／自社製品：自己公司的产品)
24. \_\_\_\_\_ ほっとしたのは 短期 で、これから先のことを考えると不安ばかりだ。  
(ほっとした：放心，松了口气)
25. \_\_\_\_\_ ほとんどの大人が子どもに対しては横柄だ。もちろん 確率 の差はある。  
(横柄：专横，傲慢)
26. \_\_\_\_\_ 遺産 に関する争いは、年々増加しています。  
(に関する：关于／争い：争论，纠纷)
27. \_\_\_\_\_ 11時2分原爆が 投資 されたあとに、司令部は慌てて11時9分空襲警報を  
発令した。 (原爆：原子弾／空襲警報：空袭警报／発令する：发布)
28. \_\_\_\_\_ 英語力で彼に 匹敵 する者はいない。
29. \_\_\_\_\_ 科学技術の 発達 により生活は便利になった。
30. \_\_\_\_\_ 華道や茶道の 作法 を身につける。  
(華道：花道／茶道：茶道／身につける：掌握)
31. \_\_\_\_\_ 今回のスポーツ大会は点数が 高値 に出ている。それは田中選手に限った  
ことではない。 (スポーツ大会：运动会／に限る：仅限于)



32. \_\_\_\_\_ 短期の旅行でも海外旅行の保険は必ずかけるべきだ。  
(保険をかける：加入保険／べきだ：应该)
33. \_\_\_\_\_ 気に入らないと、彼はいつも反抗的な 態勢 をとる。  
(気に入る：如意，称心)
34. \_\_\_\_\_ 結婚相談所を使って結婚するメリットは離婚する 確率 が低いことだ。  
(メリット：好处，优点)
35. \_\_\_\_\_ 交際の手段は言葉だけではなく、表情やしぐさ、その他の行動など  
によっても成立する。  
(しぐさ：動作)
36. \_\_\_\_\_ さすが元社長だ。貫禄があり、格好良かったです。  
(元社長：前经理)
37. \_\_\_\_\_ 世界の金融取引の約7割はスイスの銀行を 経由 して行われている。  
(金融取引：金融交易／スイス：瑞士／行う：进行)
38. \_\_\_\_\_ 彼は毎日、今日はどんな運動したか、運動した日や内容を 記録 している。
39. \_\_\_\_\_ 最近、似たような内容の文章が朝日新聞にも 投稿 されていた。
40. \_\_\_\_\_ 財布などの貴重品は、鍵のかかる 倉庫 に預けましょう。
41. \_\_\_\_\_ 昨日、新宿で高校時代の同級生の 会合 があった。
42. \_\_\_\_\_ 昨日、彼は就職試験の面接があったが、未練 で失敗した。
43. \_\_\_\_\_ 市原市は千葉市との 境界 の近くにある。  
(市原市&千葉市：日本地名)
44. \_\_\_\_\_ 私のクラスには1人編入生がいる。かなり 優秀 だ。  
(編入生：插班生)
45. \_\_\_\_\_ 近年の世代別の投票率を見てみると、21歳から24歳が最も低い。  
それを改善するために、若者の政治に関する 覚悟 を高める必要がある。  
(世代：/若者：年轻人/に関する：关于)
46. \_\_\_\_\_ その男が誰だか 見当 がつかない。
47. \_\_\_\_\_ 彼女は日本茶が大好きで、1日に 回数 お茶を飲んだ。
48. \_\_\_\_\_ 実際に 対面 することになるので、今から緊張しています。
49. \_\_\_\_\_ 趣味は、残り物で 創作 料理を作ることだ。  
(残り物：剩菜，剩飯)
50. \_\_\_\_\_ 酒で楽しく人と交わり、愉快 に過ごすことは人生を豊かにするものだ。  
(人と交わる：结交朋友／人生を豊かにする：使人生更丰富)
51. \_\_\_\_\_ 初めてパリに行った時、建物が綺麗で 陽気 だなあと感じた。  
(パリ：巴黎)

52. \_\_\_\_\_ 彼はどんな仕事しているかと言うと、遺産<sup>はくつ さぎょう</sup>を発掘する作業ですね。  
(発掘する：发掘)
53. \_\_\_\_\_ 数社<sup>すうしゃ</sup>が契約<sup>けいやく</sup>を取ろうと 匹敵していた。  
(数社：多家公司)
54. \_\_\_\_\_ 倉庫には組み立て前の状態で家具が並んでいます。  
(組み立て：组装)
55. \_\_\_\_\_ 他人の荷物を勝手に 打開するのは犯罪だ。  
(勝手：擅自)
56. \_\_\_\_\_ 体が軽くなりますので非常に 軽快<sup>うご</sup>な動きになります。  
(動き：動作，行动)
57. \_\_\_\_\_ 鯛飯<sup>たいめし</sup>、いちご汁<sup>じる</sup>、蒸し寿司など、江戸料理の 作法を紹介する。
58. \_\_\_\_\_ 男性のみなさん、恋人と話す時は声が 柔軟になりますね。
59. \_\_\_\_\_ この 本文に書かれた最後の二行がとても印象的<sup>いんしょうてき</sup>でした。  
(印象的：印象深刻)
60. \_\_\_\_\_ 地震の 経緯はよくメディアでも報道されています。  
(メディア：媒体／報道：報道)
61. \_\_\_\_\_ 中学時代にも、テストの答案用紙<sup>とうあんようし</sup>をまったく 白状で出していたらしい。  
(テスト：试卷／答案用紙：答题紙)
62. \_\_\_\_\_ 投資でお金を増やすのは一つの方法だ。
63. \_\_\_\_\_ あの学校は創立50周年を 記録して、祝う会を行った。  
(創立：创办)
64. \_\_\_\_\_ 発達しても僕たちのことを忘れるなよ。
65. \_\_\_\_\_ ソニーは50年前、この課題を 克服した。  
(ソニー：日本索尼公司／課題：课题，有待解决的问题)
66. \_\_\_\_\_ 彼女はいつも黒いハイヒールを履いて、面目<sup>は</sup>がきりっとして美しい。  
(ハイヒール：高跟鞋／きりっとして：英姿飒爽)
67. \_\_\_\_\_ 私は最後まで戦<sup>さいご</sup>う 覚悟<sup>たたか</sup>を決めた。
68. \_\_\_\_\_ 不安なことを解決する方法を一緒に考えた。しかし 見当<sup>いっしょ</sup>を見いだすことは難しかった。  
(見いだす：找到，发现)
69. \_\_\_\_\_ 富士山は静岡県東部に 位置する。  
(静岡県：日本地名)
70. \_\_\_\_\_ 輸入品<sup>ゆにゆうひん</sup>を 創作してお金を儲ける。  
(輸入品：进口商品)
71. \_\_\_\_\_ 労働者たちはようやく 反撃<sup>ろうどうしか</sup>を始めた。
72. \_\_\_\_\_ 審査<sup>しんさ</sup>についてですが、受入れ機関<sup>きかん</sup>の 態勢が整っている。  
(審査：审查／受け入れ機関：接待单位)

資料Ⅳ 調査3 「読解テスト」の質問紙

阅读理解：

请阅读下列文章，并选出与划线部分的词语意思最相符的一项。

(1)

田中は投資①に失敗して、<sup>しゃっきん</sup>借金をしてしまった。そこで、祖父の遺産②の家を売ろうと思った。まだ未練③があったが、フィアンセとも別れようと思った。そして、彼女にすべてを白状④した。彼女はなんとか現状を打開⑤できないか一いっしょ緒に考えてくれた。だが、思いもかけず、祖父の家が高値⑥で売れることが分かった。

(\*フィアンセ：未婚妻 \*思いもかけず：意料之外)

\_\_\_\_\_ ① A 投資 B 投机 C 资本 D 投保

\_\_\_\_\_ ② A 资产 B 遗迹 C 产业 D 遗产

\_\_\_\_\_ ③ A 爱恋 B 未练 C 留恋 D 未来

\_\_\_\_\_ ④ A 白状 B 坦白 C 明状 D 倾诉

\_\_\_\_\_ ⑤ A 打开 B 开启 C 跨越 D 打破

\_\_\_\_\_ ⑥ A 高价 B 市价 C 高值 D 价值

(2)

先日の空手の試合で、初めて高木選手と対面①した。とても貫禄②がある選手だ。試合が始まると、僕が技をしかけてもすぐに反撃③してくる。フットワークも軽快④だ。態勢⑤が悪くなくてもあきらめない。どんな技にも柔軟⑥に対応してきた。さすが大学ナンバー1の選手だ。

(\*フットワーク：歩法 \*空手：空手道)

\_\_\_\_\_ ① A 对战 B 对面 C 对手 D 见面

\_\_\_\_\_ ② A 气场 B 贯穿 C 实力 D 贯禄

\_\_\_\_\_ ③ A 反击 B 击打 C 反超 D 应对

\_\_\_\_\_ ④ A 轻松 B 沉稳 C 轻快 D 快捷

\_\_\_\_\_ ⑤ A 态势 B 形势 C 态度 D 状态

\_\_\_\_\_ ⑥ A 绵软 B 从容 C 柔软 D 灵活

(3)

この間、母から聞いた料理法を記録①したノート料理クラブの仲間に見せたら、専門書に匹敵②すると言ってくれた。高い評価をもらって、料理クラブのリーダーとしての面目③を保つことができたと思う。実は、仲間に見せる前に夫にも見せた。夫から厳しいコメントをもらったとき、もう書くのをやめようと思った。でも、雑誌に投稿④したかったので、何度も何度も本文⑤を書き直した。こうした経緯⑥があったから、みんなが評価してくれたのはとてもうれしかった。

(\* ノート : 筆記 \* リーダー : 负责人)

- \_\_\_\_\_ ① A 录音 B 标记 C 整理 D 记录  
\_\_\_\_\_ ② A 匹配 B 媲美 C 匹敌 D 超越  
\_\_\_\_\_ ③ A 面子 B 注目 C 面目 D 风采  
\_\_\_\_\_ ④ A 刊登 B 投诉 C 稿件 D 投稿  
\_\_\_\_\_ ⑤ A 本文 B 文笔 C 正文 D 本章  
\_\_\_\_\_ ⑥ A 体验 B 经纬 C 经过 D 纬线

(4)

もえちゃん、お元気ですか。もう春らしい陽気①ですね。

先日は『子どもの心』という本を送ってくれてありがとうございます。子どもの心の発達②について分かりやすく書かれていますね。和也が生まれて1か月がたちますが、笑う回数③が増えて、とてもかわいいです。急に笑うときがあって、なにがおもしろいのか見当④がつきませんが、あかちゃんにはきっとそう見えるのでしょうか。

来週はおじいちゃんの家倉庫⑤の大掃除ですね。みんなが集まるので、きっと愉快⑥な1日になるでしょうね。そのときにお会いするのを楽しみにしています。

- \_\_\_\_\_ ① A 阳气 B 气候 C 节气 D 气息  
\_\_\_\_\_ ② A 发展 B 发达 C 活动 D 发端  
\_\_\_\_\_ ③ A 回数 B 次数 C 幅度 D 数次  
\_\_\_\_\_ ④ A 头绪 B 看见 C 见当 D 理解  
\_\_\_\_\_ ⑤ A 库存 B 车库 C 仓库 D 粮仓  
\_\_\_\_\_ ⑥ A 欢愉 B 快慰 C 充实 D 愉快

(5)

林さんは交際①の幅が広い。今日の会合②に来ているあのIT会社の人とも知り合いだ。その会社経由③で、S社の社長とも知り合えた。林さんは本当に優秀④な人だ。日本のビジネス作法⑤もよく知っている。担当したプロジェクトは高い確率⑥で成功している。まだ、入社して1年だなんて思えないくらいだ。

(\*プロジェクト：項目)

- \_\_\_\_\_ ① A 交流    B 活動    C 交际    D 际会  
\_\_\_\_\_ ② A 会场    B 聚会    C 会合    D 合作  
\_\_\_\_\_ ③ A 通过    B 经由    C 借助    D 经手  
\_\_\_\_\_ ④ A 勤奋    B 秀美    C 优越    D 优秀  
\_\_\_\_\_ ⑤ A 作法    B 礼仪    C 手法    D 规范  
\_\_\_\_\_ ⑥ A 利润    B 确率    C 频率    D 概率

(6)

私たちの町は島の南に位置①している。M町との境界②には川がある。川沿いにはたくさんのお店があり、島の中心となっている。私は創作③スイーツのお店をやっている。前からスイーツを作るのが好きだったので、おじいちゃんの家をお店にしたのだ。お店を出すのは大きな覚悟④が必要だった。いろいろな困難を克服⑤して、ようやくお店を始めた。でも、始めてよかったと思う。今は、短期⑥のアルバイトを募集しているが、なかなか見つからない。

(\*スイーツ：甜品)

- \_\_\_\_\_ ① A 位于    B 位置    C 分布    D 置于  
\_\_\_\_\_ ② A 境地    B 境界    C 边界    D 之间  
\_\_\_\_\_ ③ A 创作    B 手工    C 创意    D 创办  
\_\_\_\_\_ ④ A 领悟    B 决心    C 觉悟    D 魄力  
\_\_\_\_\_ ⑤ A 遇到    B 克制    C 制服    D 克服  
\_\_\_\_\_ ⑥ A 短期    B 合适    C 短暂    D 期间

資料V 分類の結果

語	NLT 例	訳語	新	品詞	旧	レベル
事業	革命の事業を成し遂げる。	事业	SJ0	名詞-普通名詞-一般	0 I	N1
事業	事業を興す。	企业	OJ0	名詞-普通名詞-一般	0 I	N1
対応	政府の対応が遅い。	应对	OJ0	名詞-普通名詞	0 I	N1
対応	ニーズに対応する。	应对	OJ0	サ変可能	0 I	N1
対応	単車という言葉は、側車に対応する言葉ですね。	对应	SJ0	サ変可能	0 I	N1
認識	私の認識は甘かった。	认识	SJ0	名詞-普通名詞	D	N1
認識	緑化が大切な事を再認識しました。	认识	SJ0	サ変可能	D	N1
認識	重点掃除箇所の認識ができます。	识别	OJ0	名詞-普通名詞	D	N1
認識	顔認識機能と自動車の型式、色、ナンバーなどを認識する機能がある。	识别	OJ0	サ変可能	D	N1
一切	一切の責任を負わない。	一切	SJ0	名詞-普通名詞	0 I	N1
一切	一切やらない。	一切	SJ0	副詞可能	0 I	N1
資格	名誉会員の資格を頂く。	身份	OJ0	名詞-普通名詞-一般	0 I	N1
資格	ロンドンで医師の資格を取る。	资格	SJ0	名詞-普通名詞-一般	0 I	N1
携帯	貴重品を携帯する。	携带	SJ0	サ変可能	0 I	N1
携帯	携帯電話。	手机	NJ0	名詞-普通名詞	0 I	N1
携帯	すぐ書ける携帯用毛筆です。	携带	SJ0	名詞-普通名詞	0 I	N1
記述	という記述があります。	叙述	OJ0	名詞-普通名詞	0 I	N1
記述	修正した内容を記述します。	记述	SJ0	サ変可能	0 I	N1
再生	電源を入れて、音楽を再生しましょう。	播放	NJ0	サ変可能	0 I	N1
再生	再生の道は、はるか遠い。	新生	OJ0	名詞-普通名詞	0 I	N1
再生	似た構造をもった網膜組織を再生する事が出来る。	再生	SJ0	サ変可能	0 I	N1

看護	認知症の看護を学びたい。	护理	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N1
拒否	非通知着信拒否をしたい。	拒绝	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N1
勤務	鉄道会社に勤務しています。	工作	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N1
取材	取材を受ける。	采访	OJO	名詞-普通名詞	OIII	N1
取材	いずれも実在の人物・事件に取材したものです。	取材	SJO	サ変可能	OIII	N1
一気	一気読みさせる文章。	一气	SJO	名詞-普通名詞	OIII	N1
経緯	以上が、今日の事件の経緯です。	经过	NJO	名詞-普通名詞-一般	D	N1
配置	人員配置を記載します。	配置	SJO	名詞-普通名詞	OIII	N1
配置	一つの所属に複数の作業員を配置する場合がある	配置	SJO	サ変可能	OIII	N1
配置	家具等の配置を替えます。	布置	OJO	名詞-普通名詞	OIII	N1
配置	片方の壁際に並べるように配置するのがオススメです。	布置	OJO	サ変可能	OIII	N1
理屈	理屈では説明できない話だ。	道理	OJO	名詞-普通名詞-一般	D	N1
理屈	無理に理屈をつけて言いほること。	借口	OJO	名詞-普通名詞-一般	D	N1
提示	学生証の提示が必要です。	出示	OJO	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N1
進出	中国への進出を考えている。	进入	OJO	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N1
進出	最近名古屋にも進出しました。	进入	OJO	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N1
進出	全国大会進出を決めました。	进入	OJO	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N1
進出	B級の決勝に進出していた。	进入	OJO	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N1
該当	図の赤文字が該当部分です。	符合	OJO	名詞-普通名詞	N	N1
該当	1に該当する場合、加入できない。	符合	OJO	サ変可能	N	N1
意欲	学習意欲を高める。	热情	OJO	名詞-普通名詞-一般	D	N1
若干	外は雨が若干降っていた。	多少	OJO	名詞-普通名詞-副詞可能	D	N1
関与	ゼミ生には積極的な参加と関与を求めます。	参与	NJO	名詞-普通名詞	N	N1
関与	アリソンは、ある女性が事件に関与する夢を見ます。	参与	NJO	サ変可能	N	N1

演出	私は演出を担当している。	导演	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
演出	花を使って特別な演出をしたい。	表演	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
演出	ギブソン監督は、間違いなく、そのことを理解して本作品を演出していると思われる。	导演	NJO	サ変可能	D	N1
刊行	1990年刊行の作品。	出版	OJO	名詞-普通名詞	N	N1
刊行	このサイトの内容をまとめた本が桐原書店から刊行されます。	出版	OJO	サ変可能	N	N1
敗戦	日本は2年後、敗戦を迎える。	战败	NJO	名詞-普通名詞	N	N1
敗戦	ドイツは敗戦したが、占領軍の教育制度改変を拒否した。	战败	NJO	サ変可能	N	N1
調理	調理器具は3種類あります。	烹饪	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
対面	そして、春奈と対面しました。	见面	OJO	サ変可能	D	N1
対面	久しぶりのご対面。	见面	OJO	名詞-普通名詞	D	N1
誘導	現に、マスメディアが世論を誘導することもよくある。	引导	OJO	サ変可能	D	N1
誘導	目の不自由な人の誘導方法。	引导	OJO	名詞-普通名詞	D	N1
誘導	避難者を指定の避難場所などへ誘導する。	疏导	NJO	サ変可能	D	N1
誘導	避難誘導に関すること。	疏导	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
先行	台詞よりも、まず、動きを先行させる。	先行	SJO	サ変可能	O I	N1
先行	先行研究	之前	NJO	名詞-普通名詞	O I	N1
先行	先行する各種研究目録がある場合も同様とする。	之前	NJO	サ変可能	O I	N1
本文	詳細は本文に書きました。	正文	OJO	名詞-普通名詞-一般	D	N1
出世	担任は、その後、出世して校長になった。	晋升	NJO	サ変可能	D	N1
出世	目的は出世のためだそうです。	晋升	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
厳密	厳密に言えば。	严格	OJO	形状詞-一般	D	N1
厳密	厳密な調査によって真実を究明します。	严密	SJO	形状詞-一般	D	N1
披露	自慢のメニューをテレビ番組で披露する事もある。	展示	OJO	サ変可能	D	N1



披露	そしてしばらくの後、友人の結婚披露パーティーでのスピーチ。	宣布	OJ0	名詞-普通名詞	D	N1
返済	月々の返済が始まる。	还款	NJ0	名詞-普通名詞	N	N1
返済	2466億円を返済するためには60年以上かかる。	还款	NJ0	サ変可能	N	N1
一同	スタッフ一同頑張ってます。	全体	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N1
控除	医療費控除の対象となるのか。	扣除	NJ0	名詞-普通名詞	N	N1
控除	次の計算式によって、得られた金額を控除する。	扣除	NJ0	サ変可能	N	N1
細工	ガラスや照明器具の細工を美しく見せるクリア電球。	工艺	OJ0	名詞-普通名詞	N	N1
細工	掃除機からとてもいい香りが出るように細工することができます。	加工	OJ0	サ変可能	N	N1
上位	「えび (35.8%)」「ロースハム (33.0%)」が上位にランクイン。	前列	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N1
爆弾	敵の上に爆弾を置く。	炸弹	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N1
柔軟	柔軟な対応が必要になる。	灵活	NJ0	形状詞-一般	O I	N1
柔軟	体の硬い人でも、粘り強くやれば必ず柔軟な体になります。	柔软	SJ0	形状詞-一般	O I	N1
拘束	でも、警察は身柄を拘束することができます。	拘留	OJ0	サ変可能	D	N1
拘束	法的拘束力が必要ですかね。	约束	OJ0	名詞-普通名詞-	D	N1
拘束	また、淋しがり屋で日曜まで助手の自由を拘束したのも有名な話だ。	限制	OJ0	サ変可能	D	N1
信者	信者が集ってお参りをしている。	信徒	OJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N1
配分	最後に、時間配分の失敗。	分配	OJ0	名詞-普通名詞	N	N1
配分	一般的には、地理的に平等に配分されています。	分配	OJ0	サ変可能	N	N1
漠然	こういった漠然とした説明ではこちらもよくわかりません。	模糊	OJ0	形状詞-タリ	D	N1
漠然	将来の希望や漠然とした不安などの相談を受けます。	隐隐	OJ0	形状詞-タリ	D	N1
騒動	しかし、宿のほうでは何か騒動があったらしい。	骚动	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N1
騒動	すれ違いの悲恋物語にお家騒動が絡む、人気の高い演目です。	纠纷	NJ0	名詞-普通名詞	O I	N1
圧迫	血管の圧迫を解除する。	压迫	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N1
圧迫	坐骨神経痛、腰や骨盤まわりの神経を圧迫した神経痛。	压迫	SJ0	サ変可能	O I	N1

圧迫	南宋は元の圧迫を受けていた。	压迫	SJO	名詞-普通名詞	O I	N1
圧迫	戦前の日本では、国防費が財政を圧迫していた。	抑制	NJO	サ変可能	O I	N1
明白	世界の温暖化は、もはや、明白な事実である	明显	NJO	形状詞-一般	D	N1
養成	中核として活躍できる人材を養成する。	培养	OJO	サ変可能	D	N1
養成	養成講座。	培训	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
中継	その国は貿易の中継地点として、栄えることが出来ます。	中转	NJO	名詞-普通名詞	N	N1
中継	女優さんが山に登り、「日の出」の様子を中継してくれていました。	转播	NJO	サ変可能	N	N1
中継	試合中継を楽しもう!	转播	NJO	名詞-普通名詞	N	N1
助言	早い時期に専門医の助言を得る。	建议	OJO	名詞-普通名詞	N	N1
助言	保護者の気持ちが十分子どもに伝わるようにすることについて助言します。	建议	OJO	サ変可能	N	N1
後退	一步前進、半歩後退の連続でした。	后退	SJO	名詞-普通名詞	O I	N1
後退	生え際が後退しはじめて7年。	后退	SJO	サ変可能	O I	N1
後退	しかるに今の時代は景気後退の世の中。	衰退	OJO	名詞-普通名詞	O I	N1
後退	当時のアメリカは景気が後退していた時期。	衰退	OJO	サ変可能	O I	N1
一括	採点はセンターで一括して行います。	一并	NJO	サ変可能	N	N1
打撃	精神的にも打撃を受けました。	打击	SJO	名詞-普通名詞	O I	N1
打撃	右の例は、野球の打撃成績を計算した例である。	击球	NJO	名詞-普通名詞	O I	N1
態勢	われわれは闘う態勢を整えた。	架势	NJO	名詞-普通名詞-一般	D	N1
放出	大量のエネルギーを放出する。	释放	OJO	サ変可能	D	N1
放出	二酸化炭素の放出が地球を汚染すると言う。	排放	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
疑惑	疑惑を抱いたからだ。	怀疑	NJO	名詞-普通名詞-一般	D	N1
中毒	死因は急性アルコール中毒。	中毒	SJO	名詞-普通名詞	S	N1
中毒	ただし薬をニラと間違えて食べて中毒するという事故がときおりある。	中毒	SJO	サ変可能	S	N1
中毒	A型行動は「仕事中毒」が多いのです。	上瘾	NJO	名詞-普通名詞	S	N1

提携	「教育新聞」との提携を推進する。	合作	OJO	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N1
慣習	古くからの慣習にのっとり儀式を行います。	习俗	OJO	名詞-普通名詞-一般	N	N1
壮大	壮大な夢とロマンを感じます。	宏大	OJO	形状詞-一般	D	N1
出品	毎年、横浜の展覧会に出品しています。	展出	NJO	サ変可能	D	N1
出品	楽器フェアへの出品。	展出	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
円滑	円滑な人間関係を築ける。	和谐	OJO	形状詞-一般	D	N1
円滑	事後評価の円滑な実施のため、「方法書」を作成します。	顺利	OJO	形状詞-一般	D	N1
無難	無難なのは行ったことがある温泉。	保険	OJO	形状詞-一般	N	N1
進路	今進路の事で悩んでいます。	方向	OJO	名詞-普通名詞-一般	N	N1
了承	以下の文面をお読みになり、内容を了承された方は、次の画面にお進みください。	同意	OJO	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N1
未練	いや、別に未練とかじゃないし、会いたいわけでもないのだけど。	留恋	NJO	名詞-普通名詞-形状詞可能	N	N1
分業	医薬分業が徹底しています。	分工	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N1
分業	つまり、性別分業が成立した。	分工	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N1
選考	校内選考の基準はなにか？	选拔	NJO	名詞-普通名詞	N	N1
選考	教授から学部長候補者を選考する。	选出	OJO	サ変可能	N	N1
切実	必要性を切実に感じるようになります。	切实	SJO	形状詞-一般	D	N1
切実	人間としてまともに育ってくれというのが切実な要求だ。	迫切	NJO	形状詞-一般	D	N1
面目	また、平成5年にはカラー舗装を実施し、面目を一新した。	面目	SJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N1
面目	面目を保つ。	面子	OJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N1
討議	多様な視点から、この問題を討議するためです。	讨论	OJO	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N1
畜生	畜生の道という。	畜生	SJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N1
不調	その結果不調に終わり、全く無駄に時間と労費をかけてしまいました。	失敗	OJO	名詞-普通名詞-形状詞可能	O I	N1
伝来	中国から伝来した曲。	传入	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N1

打開	そして、難局を打開するアイデアを考える。	打破	SJO	サ変可能	OIII	N1
打開	業界の常識を疑わなければ、現状打開は難しい。	打破	OJO	名詞-普通名詞	OIII	N1
打開	それではその現状をどのように打開するか。	打破	OJO	サ変可能	OIII	N1
打開	打開策はありますか。	解決	OJO	名詞-普通名詞	OIII	N1
雑談	雑談の内容	闲聊	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
雑談	昨日の深夜、横西さんの Fan と雑談していた。	闲聊	NJO	サ変可能	D	N1
結束	我々は彼らと結束しています。	团结	OJO	サ変可能	D	N1
結束	今、震災前よりも強い結束を感じます。	团结	OJO	名詞-普通名詞	D	N1
結束	鉄筋 3 本の結束は避けた方が良い。	捆绑	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
前途	頭も良くて前途有望な青年。	前途	SJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N1
前途	これらの切符は、下車した時点で前途無効になるからです。	前方	OJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N1
布告	明治 7 年に太政官布告で服忌令が出されました。	布告	SJO	名詞-普通名詞	O I	N1
布告	8 月 8 日、ソ連が対日宣戦を布告した。	宣布	OJO	サ変可能	O I	N1
女史	斎藤女史の批評はいろんな意味で強い。	女士	NJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N1
鉄鋼	鉄鋼メーカーの競争力は会社全体の生産量だけでは決まらない。	钢铁	NJO	名詞-普通名詞-一般	N	N1
代弁	私だけは神様の声が明瞭に聞こえる。私は神の代弁者だ。	代言	OJO	名詞-普通名詞	N	N1
衣料	いま、婦人衣料の販売を担当しています。	衣服	OJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N1
体裁	HTML を使って文書の体裁を整えた電子メール。	形式	OJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N1
体裁	単純に良いと思ったらやる。人の目、体裁を気にしない。	外表	OJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N1
陰気	女の顔は良くわからないが、なんとはなく陰気な感じもする。	阴暗	OJO	形状詞-一般	O I	N1
陰気	この街は少し陰気な雰囲気がある。	阴暗	OJO	形状詞-一般	O I	N1
白状	今、内緒にしていることを一つ白状してください。	坦白	NJO	サ変可能	N	N1
養護	特別養護老人ホーム。	护理	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
安静	まず、安静にする。腰に負担をかけないように、足をくの字に曲げ横向きに寝る。	静养	OJO	形状詞可能	O I	N1

適宜	暗証番号は適宜変更してください。	酌情	NJO	副詞	O I	N1
軽快	軽快なフットワークで、動作が俊敏になる	轻快	SJO	形状詞	O I	N1
軽快	診断には頭部 CT 検査が必要です。簡単な手術で軽快します。	缓解	OJO	サ変	O I	N1
軽快	軽快な雰囲気。	愉快	OJO	形状詞	O I	N1
抽選	抽選で当たる豪華賞品！	抽签	NJO	名詞-普通名詞	D	N1
外貨	外貨預金との違いは？	外币	NJO	名詞-普通名詞-一般	N	N1
熱湯	熱湯を注ぎ三分待つ。	热水	NJO	名詞-普通名詞-一般	D	N1
保養	日本を代表する温泉保養地、草津温泉。	疗养	OJO	名詞-普通名詞	O I	N1
保養	毎年、この時期になると綺麗に咲き誇る桜。目の保養になります。	养眼	NJO	名詞-普通名詞	O I	N1
参上	いろいろとご説明に参上いたします。	拜访	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N1
欠乏	ビタミンB12の欠乏があると思います。	缺乏	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N1
儉約	旅行中の儉約の最大は宿泊費だと思います。	节省	NJO	名詞-普通名詞	N	N1
貫禄	若いのにとても貫禄があります！	威严	NJO	名詞-普通名詞-一般	N	N1
待望	早く復活してくれることを、私も待望しています。	盼望	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N1
入賞	11年は25人中8位に入賞した。	获得	OJO	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N1
老衰	72歳で老衰で亡くなる。	衰老	OJO	名詞-普通名詞	N	N1
明朗	先生のところは料金が明朗で安い。	透明	OJO	形状詞-一般	OIII	N1
明朗	非常に明朗な方です。	开朗	NJO	形状詞-一般	OIII	N1
投資	内容を十分に理解せず投資を行うことが無いようにしましょう。	投资	SJO	名詞-普通名詞-サ変可能	S	N1
未練	復縁は決して未練とかで片付けられるそんな簡単なものではありません。	留恋	NJO	名詞-普通名詞-形状詞可能	N	N1
反撃	アメリカは反撃を開始した。	反击	SJO	名詞-普通名詞-サ変可能	S	N1
匹敵	日本のどの大学の図書館がこれに匹敵するだろうか。	媲美	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	S	N1
喫茶	その茶屋で食事をしたり喫茶をしたりして開演までの時間を過ごした。	喝茶	SJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N2N3

人間	お互い不十分な人間。だから助け合って生きる。	人品	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
一方	財産分与…夫婦のうち一方が住み続ける場合。	一方	SJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
一方	脚が不自由な一方、強い魔法の翼を持つ	同時	OJ0	接続詞	OIII	N2N3
一方	経営は苦しくなる一方です。	持续	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
評価	常に自分評価が低い	评价	SJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
評価	美を感じる内容を客観的に評価する必要があります。	评价	SJ0	サ変可能	OIII	N2N3
評価	土地の評価額を下げる。	价格	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
評価	会社や上司の命令に忠実に従っていることが評価される。	认可	OJ0	サ変可能	OIII	N2N3
事件	歴史的事件	事件	SJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N2N3
事件	強盗事件	案件	OJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N2N3
地方	地方には職がない。	地方	SJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N2N3
地方	解凍スプレーの出番の季節です。寒い地方の必需品です。	地区	OJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N2N3
表現	口語表現を学ぶ。	表达	NJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
表現	作者の意図がよく表現されている。	表达	NJ0	サ変可能	OIII	N2N3
表現	私には彼は表現主義の作家と思えます。	表现	SJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
一体	色と私は一体となった。	一体	SJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N2N3
一体	もう一体の人形は、誰の顔だったのか。	一個	NJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N2N3
一体	果たして。もともと。一体何の話し？	到底	OJ0	副詞可能	O I	N2N3
土地	土地の所有者は誰か。	土地	SJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N2N3
土地	語音も土地の人とは同じ。	当地	OJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N2N3
結局	結局は負けです。	结果	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
結局	結局、買ってしまった。	最终	OJ0	副詞可能	D	N2N3
完全	完全に違っている。	完全	SJ0	形状詞-一般	O I	N2N3
完全	完全な人間。	完美	NJ0	形状詞-一般	O I	N2N3

様子	様子を見に行きます。	情况	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
様子	何か様子がおかしい。	様子	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
位置	手の位置に頭を移動。	位置	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
位置	八王子の中心部に位置する。	位于	NJ0	サ変可能	O I	N2N3
位置	私の人生のなかで、音楽は重要な位置を占める。	地位	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
作業	調光室、照明の作業をするところ。	作业	SJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
作業	手袋をして注意のうえ作業します。	作业	SJ0	サ変可能	D	N2N3
作業	さらに、翻訳や音声作成作業を、貴社でご担当されることもできます。	工作	NJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
作業	就職活動している時はじっと座って作業するのは向かないと思っていたんです。	工作	NJ0	サ変可能	D	N2N3
構成	とにかく構成がまずい。	结构	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
構成	人間の体を構成する最小単位は細胞です	构成	SJ0	サ変可能	O I	N2N3
事情	交通事情は大きく変わった。	情况	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
事情	2人目はあきらめました。いろんな事情で。	理由	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
最高	最高の日でした。	最好	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
最高	最高気温 20 度。	最高	SJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
最高	最高に美味しい。	最高	SJ0	形状詞可能	D	N2N3
展開	今後の展開を期待したい。	发展	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
展開	多様な教育活動を展開する。	开展	OJ0	サ変可能	OIII	N2N3
展開	全国展開はその後の議論か。	开展	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
展開	物語をわかりやすく展開する。	发展	OJ0	サ変可能	OIII	N2N3
以降	感情線から伸びる太陽線、中年以降の幸運を示します。	以后	OJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	N	N2N3
関心	無関心ではない。	关心	SJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N2N3
関心	文学に関心を持つ。	兴趣	OJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N2N3
検討	開発方針の検討を行う。	探讨	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3

検討	様々な視点から同じ問題を検討してみることだ。	探讨	OJ0	サ変可能	D	N2N3
計算	単純計算をして、エースというのは一人しかいませんから。	计算	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
計算	Aプランの金額を計算します。	计算	SJ0	サ変可能	O I	N2N3
計算	家のローンなども計算に入れる必要があるでしょう。	计划	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
前後	一時間前後の予定。	前后	SJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	O I	N2N3
前後	前後の文脈などで判断する。	前后	SJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	O I	N2N3
前後	治療の関係上、予約の順番が前後する事もあります。	颠倒	OJ0	サ変可能	O I	N2N3
前後	前後して新聞記事としても取り上げられました。	先后	OJ0	サ変可能	O I	N2N3
販売	N Y州は銃の所持や販売も禁止されています。	贩卖	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
販売	有効期間を過ぎた医療用具を販売した場合には、薬事法第65条違反となる場合があります。	贩卖	SJ0	サ変可能	O I	N2N3
販売	通信販売。	销售	NJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
販売	お店で商品を販売する仕事。	销售	NJ0	サ変可能	O I	N2N3
記事	記事を引用します。	新闻	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
監督	管理監督者とは誰なのか。	监督	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
監督	副校長は、校長の命を受け所属職員を監督する。	监督	SJ0	サ変可能	O I	N2N3
監督	この監督の作品、才能あると思います。	导演	NJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
監督	映画を監督すると1本で1年~2年かかってしまうじゃないですか。	导演	NJ0	サ変可能	O I	N2N3
姿勢	猫背など姿勢が悪い。	姿势	SJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N2N3
姿勢	勉強に対する姿勢が悪い。	态度	OJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N2N3
裁判	裁判では白黒をつける。	审判	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
裁判	○月×日に裁判するので暇があったら来てください。	审判	OJ0	サ変可能	D	N2N3
世間	これが世間の常識だ。	社会	OJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N2N3
世間	世間が狭い、世間が広い。	交际	OJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N2N3



単純	計画は単純なものです。	简单	OJ0	形状詞	O I	N2N3
単純	単純に好き。	单纯	SJ0	形状詞	O I	N2N3
単位	単語単位で覚えたい。	单位	SJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N2N3
単位	2年次生以上38単位以上取得している者。	学分	NJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N2N3
確実	努力や練習は嘘をつきません。確実に成長しています。	的确	SJ0	形状詞-一般	OIII	N2N3
確実	再度生える事が無い確実な方法。	可靠	NJ0	形状詞-一般	OIII	N2N3
依頼	王様と話し、依頼を受ける。	委托	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
依頼	信頼できる人に依頼しましょう。	委托	OJ0	サ変可能	O I	N2N3
依頼	少し依頼心が強い傾向があるようです。	依赖	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
制限	時間制限があります。	限制	OJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
制限	たしかに中華民国は緊急事態を表明し、厳しく市民の自由を制限した。	限制	OJ0	サ変可能	N	N2N3
言語	赤ちゃんは言語の天才です。	语言	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
面倒	行くのが面倒で。	麻烦	NJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	N	N2N3
面倒	子どもの面倒も私1人で余裕で見られます。	照顾	OJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	N	N2N3
神経	神経細胞が死滅した後です。	神经	SJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
神経	とにかく、繊細な神経の持ち主だったことが分かる。	感觉	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
一応	下まで行き一応の雰囲気を確認。	大致	NJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	D	N2N3
一層	三層になっており、一層は食料品、衣料品の置き場所。	一层	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
一層	一層の努力を期待する。	更加	NJ0	副詞	O I	N2N3
請求	交通事故の慰謝料を請求された。	要求	OJ0	サ変可能	D	N2N3
請求	校正の請求を行います。	要求	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
請求	原告の請求を棄却する。	起诉	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
営業	10月1日より営業を開始した。	营业	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3

営業	通常営業しています。	营业	SJ0	サ変可能	O I	N2N3
営業	20代の社会人2年目です。営業をやっています。	销售	NJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
営業	東京で営業するタクシーは約5万台にもものぼる。	运营	OJ0	サ変可能	O I	N2N3
差別	障害を理由に会社は差別しないようにします。	歧视	NJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N2N3
舞台	幕が開き、舞台に立つ。	舞台	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
舞台	舞台を見終わった後の感想。	表演	NJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
再生	死は再生の始まりです。	再生	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
正直	正直に話しました。	老实	NJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	D	N2N3
発達	医学は著しい発達をとげた。	发展	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
発達	技術が発達していない国々に有効です。	发达	SJ0	サ変可能	OIII	N2N3
発達	精神の発達を促進させます。	发育	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
発達	台北は交通機関が発達している。	发展	OJ0	サ変可能	OIII	N2N3
低下	体温の低下を防ぐ。	下降	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
低下	死亡率も2.6%低下したとあります。	下降	OJ0	サ変可能	D	N2N3
平和	世界平和を祈ります。	和平	OJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	D	N2N3
平和	私が我慢すれば平和な家庭が築けるのでしょうか。	和睦	OJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	D	N2N3
懸命	誰もが懸命に働いていた時代です。	拼命	NJ0	形状詞-一般	N	N2N3
意思	自分の意思を通す！	想法	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
迷惑	他人に迷惑をかける。	麻烦	NJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	D	N2N3
迷惑	わたしも迷惑しています。	为难	NJ0	サ変可能	D	N2N3
活躍	国内外で広く活躍をしている。	活跃	SJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
活躍	憧れのニューヨークで活躍したい！	活跃	SJ0	サ変可能	OIII	N2N3

活躍	今後の活躍が期待される。	发展	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
調子	喉の調子が悪い。	状态	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
調子	調子に乗らず、誠実に頑張ります。	行头	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
覚悟	瞬間、死を覚悟しました。	决心	OJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N2N3
気味	気味の悪い話である。	心情	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
気味	彼氏が最近うつ気味で心配しています。	有点	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
適切	病気の人には適切な治療が必要です。	确切	OJ0	形状詞-一般	N	N2N3
真剣	真剣に考えましょう。	认真	NJ0	形状詞可能	N	N2N3
発想	その発想が面白い。	想法	NJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
書類	申請書類が多いのだ。	文件	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
書類	そんな方達の中には、やむをえず、書類上の離婚をするご家族がいます。	形式	OJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
商売	しかし、広告コピーは本屋さんのように1対1で商売しているわけじゃない。	买卖	NJ0	サ変可能	N	N2N3
商売	退職して、商売をはじめます。	买卖	NJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
必死	これから必死に頑張ってみようと思います！	拼命	NJ0	形状詞-一般	D	N2N3
対処	何らかの対処を希望します。	处理	NJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
対処	どのように対処したらいいですか。	处理	NJ0	サ変可能	N	N2N3
模様	服は白地に黒の水玉模様。	花纹	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
模様	その模様を紹介します。	样子	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
無事	無事に到着。	平安	OJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	D	N2N3
駐車	違法駐車が多くて迷惑している	停车	OJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N2N3
評判	朝食の評判が良いです。	评价	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
天井	以前僕が紹介したトンネルの天井に突き刺さる。	顶部	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
改正	憲法改正。	修正	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
改正	この会則の一部を改正する。	修订	OJ0	サ変可能	D	N2N3

出産	いよいよ出産の時。	生产	OJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N2N3
死体	死体を解剖する。	尸体	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
衝撃	ヒザを使って衝撃を吸収する。	冲击	SJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N2N3
衝撃	父の死は彼に大きな衝撃を与えた。	打击	NJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N2N3
映像	映像をご覧ください。	影像	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
機嫌	機嫌が良くなってきた。	心情	OJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
冗談	冗談ではない。	玩笑	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
無料	女性は無料で参加。	免费	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
面接	面接を受けたのです。	面试	NJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
面接	別にスーツで面接する必要もありません。	面试	NJ0	サ変可能	N	N2N3
感心	そんな実験もあるのだなあと感心しました。	感叹	OJ0	サ変可能	N	N2N3
感心	ご両親に仕送りとは感心なことですね。	钦佩	OJ0	形状詞可能	N	N2N3
需要	住民の需要や要求に応えながら進めていかなければならない。	需要	SJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
需要	中古車市場の需要が高まるからです。	需求	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
行事	6月の行事の紹介をします。	活动	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
境界	途中、名古屋市との境界をわたる。	边界	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
境界	赤い点が男女の境界を示す札。	界线	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
帰宅	私は学校から家へ帰宅途中でした。	回家	NJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N2N3
帰宅	21時過ぎに帰宅しようとしたら突然の大雨。	回家	NJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N2N3
出張	出張の多い社長さん。	出差	NJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
出張	夫はきょうから熊本に出張しました。	出差	NJ0	サ変可能	N	N2N3
宿泊	安い宿泊施設もあります。	住宿	NJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
売買	臓器売買の問題点。	买卖	NJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
売買	他人の物を売買すること。	买卖	NJ0	サ変可能	N	N2N3

発売	しかし、1人で遊ぶゲームに革命を起こしたのが「ポケットモンスター」でした。96年発売のゲームですね。	发售	NJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
発売	iPadが本日、国内で発売された。	发售	NJ0	サ変可能	N	N2N3
確率	新しいことに力を尽くしたほうが、成功の確率が高まる。	概率	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
景気	いわゆる、バブル景気の時代です。	繁荣	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
皮肉	皮肉を言われたら言い返す。	讽刺	OJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	D	N2N3
回数	トイレの回数が減る。	次数	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
承認	顧問は常任幹事会が推薦し、大会に報告し、承認を求める。	批准	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
承認	9月27日「日本で最も美しい村」連合への加盟が正式に承認されました！	批准	OJ0	サ変可能	O I	N2N3
承認	自由の相互承認です。	承认	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
承認	私は残念ながら父が愚であつたことを承認しなくてはならない。	承认	SJ0	サ変可能	O I	N2N3
見学	週末は見学に行こう！	参观	OJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
見学	午前中、高速道路の工事現場を見学した。	参观	OJ0	サ変可能	N	N2N3
支給	留年中奨学金は支給停止となります。	支付	NJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
支給	労働者が業務上で死亡した場合に支給されます。	支付	NJ0	サ変可能	N	N2N3
完了	読み込み完了の音が鳴る。	完了	SJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
完了	解約手続きが完了します。	完了	SJ0	サ変可能	D	N2N3
完了	完了までにどのくらいかかるの？	完成	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
完了	もうすぐで工事が完了します。	完成	OJ0	サ変可能	D	N2N3
先行	先行車に遅れない様について行く。	前面	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
改造	肉体改造	改造	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
改造	車を改造して、アルコール用にしている。	改装	OJ0	サ変可能	O I	N2N3
改造	「野田政府が内閣改造をした。」	改组	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
乱暴	親の前ではいい子で、いないところで友達に乱暴したりしていることです。	粗暴	OJ0	サ変	N	N2N3

乱暴	非常に乱暴な言い方ですが、これは事実です。	粗暴	OJ0	形状詞可能	N	N2N3
乱暴	かなり乱暴だが、理論上はこうなる。	粗魯	OJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
交際	交際を始めて4年。会えるのは月に1~2回程度。	交往	NJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
交際	会社の上司と交際しています。	交往	NJ0	サ変可能	O I	N2N3
交際	交際範囲も広い。	交际	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
交際	3つ目は、人と交際する事です。	交际	SJ0	サ変可能	O I	N2N3
水平	肩と水平を保つ程度の枕を使用します。	水平	SJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	OIII	N2N3
水平	債務残高の対GDP比率を見てみると、他国は20年前から水平を保っているのに、日本だけが急上昇しています。	平衡	OJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	OIII	N2N3
掲示	詳細は店舗の掲示物を御覧下さい。	通知	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
掲示	廊下には外来患者さんに必要な情報を掲示しています。	公布	OJ0	サ変可能	D	N2N3
見当	しかし、何に焦っているのか？全然見当がつかえません。	头绪	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
見当	地図で大体の見当をつけ車を走らせる。	方向	OJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
寄付	寄付の金額は30万円であった。	捐贈	NJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
寄付	収益の一部は、ハワイの自然保護団体に寄付される。	捐贈	NJ0	サ変可能	N	N2N3
分解	蛋白質の分解を促進する。	分解	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
分解	普洱茶(プーアール茶)、脂肪を分解する効果抜群！	分解	SJ0	サ変可能	O I	N2N3
分解	この時計は分解が可能です。	拆开	NJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
分解	盗難車は部品に分解され海外へ運ばれているとみられています。	拆分	NJ0	サ変可能	O I	N2N3
強引	話を強引に戻しましたよ。	强行	NJ0	形状詞-一般	N	N2N3
経由	帰りは、成田線経由で千葉へ。	经由	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
経由	上海を経由して、武漢の空港に着く。	经由	SJ0	サ変可能	O I	N2N3
経由	インターネット経由では受付けていません。	通过	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
経由	人材紹介会社を経由した転職は、かなり厳しいと思われます。	经由	SJ0	サ変可能	O I	N2N3

上級	上級の文法・語彙を学習します。	高級	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
創作	在学中から創作活動に力を注ぐ。	创作	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
創作	自由に作品を創作し、自由に発表する。	创作	SJ0	サ変可能	O I	N2N3
創作	人気のある創作料理店。	创意	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
的確	要点を的確に把握することが重要です。	准确	NJ0	形状詞-一般	D	N2N3
用心	説教やカウンセリングをしないよう用心してください。	注意	OJ0	サ変可能	D	N2N3
用心	野外料理でも、食中毒に用心を。	小心	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
貯金	貯金をしたいです。でもなかなかできません。	分配	NJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
貯金	子供のため貯金している。	存钱	NJ0	サ変可能	N	N2N3
貯金	郵便貯金の金利が上がりました。	储蓄	OJ0	名詞-普通名詞	N	N2N3
横断	図は脊髓の横断面です。	横断	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
横断	道路を横断するために押しボタンを押す。	横穿	NJ0	サ変可能	O I	N2N3
横断	それは各部横断的なミーティングですね。	横向	NJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
地味	茶色や紺色や黒と言う具合に地味な色を好む。	朴素	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
地味	調査は地味な仕事です。	朴素	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
会合	第3回銀7サロンの会合を行ないました。	会议	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
会合	先日、ある会合を開きました。	聚会	NJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
大家	能楽大家の揺るぎのない見解です。	大家	SJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
大家	それに対する大家の回答は、9万円減額するということでした。	房东	NJ0	名詞-普通名詞	OIII	N2N3
批評	批評家というのは、妙な商売だ。	评论	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
批評	残りの生徒の皆で作品を批評しあう。	评论	OJ0	サ変可能	D	N2N3
作法	挨拶の仕方ひとつにも作法があります。	礼法	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
長所	自分の長所を一言で言えない。	长处	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N2N3
点数	点数をつけるなら30点。	分数	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3

点数	出版点数が4倍なのだから。	件数	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N2N3
合同	第2回合同会議を開催しました。	聯合	OJ0	名詞-普通名詞	D	N2N3
陽気	こんにちは、GWも明けて初夏の陽気ですね。	气候	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
陽気	背が高く、陽気な男。	开朗	NJ0	形状詞-一般	O I	N2N3
陽気	寒証は寒邪の侵襲、あるいは体内の陽気が衰退した状態を指します。	阳气	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
陽気	みんなすっかり酔って陽気に歌を歌う。	热闹	OJ0	形状詞-一般	O I	N2N3
不可	持ち込みは不可となります。	不可	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N2N3
有能	彼は有能な指揮官だ。	能干	NJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	N	N2N3
厳重	厳重に薬を管理してください。	严格	OJ0	形状詞-一般	D	N2N3
責任	だれの責任かわからない。	责任	SJ0	名詞-普通名詞-一般	S	N2N3
期待	とても期待をしています。	期待	SJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	S	N2N3
不安	日本語上手く通じず只々「大丈夫」をくり返すのみ。少々不安になった。	不安	SJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	S	N2N3
一般	会社には勤務時間というものがある。一般的には8時間。	一般	SJ0	名詞-普通名詞-一般	S	N2N3
費用	お医者さんから頭髪の移植手術を勧められました。費用は40万。	费用	SJ0	名詞-普通名詞-一般	S	N2N3
当然	時刻もまだ10時前。当然ながら誰もいません。	当然	SJ0	副詞	S	N2N3
公平	贅沢品を手にした人は、高額消費税を払えばよい。非常に公平である。	公平	SJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	S	N2N3
存在	どうして忘れていたんだろう。しおりさんの存在。	存在	SJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	S	N2N3
克服	このような弱点は、ボランティア等を経験することで克服できます。	客服	SJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	S	N2N3
幸福	本を読む林さんの横顔をどきどき眺め、本を読んだ。とても幸福な時間だった。	幸福	SJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	S	N2N3
記録	温度の記録をします。	记录	SJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	S	N2N3
倉庫	玄米にして倉庫に保管します。	仓库	SJ0	名詞-普通名詞	S	N2N3
愉快	みなさまの楽しいレスで愉快的な気分になり、とても和みます。	愉快	SJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	S	N2N3



優秀	兄は優秀だった。比べられて腹が立つこともあったが。	优秀	SJ0	形状詞-一般	S	N2N3
以上	以上の2点です。	以上	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N4
以上	議論はのべ5時間以上にわたりました。	以上	SJ0	副詞可能	O I	N4
以上	株式投資をする以上情報が命。	既然	NJ0	副詞可能	O I	N4
無理	ワンルーム単身者向けです。家族で住むのは、無理な話。	很难	NJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	D	N4
無理	無理に涙を抑えないで。	勉强	OJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	D	N4
主人	主人の両親と同居中。	丈夫	OJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N4
主人	いいお店は、店の主人がいい。	主人	SJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N4
注意	注意が必要です。	注意	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N4
注意	何かあったらどう責任取るの？と注意されました。	忠告	OJ0	サ変可能	O I	N4
注意	この点には注意しておきたい。	注意	SJ0	サ変可能	O I	N4
意見	意見をください。	意見	SJ0	名詞-普通名詞	OIII	N4
意見	参考資料を図書館、本屋で探し、読みます。意見をまとめます。	观点	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	N4
意見	しかし他方では、そろそろ結婚して家庭に入るべきだという意見もある。	劝告	NJ0	サ変可能	OIII	N4
予定	予定の時間が参りました。	预定	NJ0	名詞-普通名詞	D	N4
予定	12月頃の開催を予定しております。	预计	NJ0	サ変可能	D	N4
予定	本日の予定が水の泡。	安排	NJ0	名詞-普通名詞	D	N4
食事	家族と食事する。	吃饭	NJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N4
大事	顔は大事だ。	重要	OJ0	形状詞-一般	D	N4
大事	悩みを大事にする。	爱惜	OJ0	形状詞-一般	D	N4
高校	高校の音楽のK先生。	高中	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N4
運転	運転を開始する。	运转	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N4
運転	運転を交替する。	开车	NJ0	名詞-普通名詞	O I	N4

運転	また現在、福島第一の三号機はプルサーマルで運転しています。	运转	SJ0	サ変可能	O I	N4
途中	途中で右に折れる。	途中	SJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	O I	N4
途中	途中で諦めません。	中途	OJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	O I	N4
都合	今、この状況で辞めるのって一番相手にとって都合のいい時期なのだと思う。	方便	OJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N4
用意	車いすのご用意がごございます。	准备	OJ0	名詞-普通名詞	D	N4
用意	同じものを2つ用意します。	准备	OJ0	サ変可能	D	N4
約束	約束を守らなかった。	约定	OJ0	名詞-普通名詞	D	N4
約束	会う事を約束した。	约定	OJ0	サ変可能	D	N4
空気	空気で酸化させないと発色しない。	空气	SJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N4
空気	その場の空気を読む。	气氛	NJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N4
専門	自分の専門に関わる授業ばかり選んでしまう。	专业	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N4
先輩	会社の先輩と食べに行きました	前辈	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N4
先輩	一年上の先輩である。	学长	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N4
失礼	くれぐれも失礼の無いように。	失礼	SJ0	名詞-普通名詞	O I	N4
失礼	失礼なこと言わないで	失礼	SJ0	形状詞	O I	N4
失礼	本当に失礼しました。	失礼	SJ0	サ変可能	O I	N4
失礼	お先に失礼します。	告辞	NJ0	サ変可能	O I	N4
趣味	服装の趣味が変わる。	趣味	SJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N4
趣味	趣味は読書です。	爱好	OJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N4
試験	今日はその試験の日。	考试	OJ0	名詞-普通名詞	D	N4
試験	抗菌効果を試験した結果を表2に示す。	试验	SJ0	サ変可能	D	N4
適当	夏は浴衣が適当でしょう。	合适	NJ0	名詞-普通名詞	O I	N4
適当	これを適当なところに保存。	适当	SJ0	形状詞	O I	N4
適当	朝食はほんと、適当です。	随便	NJ0	名詞-普通名詞	O I	N4

適当	練習も適当にやっています。	随便	NJO	形状詞	O I	N4
邪魔	他人の邪魔をしない。	妨碍	OJO	名詞-普通名詞	D	N4
邪魔	中小企業は大手農業には邪魔な存在だ。	干扰	NJO	形状詞可能	D	N4
邪魔	出会いを邪魔するな。	阻碍	OJO	サ変可能	D	N4
遠慮	最初の頃は遠慮があった。	客气	NJO	名詞-普通名詞	D	N4
遠慮	何かありましたら、遠慮せずご相談ください。	客气	NJO	サ変可能	D	N4
遠慮	ただし、名前を書くというのは遠慮しましょう。	拒绝	NJO	サ変可能	D	N4
留守	Fさんは、向かい側の店の人に留守を頼むと先に立って歩き出す。	看家	NJO	名詞-普通名詞	D	N4
人形	人形のある棚のパズル。	人偶	NJO	名詞-普通名詞-一般	D	N4
出席	本日出席の分科会委員は9名でございます。	出席	SJO	名詞-普通名詞	O I	N4
出席	雇用保険説明会に出席しました。	出席	SJO	サ変可能	O I	N4
出席	この出席は特に就学生クラスでは重要です。	出勤	OJO	名詞-普通名詞	O I	N4
正月	正月に実家に帰った。	新年	OJO	名詞-普通名詞-一般	D	N4
招待	イチゴ狩りへの招待を受けた。	邀请	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N4
招待	沖縄にご招待するのはいかがでしょう。	邀请	NJO	名詞-普通名詞-サ変可能	D	N4
規則	交通規則を守ります。	规则	SJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N4
規則	規則正しい生活。	规则	OJO	名詞-普通名詞-一般	O I	N4
熱心	熱心に指導していました。	热情	OJO	形状詞-一般	D	N4
水泳	学校では夏休みの水泳教室が始まりました。	游泳	OJO	名詞-普通名詞-サ変可能	N	N4
特急	特急の出発時間が迫る。	特快	OJO	名詞-普通名詞-一般	D	N4
特急	特急仕上げご相談ください。	尽快	NJO	名詞-普通名詞-一般	D	N4
下宿	下宿の部屋は狭い、ワンルームマンションである。	租房	NJO	名詞-普通名詞	N	N4
下宿	親戚の家に3年間下宿しました。	借住	NJO	サ変可能	N	N4
汽車	私たちは七時の汽車に乗った。	火车	OJO	名詞-普通名詞-一般	D	N4

木綿	白い木綿の繊維の中に種がある。	棉花	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N4
輸出	輸出産業にとっては、円高も不安要素です。	出口	OJ0	名詞-普通名詞	D	N4
輸出	米国・カナダに輸出する。	出口	OJ0	サ変可能	D	N4
自分	自分の責任だ。	自己	OJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N5
時間	食事をとる時間。	时间	SJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	O I	N5
時間	歩いたのは約5時間。	小时	NJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	O I	N5
意味	旅の意味がない。	意义	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N5
意味	白い猫は死を意味します。	意味	SJ0	サ変可能	O I	N5
意味	わかりますか？ この言葉の意味	意思	OJ0	名詞-普通名詞	O I	N5
意味	玄は黒を意味する言葉。	表示	OJ0	サ変可能	O I	N5
質問	いつから本を借りられるのですか？と質問を受けた。	提问	NJ0	名詞-普通名詞	D	N5
質問	英語の先生に質問してみてください。	提问	NJ0	サ変可能	D	N5
一番	野菜は国産がいちばん！	最好	OJ0	名詞	D	N5
一番	お客様のことを一番に考える。	最先	OJ0	副詞	D	N5
先生	学校の先生と話す時。	老师	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N5
先生	沖本先生は、大学の先輩です。	老师	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N5
大変	大変な事なのです！！	严重	OJ0	形状詞-一般	D	N5
大変	翻訳は大変な作業だ。	辛苦	OJ0	形状詞-一般	D	N5
写真	写真美術館	摄影	SJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N5
写真	写真を撮る	照片	NJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N5
結構	明日でも結構です。	可以	NJ0	形状詞	D	N5
結構	結構ハード。	相当	OJ0	副詞	D	N5
結構	慣れてくると、結構な距離が歩けます。	相当	OJ0	形状詞	D	N5
勉強	勉強を続けると、ある時、急に成長する瞬間があります。	学习	OJ0	名詞-普通名詞	D	N5

勉強	しっかり勉強したいと思います。	学习	OJ0	サ変可能	D	N5
勉強	何事も勉強なのです。	学习	OJ0	名詞-普通名詞	D	N5
料理	魚料理を食べたい	料理	SJ0	名詞-普通名詞	OIII	N5
料理	今度はアヒルを料理しようとする。	烹饪	NJ0	サ変可能	OIII	N5
新聞	新聞の書評欄とか	报纸	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N5
映画	映画を見たい。	电影	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N5
番号	電話番号	号码	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N5
元気	がんばれ！元気を出して！	精神	OJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	D	N5
元気	元気な赤ちゃん産んで下さい。	健康	OJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	D	N5
半分	煮汁が半分になるまで煮ます	一半	OJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	D	N5
大切	本当の自分を知ることほど大切なことはありません。	重要	OJ0	形状詞-一般	N	N5
大切	大切にして下さい。	珍惜	NJ0	形状詞-一般	N	N5
階段	階段を登り、東へ。	楼梯	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N5
階段	社内で出世の階段を登って行く。	阶梯	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N5
立派	公園内に立派な建物がある。	气派	NJ0	形状詞-一般	N	N5
立派	どんなに立派な人でも。	优秀	OJ0	形状詞-一般	N	N5
上手	空間を上手に使っている。	擅长	NJ0	形状詞-一般	D	N5
野菜	野菜をたっぷり入れて	蔬菜	OJ0	名詞-普通名詞-一般	D	N5
財布	財布を落としてしまった。	钱包	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N5
食堂	会社の食堂で三食食べて 525 円。	食堂	SJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N5
食堂	市場近くの食堂で食べたランチ。	餐厅	NJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	N5
茶碗	茶碗を先に温めて茶筌も温めます。	茶碗	SJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N5
茶碗	ご飯を食べるときには、茶碗が持てません。	饭碗	NJ0	名詞-普通名詞-一般	OIII	N5

宿題	そして、夏休みの宿題が山盛り。	作業	OJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N5
宿題	今後の宿題として、欧米の国で行われているように政策評価を発展させる。	課題	OJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N5
丈夫	たんぱく質は、丈夫な体作りに不可欠な栄養素。	健壮	NJ0	形状詞-一般	D	N5
丈夫	貼付け文字 ・ 丸洗いOK！ ・ 丈夫で長持ちです。	结实	NJ0	形状詞-一般	D	N5
今週	今週は雨ばかりだ！	这周	NJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	N	N5
交番	近くの交番に連絡した。	警亭	NJ0	名詞-普通名詞-一般	N	N5
十分	もう十分だ。	足够	NJ0	名詞-普通名詞-形状詞-一般	OIII	N5
十分	これだけで、十分楽しめました。	充分	OJ0	副詞可能	OIII	N5
十分	十分注意する。	充分	NJ0	副詞可能	OIII	N5
表示	忘れていないという意思表示です。	表达	NJ0	名詞-普通名詞	OIII	級外
表示	「OK」をクリックしてください。地図上に画像が表示されます。	显示	NJ0	サ変可能	OIII	級外
表示	分け方の手順の表示を必ず確認する。	标志	NJ0	名詞-普通名詞	OIII	級外
前述	前述のように冬の朝夕は大変冷え込みます。	上述	NJ0	名詞-普通名詞-サ変可能	N	級外
解消	事故時も安心！ あなたの不安を解消します。	消除	OJ0	サ変可能	N	級外
解消	ストレス解消にもなった。	消除	OJ0	名詞-普通名詞	N	級外
想定	自然は時に、人の想定を超えます。	设想	NJ0	名詞-普通名詞	N	級外
想定	人々がパニックになることを想定している。	假设	OJ0	サ変可能	N	級外
認定	認定手続き	认定	SJ0	名詞-普通名詞	D	級外
認定	報告書は会社の金が使われていた、という事実を認定した。	承认	OJ0	サ変可能	D	級外
大将	敵の大將を倒せば勝ち。	大将	SJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	級外
大将	でも、店の大将がこう言いました。	头儿	NJ0	名詞-普通名詞-一般	O I	級外
示唆	これらは筆者に新しい示唆をもたらした。	启示	NJ0	名詞-普通名詞	N	級外
内面	美しくなるためには、体の内面から綺麗にならなければいけない。	内部	OJ0	名詞-普通名詞-一般	N	級外

内面	あなたの内面の世界は、人生の基盤です。	内心	OJO	名詞-普通名詞-一般	N	級外
探偵	その頃毛利探偵事務所では。	偵探	NJO	名詞-普通名詞	N	級外
一段	この章は一段の吟味が要る章である。	一段	SJO	名詞-普通名詞	O I	級外
一段	金管楽器は一段高い音に聴こえる。	更加	NJO	副詞可能	O I	級外
一段	すると娘はいいやいやながらも一段ずつ階段を下り始めました。	一級	OJO	名詞-普通名詞	O I	級外
検証	それを明確にするために以下の検証を行った。	検証	NJO	名詞-普通名詞	N	級外
検証	さまざまな角度から安全性を検証してみる必要があります。	検証	NJO	サ変可能	N	級外
制御	感情の制御ができないのでしょうか。	制御	OJO	名詞-普通名詞	N	級外
制御	人のせいにしたくなる感情もあると思いますが、それを制御するのは大人です。	制御	OJO	サ変可能	N	級外
制御	油圧制御装置を操作する。	制御	OJO	名詞-普通名詞	N	級外
制御	Java アプリケーションから機器を制御する方法はありますか？	制御	OJO	サ変可能	N	級外
拍子	大きく2拍子に感じて弾く。	牌子	SJO	名詞-普通名詞-一般	OIII	級外
拍子	その拍子に、左肩を怪我してしまいました。	时候	OJO	名詞-普通名詞-一般	OIII	級外
実体	実体の無いものは妄想なのです。	实质	OJO	名詞-普通名詞-一般	D	級外
体調	体調がよくないです。	身体	NJO	名詞-普通名詞-一般	N	級外
調達	初めての資金調達方法！	筹措	NJO	名詞-普通名詞	N	級外
調達	2回で2億円の資金を調達した。	筹措	NJO	サ変可能	N	級外
調達	生活物資を調達するためのスーパーがどの程度の距離にあり、不便がないか。	供应	NJO	サ変可能	N	級外
提起	此が今回の訴訟提起の論点だった。	提起	SJO	名詞-普通名詞	OIII	級外
提起	場合によっては訴訟を提起します。	提起	SJO	サ変可能	OIII	級外
提起	最初の問題提起を受けて。	提出	OJO	名詞-普通名詞	OIII	級外
提起	現状を説明し、問題を提起する。	提出	OJO	サ変可能	OIII	級外
寢室	でも玄関にスーツケース？ムリムリ～！そうだ！寢室に置けばいいんだ！	卧室	NJO	名詞-普通名詞-一般	D	級外
愛人	父の多くいる愛人の一人。	情人	OJO	名詞-普通名詞-一般	D	級外

四方	部屋の四方に置いて結界を張る。	周围	OJ0	名詞-普通名詞	O I	級外
四方	すると、四方から風が吹いてきて、それがその人々の体の命となりました。	四方	SJ0	名詞-普通名詞	O I	級外
破綻	婚姻の破綻の定義とは？	失敗	OJ0	名詞-普通名詞	D	級外
破綻	保険会社が破綻するとどうなる？	破産	OJ0	サ変可能	D	級外
破綻	妻との婚姻関係が破綻していた。	破裂	OJ0	サ変可能	D	級外
嫌悪	今でも男性と接触する事に嫌悪を感じます。	厌恶	NJ0	名詞-普通名詞	N	級外
嫌悪	誰もが自分の住まい近くにゴミ処理場が作られることを嫌悪する	讨厌	NJ0	サ変可能	N	級外
特異	日本建築の中で特異な存在である。	特別	OJ0	形状詞可能	OIII	級外
特異	アレルギーなど特異体質のある人。	特別	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	級外
特異	たった一つだけ特異な能力を持てるとしたら何がいいですか？	卓越	OJ0	形状詞可能	OIII	級外
特異	特異の才能の持ち主たちとっていた。	卓越	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	級外
頻度	更新の頻度が低いので。	频率	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	級外
物件	物件を見に行った。	房子	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	級外
到来	高齢化社会の到来と医薬品への要求。	到来	SJ0	名詞-普通名詞	OIII	級外
到来	決算日が到来する前に社長と共に翌期の予算を作成します。	到来	SJ0	サ変可能	OIII	級外
一夜	夢島で一夜を過ごした。	一夜	SJ0	名詞-普通名詞	O I	級外
不能	全く理解不能だ。	不能	SJ0	名詞-普通名詞-形状詞可能	OIII	級外
送信	メールを送信します。	发送	OJ0	サ変可能	D	級外
送信	じゃあ、送信ボタンを押すよ。	发送	OJ0	名詞-普通名詞	D	級外
念頭	この句を念頭に置け。	欣赏	NJ0	名詞-普通名詞-一般	D	級外
麻薬	麻薬を使用している病院等の施設での、管理全般が主な仕事。	麻药	SJ0	名詞-普通名詞	O I	級外
麻薬	麻薬の密売の事実が発覚する。	毒品	NJ0	名詞-普通名詞	O I	級外
一線	一線を越えなければ、浮気と思ってないようです。	界线	OJ0	名詞-普通名詞	OIII	級外



一線	大災害や大事件、戦争などが起きると、一線の記者は命がけで取材をする。	一线	SJ0	名詞-普通名詞	0III	級外
効用	私は笑いの効用を信じています。	效果	OJ0	名詞-普通名詞	0I	級外
効用	浜町集会施設の効用を最大限に発揮できること。	用途	OJ0	名詞-普通名詞	0I	級外
一端	ゴムひもの一端を固定し。	一端	SJ0	名詞-普通名詞	0I	級外
当面	当面は独学のつもりです。	目前	OJ0	副詞	D	級外
往来	車や人の往来が多いです。	往来	SJ0	名詞-普通名詞	0I	級外
往来	最終的に、かなりの数の車が往来することになります。	往来	SJ0	サ変可能	0I	級外
往来	が、ソヴィエトの若い人間は往来で接吻するようなことはない。	马路	NJ0	名詞-普通名詞	0I	級外
貸借	貸借対照表である。	借貸	OJ0	名詞-普通名詞	N	級外
担任	小学3年生を担当しています。	担任	SJ0	サ変可能	0I	級外
担任	普通地方公共団体の長は、概ね左に掲げる事務を担当する。	负责	NJ0	サ変可能	0I	級外
浮上	相性の問題が浮上する。	浮现	NJ0	サ変可能	0I	級外
浮上	ご存知の通りカーブはなかなか浮上のきっかけをつかめません。	出現	OJ0	名詞-普通名詞	0I	級外
浮上	何年前にもドラマ化の話が浮上した『桜蘭高校ホスト部』。	出現	OJ0	サ変可能	0I	級外
最期	それが、最期の言葉だった。	临终	OJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	N	級外
暴走	誰か、この天才の暴走を止めて下さい	发飙	NJ0	名詞-普通名詞	N	級外
暴走	姫川が仕事で暴走しそうになったら抑えるし、投げ捨てたジュースも拾ってあげるし、バックも持ってあげます(笑)。	发飙	NJ0	サ変可能	N	級外
一遍	いっぺん博多の店でイカを食べてみたら?	一次	OJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	0I	級外
一遍	通りいっぺんでない、なかなか読みごたえのあるものだった。	表面	NJ0	名詞-普通名詞-副詞可能	0I	級外
遺産	遺産の総額は1億円です。	遗产	SJ0	名詞-普通名詞-一般	S	級外
高値	イタリア製が高値の理由の1つだ。	高价	OJ0	名詞-普通名詞	N	級外

## 謝 辞

一橋大学庵功雄先生には、著者の指導教官として、論文の構想から完成に至るまで、また表現の細部まで温かいご指導、ご助言を頂き、今日本論文を完成させることができました。ここに深く感謝申し上げます。

一橋大学の太田陽子先生には、副指導教官を引き受けて頂き、本論文の構想段階で貴重なご助言を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。

首都大学東京の奥野由紀子先生には論文に関する助言、また、調査の指導に至るまで様々な面でご指導を頂きました。心より感謝申し上げます。

また、大学の先輩である国立国語研究所の宮部真由美先生と一橋大学国際教育交流センターの早川杏子先生、お二人の先生には、質問紙の作成や調査の実施などに関するご助言を頂き、また、学会発表の際にも相談に乗っていただきました。厚く御礼申し上げます。

国立国語研究所の山崎誠先生と早稲田大学の今井新悟先生には、統計に関する貴重な助言を頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。

そして、母語話者チェックをしてくださった後輩の三好優香さん、本当にありがとうございました。

調査にご協力くださった中国河南師範大学に在籍する日本語学部の皆様に深く感謝致します。皆様のご協力がなければ、この論文は完成に至りませんでした。

最後に、私事ではありますが、私のわがままに付き合い、いつも支えてくれた両親に、感謝の気持ちを込めて……、ありがとうございました。

陳夢夏

2019年11月29日